

030309その他の建設業－その他における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2022	1	6 ～ 8	ダンプトラックのあおりに鉄製の仮付けした側板をドラグ・ショベルのバケツで押す作業を複数回行っていったところ、荷台上の鳥居の位置にいた被災者にバケツが接触し、そのまま押されて、被災者がバケツと鳥居の間に挟まれ被災したものの。	142	7	1～9
2022	1	14 ～ 16	被災者は事業場から客先（病院関係）へ機械のメンテナンス等のため、事業場所有の車を運転し、昼頃に出発した。高速道路を走行中に、何らかの原因により運転していた車が横転し、被災者は頭などを強く打って病院へ搬送されたが、死亡したものの。事故当時、路面は一部がシャーベット状であった。	231	17	1～9
2022	1	12 ～ 14	木材用プレカット機械の解体中、被災者は機械の搬出ラインのフレームを搬出できる大きさにガス溶断し、分割していた。分割したフレームを被災者とは別の作業者がフォークリフトを用い搬出しようとしたところ、被災者が溶断を行っていたフレームと搬出しようとしたフレームが未切断の状態であったため、溶断中のフレームがともに動き、ガス溶断中の被災者が動いたフレームと当該機械のフレーム等に挟まれ被災した。	222	6	10～ 29
2022	1	14 ～ 16	建物屋上の防水工事を行っていた労働者が、高さ約7.5m下のコンクリート地面に倒れている状態で発見されたもの。直前の作業状況等から屋上端から墜落したものと推測される。	418	1	1～9
2022	2	12 ～	国道で、被災者が運転するトラック（碎石積込済）が工事現場の手前で止まっていた軽トラックに追突し、さらに前方にあったロードローラーに衝	221	17	10～

		14	突したものの。事故現場は県発注の道路舗装工事が行われており、片側相互通行を実施中であった。			29
2022	3	18 ～ 20	被災者は、翌日から開始される工事のため、前泊予定地の宿泊施設に向かって運転中、意識が朦朧となり路上に停止した。同乗していた同僚が降車し、運転を交代しようとしたところ、突然車が発進した。他の車両を巻き込みながら、約700m蛇行して中央分離帯、左側壁に衝突した。事故後、意識不明の状態では病院に運ばれたが、外傷性出血性ショックにより数時間後に死亡したものの。	231	17	10～ 29
2022	4	14 ～ 16	打合せ協議先から帰社途中乗用車を運転中、センターラインをはみ出し大型車との正面衝突事故で死亡した。	231	17	1～9
2022	4	14 ～ 16	事業者Aの不要な配管を撤去する工事現場において、被災者がその他の作業員と2人で配管を切断する作業をしていたところ、切断しながら立ち位置を移動する際、足場にしていた配管から落下し約5.2メートル下の地面に墜落したものの。なお、被災者はハーネスを着用していたが、使用していなかった可能性が高い。	419	1	1～9
2022	4	16 ～ 18	RC造3階建ての建物を解体用機械を用いて解体作業中、2階から3階部分のコンクリートを破砕していたとしたところ、解体箇所の上部にあった塔屋が解体用機械の運転席に向かい倒壊し、運転席にいた被災者が挟まれ死亡したものの。	145	5	1～9
2022	5	14 ～ 16	既存建物解体工事のエレベーター昇降路内にて、地下2階と地下1階の間の鉄骨上で足場組、段取りのため、地下2階に止めたエレベーター搬器に取り付けられたワイヤーを外す作業をしていた。ワイヤーを外した直後、エレベーターが1m程落下した。その後、昇降路頂部からワイヤーと部品が落下し被災者を巻き込みエレベーターの上に落下し左腕を切断、病院に搬送されたが死亡したものの。	214	4	10～ 29
		12	被災者は汚泥処理プラント設備工事の作業を終え、トラックに乗車し所属事業場に戻る途中、高速道路出口付近で、2車線の右出口側に渋滞で並ん			

2022	5	～ 14	でいたトレーラーに追突した。被災者は追突の衝撃で道路へ投げ出され、病院に搬送されたが、その後死亡が確認された。	221	17	1～9
2022	5	～ 16 18	解体工事現場において、被災者は2Fの庇（高さ5m、幅50cm）の上で作業中、壁のレンガが崩壊したため、当該レンガとともに5m下の歩道に墜落し、被災した。その後、病院へ搬送されたが、同日、出血性ショックにて死亡したもの。	418	5	1～9
2022	6	～ 22 24	除去土壌に改質剤を混ぜるミキサの清掃作業において、被災者がミキサ内部に入り清掃していたところ、作業エリア外を歩行している者を被災者であると誤認した同僚が、被災者はすでに作業エリアから退避しているものと考え、ミキサの運転を開始させたため、ミキサに巻き込まれ被災した。その後、病院にて治療を受けていたが、後日、多発外傷のため死亡が確認されたもの。	169	7	10～ 29
2022	7	～ 8 10	アトラクションの電気及び圧縮空気配管の据付工事現場において、木箱に入った配電盤（重さ約2.3t）をトラックからフォークリフトで荷下ろしする際、荷が傾き倒れ落ちそうになったため、すぐ横で作業を見ていた被災者が支えようとしたところ、支えきれず落ちてきた荷の下敷きになったもの。	222	4	10～ 29
2022	7	～ 10 12	被災者は、太陽光発電所建設工事において、他の労働者1名と太陽光パネルを運ぶ作業を行っていたとき、体調不良となり、病院に搬送された。（熱中症）翌日、死亡が確認された。	715	11	30～ 49
2022	8	～ 10 12	小学校1階の職員トイレの男女の境界壁の解体作業において、高さ1.5メートルのステージを設けて、ステージ上でブレイカーを用いて壁の破碎作業を行っていたところ、被災者はステージ上に倒れこみ、壁と反対側からコンクリートの床に転落し死亡したもの。被災者は違法な派遣労働者として派遣されていた。	411	1	10～ 29
		12	当該事業場は、川から港へポンプで水を汲み上げて排水する施設である。汲み上げた水から取り除いたごみや水草等は、コンベアでホッパーに移動			30～

2022	8	～	14	させる。被災者は一人で、ポンプ周りを清掃・点検することになってい た。被災者の同僚が他施設の点検を終え戻ってきたところ、被災者が左腕 をコンベアに巻き込まれているのを発見した。	224	7	49	
2022	9	8	～	10	荷揚げウインチ取付用架台（くさび式足場の部材で構成）の解体におい て、被災者は架台右部と左部をつなぐ4段の単管パイプ（上から1段目の 単管パイプは撤去済みの状態。）のうち上から3段目（高さ約4メート ル）に載り、上から2段目（高さ約6メートル）の単管パイプと「同単管 パイプに直行する建地パイプ」を固定するクランプを外していたところ、 上から3段目の単管パイプの上から墜落したものと推察される。	419	1	10～ 29
2022	9	6	～	8	準中型トラックに2名が同乗し、建設現場に向かうため、高速道路を走行 していたところ、左側走行車線で横転した。運転手は首の骨を折るなど の重傷、同乗していた労働者が死亡した。	221	17	1～9
2022	10	10	～	12	個人住宅の外壁等補修工事現場で、屋根の塗装下地の塗布作業を行って いた労働者に係る墜落災害。被災者や落下物の位置関係から、現場西面の高 さ約5.8mの屋根の端から墜落した可能性が高いが、災害発生直前は被 災者は単独で作業しており目撃者がおらず、正確な作業位置は不明。約 4.6mの抱き足場で作業中に墜落した可能性もある。なお、被災者は墜 落制止用器具及び保護帽のいずれも着用していなかった。	419	1	1～9
2022	11	10	～	12	被災者は、ボイラーの排ガス冷却塔内において、堆積物を除去する作業を 行っていたところ、冷却塔から集じん機へつながるダクトが折損し、その 際、堆積物に埋もれたもの。	719	5	1～9
2022	11	10	～	12	被災者は、ボイラーの排ガス冷却塔内において、堆積物を除去する作業を 行っていたところ、冷却塔から集じん機へつながるダクトが折損し、その 際、堆積物に埋もれたもの。	719	5	1～9
2021	1	～	14	～	災害発生場所において、廃棄物焼却炉のロータリーキルン内部で炉内壁面 に付着したクリンカを削り落とし除去を行っていた現場内で、除去したク リンカのガラをロータリーキルン端部へ運搬する作業を行っていた被災者 がロータリーキルン出口側にある2次室下部の深さ1mの水のたまった	416	1	1～9

		16	プールに浮かんでいる状態を発見、救出され救急搬送されたものの死亡が確認されたもの。発生時の状況からキルン出口から墜落したとみられるもの。			
2021	1	8 ～ 10	被災者は、資材置場から約3メートル下の用水路に倒れているところを発見された。後日、死亡が確認された。	414	1	1～9
2021	1	14 ～ 16	現場（敷地内の立木の伐採、剪定および1階テナントの資材搬出の作業などを行う）に、一人で入場していたところ、どこかから墜落して、顎を裂傷し、数時間後に急性心臓死に至ったもの。被災者には糖尿病の持病があり、診察した医師によると、墜落の外傷により心臓に負担がかかり心筋梗塞を発症した、又は、心筋梗塞を発症した後に墜落した、どちらの可能性も考えられるとのこと。	999	99	1～9
2021	2	10 ～ 12	ゴルフ練習場建屋の屋根の除雪作業において、除雪用スコップを持ったまま、同建屋の西側にあるコンベヤ室の北側を西から東方向へ移動していたところ、同コンベヤ室の屋根に積もっていた高さ約2mの雪が滑り落ち、それに巻き込まれる形で、被災者が高さ約4.1mの屋根から墜落した。	719	1	1～9
2021	2	12 ～ 14	被災者が鉄塔のアーム上（高さ約8.6m）において、塗装作業等に使用する部材の受け取り、取り付け作業に従事していたところ、地上へ墜落したものの。	418	1	30～ 49
2021	4	12 ～ 14	ワゴン車の前部がトンネル出入口のコンクリート面に衝突した状態で発見された。工事現場で打ち合わせ後、自らが運転して自社営業所に向かっていった。現場付近の数十メートル手前から道路を逸脱した箇所にタイヤ痕があった。法定速度は時速40キロメートルのところ警察署の見立てでは当該ワゴン車の速度は時速70ないし80キロメートルであった。シートベルトを装着していなかった。	231	17	1～9
2021	5	10 ～	被災者は、足場上において、先端にワイヤバフを取り付けた手持ち式グラインダを用いて、鉄骨の梁や柱のロックウール除去作業をしていたが、首元にワイヤバフの先端が巻き付き、足場下に墜落した状態で意識不明で発	153	7	1～9

		12	見された。後日死亡。			
2021	5	14 ～ 16	事業場A内の発電所内において、定修工事として、排ガス硫黄分を吸収する吸収塔の下段エレメントの水洗作業をエレメント（ポリプロピレン製、200cm×50cm、厚さ19cm）の上に敷いた足場板（160cm×20cm）を移動させながら行っていたところ、被災者が足場板から足を踏み外してエレメントに乗った際にエレメントが割れ、30.2mの高さから塔底部に墜落した。	391	1	1～9
2021	6	18 ～ 20	被災者は、窒素パージされていた反応器の内部で酸素欠乏症により倒れている状態で発見され、その後死亡が確認されたもの。	714	12	10～ 29
2021	6	8 ～ 10	代表取締役及び被災者がトラックの荷台にあるプレコンバッグを重機を使用しておろす作業を行っていた。被災者がトラックに備え付けられたはしごにて昇降していたところ、代表取締役がトラックと重機の距離を近づけるため、当該トラックをバックさせ、被災者がはしごから墜落した。被災者は病院に搬送されたが、災害発生日の数日後、脳挫傷により死亡した。	221	1	1～9
2021	7	8 ～ 10	段ボール製品製造機械の解体に係り、被災者は他作業者とともに、同機械に組み込まれている昇降コンベアの撤去を行おうとしていた。被災者は、同一昇降路に上下2段ある昇降コンベアの下段コンベアに乗り、その上にある上段コンベアを撤去するため、コンベアを昇降させるリンクチェーン（ボルト止め）のボルトを外したところ、上段コンベアが落下してその下敷きになった。	169	4	30～ 49
2021	7	12 ～ 14	工事現場で使用されていたタイヤ洗浄機の引き取り作業を依頼されたため、ラフタークレーンを運転して現地に向かい、現地においてトラック荷台への積み込み作業を終えた後、自社（木留リース）へ帰るため村道を走行中に、緩やかな右下りカーブを通りかかった所でバランスを崩して横転、ガードレールに激突して停車した。被災者は、運転席上部のフレームに頭を強打するなど、頭部外傷により死亡したもの。	212	17	1～9

2021	7	16 ～ 18	墓地改修工事にて、被災者がカニクレーンを操作し、墓地出入り口階段手前まで移動させていたところ、当該階段からカニクレーンが落ち、階下に停めてあったユニッククレーンと落ちてきたカニクレーンの間に挟まれて死亡したもの。	212	7	1～9
2021	7	18 ～ 20	被災者は、工事伝票等の書類を届けるため、自家用車に乗って事務所から代表者宅に向かっていたところ、道路端の電柱に激突し死亡したもの。	231	17	10～ 29
2021	7	10 ～ 12	建屋解体工事現場で、飛散防止シートを設置するため、単管にて養生枠を組立中に、工場内への200V引込線に接近して感電死亡したもの。被災者は足場から墜落し墜落制止用器具により宙づり状態となった。	351	13	1～9
2021	8	16 ～ 18	学校の配管工事作業において、被災者が一人で脚立を使用し、3階トイレの天井裏の配管工事の完了を記録する写真撮影を行っていたところ、バランスを崩して転落したと推定されるもの。	371	1	1～9
2021	8	16 ～ 18	幼稚園・体育館改修工事、外構工事において、作業員がコンクリートミキサー車後方で作業中、コンクリートの搬入を終え場外に移動するため後退したコンクリートミキサー車左後輪に巻き込まれ被災したもの。	221	7	1～9
2021	8	14 ～ 16	現場代理人が、ブルーシートの設置のため、被災者及び一次下請の労働者に対して骨材タンクの屋上に登るように指示を行い、現場代理人を含む3名が、足場、架設通路を利用し骨材タンクの屋上に登ることになった。現場代理人が足場から屋上に移動し、被災者も続いて屋上に移動しようとしたところ、足場と躯体の間にあった開口部（縦87cm、横56cm）から、約11m下の地面まで墜落し死亡した。	411	1	1～9
2021	9	12 ～ 14	現場は、リサイクルショップの看板撤去工事を行うものであるが、高さ約5メートルの足場上で、足場の解体作業を行っていた被災者が、同足場から墜落したもの。足場は、電柱を囲うように設置されていたが、被災者が墜落する前に「バチッ」という音が鳴っており、また、被災者の左手、左脇、左足外側のくるぶしには、火傷の痕が残っていた。	351	13	1～9
			被災者は現場作業終了後、傾斜約12度の坂道に停車させていた軽トラッ			

2021	9	14 ～ 16	クに1人で乗車した後、同軽トラックは、徐々に速度を上げながら、減速することなく坂道を約7.5m下り、道路を横断して直進し、バス転回所へ進入後、約1.6m先の鉄柱に正面から激突したものの。被災者は上半身を強打し、心破裂により死亡した。	221	17	1～9
2021	10	14 ～ 16	製錬所内の二次貯鉱舎内において、被災者と同僚はベルトコンベヤーの架台の筋交い補修作業を行い、被災者が高所作業車（最大能力2.2m）のバケット内で当該筋交いの塗装作業、同僚が地上で片付け作業に従事していた。同僚が物音に気付き確認したところ、被災者が筋交いと高所作業車のバケットに挟まれた状態であった。その後、救急搬送されたが死亡が確認された。	146	7	10～ 29
2021	10	16 ～ 18	ダムの湖岸にボート関連施設を造るため施工予定地の雑木や草木を草刈機で刈る作業を行っていたところ、傾斜角約50度、水面からの高さ1.38mの斜面で作業を行っていた被災者が湖面に墜落し、溺死したものの。	713	10	10～ 29
2021	11	16 ～ 18	ヤード内に設置されたパイプ棚の前で、倒れていた被災者を別作業員が発見したもの。	416	1	1～9
2021	11	10 ～ 12	工場の解体工事において、床を解体したコンクリートの塊（長さ約4.1メートル×約2.7メートル、厚さ約0.15メートル）を解体用つかみ機で立てた状態でつかみ、右に旋回して地上に置いた際に倒れ、被災者に激突したものの。	145	6	1～9
2021	12	10 ～ 12	脚立（全高2.03メートル）を下りる途中、足元が下から2段目（床からの高さ0.50メートル）の位置でバランスを崩して墜落し、後頭部を床面に強打したものの。	371	1	1～9
2021	12	12 ～ 14	被災者は、火力発電所のボイラー煙道内部における煙道と煙突との境界部分で、下請事業場所属作業員の作業状況を確認中に煙道から高さ7.3メートル下の煙突底面へ墜落したものの。	418	1	1～9
			直径5mm～15mm径の碎石が入ったサイロ内ではしごの取り付け作業			

2021	12	10 ～ 12	を被災者2名（なお、被災者1名は事業主）を含め3名で行っていた。サイロの下部にある排出口が、生コンプラントの砕石の補充のために自動で開かれた。排出口が開かれたことにより、砕石が下に流れ落ち、その流れに被災者2名も巻き込まれ砕石内に生き埋めとなり死亡したもの。	523	5	1～9
2021	12	10 ～ 12	発注者は、強風で屋根破損部を覆っていた鉄板がずれたため被災者所属事業場に修繕の下見に来てほしいと依頼した。被災者所属事業場は被災者を現場責任者として他1名と現場に行かせた。発注者は固定梯子からの目視のみでよいと指示していたが、被災者はスレート屋根上に乗り移ったようで、屋根に穴が開き、8.6m下の1階工場床面に被災者が倒れているのを作業中の発注者の労働者が見つけた。	415	1	1～9
2020	1	14 ～ 16	被災者は、工場内において、2名の労働者とダクト工事のため下見を行っていた。下見は現場に設置された作業ステージ上で行っていたが、被災者は作業ステージの安全柵を越えて、骨組みの構造物の上で、ダクトを確認していたが、L形鋼にかけ渡してあった石膏ボードに乗ったところ、石膏ボードが割れ、約4メートルの高さから墜落した。	418	1	10～ 29
2020	2	8 ～ 10	工場内で、起動装置製作作業用足場の組立・解体作業を請け負っていた元方事業場の現場責任者である被災者が、組み立て作業中の足場1層目（高さ195cm）の作業床未設置の開口部（85cm×116cm）から墜落し、死亡したもの。	411	1	10～ 29
2020	2	14 ～ 16	被災者は、外構工事で使用する堆肥を、トラッククレーンで運搬する業務に従事していた。後日、被災者は、自社倉庫でトラッククレーンの荷台とフォークリフトのパレットに挟まれているのを発見され、病院へ搬送されたが死亡した。	222	7	1～9
2020	2	18 ～ 20	社用車を運転して現場から事務所に戻るため国道を走行中、当該社用車がスリップし道路を塞ぐように停車したところに、後続の20tトラックが運転席側面に衝突、更にトラックの後続車両2台が衝突した。	231	17	1～9
2020	2	14 ～	浄化槽更新工事において、浄化槽の配電盤の制御部品取り換え作業中、現場代理人が、浄化槽内に溜まっていた汚水の中から発見されたもの。死因	414	10	1～9

		16	は溺死。			
2020	2	8 ～ 10	被災者は、資材置き場において他の作業員と2名でつり上げ荷重2.63トンの車両積載型トラッククレーンを操作して、木の枝の束（重量：約250～350kg）を荷下ろししていたところ、吊り荷が強風にあおられ（平均風速は調査中。）、トラッククレーンが転倒し車体と地面の間にはさまれ、外傷性窒息により死亡したものの。	212	7	30～ 49
2020	3	14 ～ 16	水管橋歩廊上にて足場解体後の資材を一輪車にて運搬作業中、前方で別の一輪車を押していた作業員が停止していたため、追い越そうと歩廊の手すり（高さ90センチメートル）を乗り越えて、歩廊外にある水管橋の横桁を移動しようとしたところ、バランスを崩し当該横桁上（高さ約13メートル）から墜落した。	418	1	1～9
2020	3	8 ～ 10	亜鉛のリサイクル工場新築工事現場において、設備設置工事のため現場内を歩行していた作業員が、亜鉛インゴットの試作運転中の保持炉の脇を通り抜けようとしたところ、産業用ロボットのバケットに押し出され、高温の溶融亜鉛の入った保持炉内に転落した。当該産業用ロボットのバケットは炉内の溶融亜鉛を汲み出して金型に流し込むためのもので、安全柵を設置される前であった。	167	11	10～ 29
2020	3	18 ～ 20	一次下請けとして入場している設備工事現場の帰途、作業員1名が市内の自社倉庫に立ち寄った。同作業員の帰社が遅いことから、心配した同僚が同倉庫に見に行ったところ、倉庫内で大量の配管パイプが倒れており、同作業員が倒れた配管パイプと傍の階段手摺との間に挟まれているのを発見したもの。発見時には意識と呼吸がなく、救急搬送先の医療機関で死亡が確認された。	521	5	1～9
2020	4	18 ～ 20	ワゴン車に8人が乗り合わせ、工事現場から営業所へ戻るため、高速道路上り線を走行中、曲線路部分でスリップして側壁に衝突し、車外に投げ出された2人が死亡し、他の6人が負傷した。	231	17	30～ 49
2020	4	18 ～	ワゴン車に8人が乗り合わせ、工事現場から営業所へ戻るため、高速道路上り線を走行中、曲線路部分でスリップして側壁に衝突し、車外に投げ出	231	17	30～

		20	された2人が死亡し、他の6人が負傷した。			49
2020	4	14 ～ 16	化成肥料工場内の廃肥料搬送用ベルトコンベアのかさ上げ・アジャスト工 事において、被災者は、仮設単管足場の作業床でコンベアアングルの仕上 げ塗装作業を行っていたところ、作業床の脇で稼働中のため回転していた 冷却キルンの胴体外側に取付けてある剥離用ハンマーに、着用していた安 全帯ランヤードが引っ掛かり、キルンの回転に巻き込まれた。キルンの上 部で安全帯ランヤードに吊られた状態で被災者が発見された。	162	7	1～9
2020	5	8 ～ 10	被災者と代表者の2人は、製氷施設2階貯氷庫において、氷で押し上げら れ、閉まらなくなっていた鋼製ゲートを下げるため、代表者は、1階で氷 搬出装置の操作、被災者は、ゲート東側支持水平材の乗り、ゲート西側に 溜まっていた氷を竹棒で叩いて除去をしていた。1階にいた代表者が2階 に様子を見に来たところ、被災者がゲートと貯氷庫の柱の間に挟まってい たの発見した。	391	7	1～9
2020	5	14 ～ 16	窒素パージされていたタンクの上部のマンホールを開放し、縄梯子を使用 して、タンク内に入槽した後、仰向けで倒れた状態で発見された。	714	12	100 ～ 299
2020	5	12 ～ 14	火力発電所の定期検査にて使用する人荷用エレベーターが1階から1. 3 5 m上昇して停止したため、被災者が単独で脚立を使用し、脚立若しくは エレベーター柵に足を掛けて停止したエレベーターの搬器の扉にもたれて 確認していたところ、突然、エレベーターが上昇したため、被災者は、支 えを失い墜落した。	214	1	1～9
2020	5	10 ～ 12	テント倉庫の屋根の修繕作業を作業員5名で行っていた。うち1名が作業 のために屋根の上にあった。他の4名が地上で作業に従事していたところ、 突然、テント倉庫内から衝撃音が響き、その方へ駆けつけると、屋根上に 上がっていた作業員がコンクリートの床に倒れていた。直ちに救急搬送さ れ、搬送先で死亡が確認された。	415	1	1～9
		12	リチウムイオン二次電池の部材を製造する設備の撤去作業において、当該			

2020	6	～ 14	設備の内、メチルエチルケトンを用いていた処理槽の解体のため、プラズマ溶断を仕掛けていた被災者が、爆発により吹き飛ばされ、死亡したものの。	512	14	10～ 29
2020	7	～ 12	地下変電所の変圧器搬出作業に使用するための門型仮設吊架台（電動チェーンブロックで吊り上げ、電動ローラーに載せて横引きする装置）の仮組工事において、組立て中の門型架台が倒壊し、合図や補助作業をしていた被災者が倒れてきた鋼材に腹部を強打されたもの。	419	5	1～9
2020	7	～ 22	工場火災により生じた壁のすす等の除去を請け負った事業場の労働者が高所作業車を使用して作業を行っていたところ、突然被災者の作業箇所付近に設置された天井のスプリンクラーが作動した。異変に気付いた同僚がスプリンクラーを停止させ、高所作業車のバケットを地上から操作し、降ろしたが乗っていた被災者はすでに意識が無く、搬送された病院で死亡が確認された。	146	3	10～ 29
2020	7	～ 2	特定貨物運送業務（ダンプで残土運送）に従事中、残土捨場敷地内（受付事務所到着前）の4車線道路上でダンプを止め降車し、荷台の残土養生用シートを外し、同車後方2～3mで、当該シートを折り畳み丸めていたところ、後方から来た別会社のダンプにひかれ、轢死した。	221	17	10～ 29
2020	8	～ 14	現場は店舗新築に伴う敷地の開発工事である。被災者は現場作業員として、敷地に隣接した歩道の切下げに伴う清掃作業に従事していた。お昼頃、被災者は休憩のため付近にあった公園の水飲み場に歩いて移動したところ、その途上、公園内にて倒れた。被災後は直ちに病院に救急搬送、重度の熱中症と診断され治療継続されたが翌日に死亡した。	715	11	10～ 29
2020	8	～ 12	労働者3名は、LNG基地現場から沖合に位置する荷役作業場の建設現場において、海面約3mの高さにつられたH型鋼を海面に降ろす作業を行っていた。同3名はH型鋼に浮き及びチェーンブロックを取り付ける作業を行っていたが、突然、2か所あるチェーンブロックのうち1か所が外れ、残り1か所も抜け落ち、H型鋼と一緒に3名とも転落しそのうち1名が死亡した。	361	4	10～ 29

2020	9	16 ～ 18	発電により発生した排ガスと石灰を化学反応させて、硫黄分を取り除くための設備である吸収塔の液室内部の清掃作業を行っていた際に、建屋上部に付着していた石膏スケールが高さ8m以上の箇所から被災者の頭部に落下したものの。	911	4	30～ 49
2020	11	12 ～ 14	支店内において、労働者4名が、発生当日の準備作業後、一時的に翌日に行う電柱基礎工事の準備作業を行っていた。その際、準備作業の隣で、建柱車の定期検査中に、オーガの格納用ワイヤーロープが切れ、オーガが振り子のように大きく振れ、隣で作業していた被災者に激突したものの。	143	3	50～ 99
2020	11	12 ～ 14	被災者は仮設電源のケーブル敷設作業を行っていた。1階鉄骨天井へ番線固定する際に、工事用エレベーター外柵に足をかけ、工事用エレベーターの搬器上の手すりに墜落制止用器具のフックを掛け作業していたところ、工事用エレベーター起動し搬器が上昇して高さ約20メートルまで吊り上げられ、2階スラブに引っかかった。その際、装着していた墜落制止用器具により胸部を圧迫され窒息し死亡したものの。	214	7	1～9
2020	11	12 ～ 14	屋根補修工事において、被災者は、所属事業場から持参した屋根材の折板を、トラックの屋根にのぼり、高所作業車上の作業者に渡す作業をしていた。その際、トラックの屋根から転落し、死亡した。	221	1	10～ 29
2020	12	8 ～ 10	被災者が、マンションのベランダへ防鳥ネットを確保するためロープ高所作業を行うにあたり、メインロープ及びライフラインいずれも同一の配管架台用支柱に固定して降下したところ、途中で支柱が倒れて、いずれのロープも抜けて地上に墜落したものの。なお、支柱の基礎は特に固定措置がされていなかった。	419	1	10～ 29
2019	1	12 ～ 14	民家解体工事において、解体用つかみ機の運転手が、同機械にて解体の作業を行っていたところ、解体用つかみ機の旋回範囲内に被災者がいることに気づかないまま機械を旋回させたため、被災者が解体用つかみ機の上部旋回体とブロック塀との間に挟まれ、約90分後に死亡したものの。被災者は手作業で、現場内の廃材の仕分作業等を行っていた。	145	6	10～ 29
		10	伐採した立木の下敷きになったもの。（被災者不在に気が付いた同僚が			

2019	2	～	現場周辺を探したところ、伐倒した木の下敷きになった状態で発見された。切り株の直径は約60センチメートル）。	712	6	50～ 99
2019	2	～	14 電柱に取り付けられた街路灯（高さ約4m）をLED照明に交換するた め、電柱に立て掛けた「はしご」上で作業を行っていたところ、バランス 16 を崩し「はしご」から道路上に墜落し死亡したもの。	371	1	1～9
2019	2	～	10 倉庫内において、被災者が、アルミ建材（長さ4m、重さ5キログラム～ 7キログラム、50本～100本）を選定中、荷が崩れて下敷きとなり、 12 胸部圧迫により死亡したもの。	521	5	1～9
2019	3	～	2 4 新築工事中の工場1階室内で縊死したところを発見された。	921	90	10～ 29
2019	3	～	工場敷地内の塀の入替工事現場で、塀の取り外し及び撤去作業をドラグ ショベル（機体重量3t未満）を用いて行っていた。被災者はドラグショ ベルを運転し結束した部材をバケットに付属しているフックに掛けて吊 り、約15mほど後退した後旋回して部材を下ろそうとしたところ、機体 がバランスを崩して転倒し被災者の頭部がブームと地面近くの配管との間 に挟まれ被災したもの。ドラグショベルは移動式クレーン仕様ではなかつ た。	141	2	10～ 29
2019	4	～	8 10 ごみ処理施設内の設備の定期整備工事において、漏斗状のダクトに詰まっ た灰を下に落とそうとして、被災者が詰まった灰の上に乗って、鉄の棒で 突いたところ、灰が崩れて埋没し、約5分後に救出し病院に搬送されたも のの死亡した。	391	1	1～9
2019	4	～	14 解体工事現場で発生した廃材を産業処理施設へ運搬した後、解体工事現場 へ戻る際、高速道路を走行中に、被災者が運転するダンプカーが貨物自動 16 車に追突したもの。	239	17	10～ 29
2019	5	～	16 台風により被害を受けた建物のスレート屋根を補修する工事において、ス レート屋根の上で作業を行っていた2次下請の労働者がスレート屋根を踏	415	1	1～9

		18	み抜き、高さ約6.1メートル下のコンクリート床に墜落し、死亡したものの。			
2019	7	14 ～ 16	廃棄物の仮置場において、1t用土のう袋を解体用つかみ機で破碎して中の土を取り出す作業を行っていたところ、破碎した土のう袋を片付ける作業を行っていた被災者が、なんらかの理由で解体用つかみ機の後部に移動し、旋回した解体用つかみ機のカウンターウエイトと積み上げていた放射線遮蔽用の土を入れた1t用土のうとの間に胸部がはさまれた。	145	7	100 ～ 299
2019	7	12 ～ 14	法面（約30度）の草刈作業において、傾斜地用草刈機で作業していた被災者が何らかの原因で当該草刈機の刃に両足を巻き込まれで両足切断、失血性ショックにより死亡したものの。被災者は同僚と2名で作業を行っていたが、同僚は作業直前の被災者の作業内容を把握しておらず。被災者は災害発生から1時間以上経過してから発見された模様である。	169	7	1～9
2019	7	14 ～ 16	被災者と共同作業員Aの2名は、道路（片側1車線）沿いにあるB事業場の資材置場の片付け作業を行っていた。道路脇で2名が休憩をとっていたところ、道路を南進してきた乗用車にはねられ、被災者は死亡、Aは脚を折る重傷を負った。	231	17	10～ 29
2019	7	10 ～ 12	倉庫の屋根（FRP材）の屋根の張替え工事において、作業開始の際に、屋根上を移動中、被災者がFRP屋根を踏み抜いて高さ約6mから墜落したものの。	415	1	1～9
2019	8	16 ～ 18	災害当日、被災者はボーリング作業に1日従事し、当該ボーリング作業終了後の片付け作業中、熱中症を発症したため医療機関へ搬送されたが死亡したものの。	715	11	1～9
2019	8	8 ～ 10	スクラップ材収集作業中、ハンドガイド式不整地運搬車を方向転換しようとして後進していたところ、背後の壁と運搬車の手すりに胸腹部を挟まれたものの。	229	7	10～ 29
2019	8	14 ～	上水道工事現場において、高温・多湿の環境下の中、被災者を含め3名で上水道管の引込み作業を行っていた。午後に作業が終了したので自宅に帰宅した。その後、体調が悪くなったことから、被災者の家族が車で病院に搬	715	11	30～ 49

		16	送中、容体が急変、病院で治療を受けたが回復せず死亡した。			
2019	9	10 ～ 12	工事現場で、トラックに載せて運搬してきたドラグショベルを下ろし、トラックを移動させたところ、トラックのタイヤが埋まって動けなくなった。このため、ドラグショベルのバケットにワイヤーロープを掛けて、トラックをけん引、移動させた後、バケットに掛けたワイヤーロープを被災者が取外ししていたところ、急に旋回したバケットとトラック後部の間に挟まれ、死亡した。	142	7	1～9
2019	9	10 ～ 12	木造2階建て個人住宅の解体工事現場にて、バールのような手工具を用いて屋根上の天井の梁の上で天井ベニヤ板を解体作業中、3.7m下の階段上に墜落し、さらに1.3m下のコンクリートの床に転落して死亡したものの。	415	1	1～9
2019	9	10 ～ 12	被災者は、区に所在する液化ガスの受入配管の架台の塗装作業現場において、作業箇所への移動中に当該架台の下部（高さ5.5メートル）から墜落した。被災者は、墜落後意識を失い、病院へ搬送されたが7日後に死亡した。	418	1	1～9
2019	10	14 ～ 16	アスベスト回収工事において、被災者は隔離養生前室内にある廃石綿入りの袋を、約40m先の集積コンテナまで手で運んでいた。被災者の体調不良に気付いた同僚が休憩室で休むよう伝えた約10分後、休憩室への途中で倒れている被災者が発見された。死因不明。外傷なし。服装は作業服（午前中はタイベック着用）。有害物、過重労働の可能性低。災害発生日の養生外の気温31.2度（WBGT記録なし）。	715	11	1～9
2019	10	8 ～ 10	工場内にある工事現場において、設備と設備の天井部分との間に設置した手すり等のない棚足場上を通行したところ、棚足場の端（高さ3.26メートル）から墜落し、死亡した。	416	1	1～9
2019	10	6 ～ 8	解体工事現場において、被災者は、後進で入ろうとする重機輸送車を誘導していたところ、反対側車線を直進してきた一般車両に接触した。災害発生後、被災者は、病院に救急搬送されたが後日死亡した。	231	17	1～9

2019	10	10 ～ 12	被災者は施設内において、フレコンバックの中身である土壌を上へと上げるためのベルトコンベアのベルトとベルトを張るために設けられているプーリーとの間に巻き込まれてしまったもの。被災者はベルトコンベア等の機械を点検、清掃を行う作業員であった。発生時は一人で見回りを行っており、一部始終を見ていた者はおらず、ベルトコンベアの過負荷を知らせる警報にて発見に至った。	111	7	10～ 29
2019	10	8 ～ 10	被災者は、積載型トラッククレーン（2.9 t）のジブ先端に取り付けられた搭乗設備上で伐採された木の回収作業を行っていた。自らクレーンをリモコンで操作し、立木に挟まった木にベルトスリングを取り付けて当該クレーンのフックにかけて引っ張っていたところ、挟まった木が取れたことで張力が抜け、その反動で、墜落制止器具を着用していなかった被災者が搭乗設備から投げ出され、高さ約8.8 m下に墜落した。	212	1	100 ～ 299
2019	10	12 ～ 14	道路維持管理業務において、木の剪定作業を行っていたところ、木の伐倒後に枝払いを行っていた際、伐倒木の支えとなっていた枝を切ったため、木が山側に回転し、枝切りを行っていた被災者の後頭部に枝が激突したものの。	712	6	50～ 99
2019	11	10 ～ 12	4階建てマンションの改修工事（塗装）において休憩を取るため足場を移動中に何らかの原因によりバランスを崩したのか、外部側へ転落し隣地との境界フェンス（高さ218 cm）上の防犯用忍び返しに胴部分が刺さり死亡したもの。墜落箇所については目撃者がいないため不明。	411	1	1～9
2019	11	8 ～ 10	民家の敷地内及びその周辺において、立木の伐倒作業を行っていたところ、伐倒方向に向かって歩行していた被災者の頭部に伐倒木が激突した。	712	6	1～9
2019	11	10 ～ 12	4名の労働者が給湯用タンクを設置するため、労働者1名が、門型の人力クレーンで当該タンク上部を吊りつつ、もう1名がタンク下部にスリングロープを結び付けてフォークリフトで引っ張っていた際、人力クレーン等作業状況を監視していた他の労働者2名中被災者が、倒壊した人力クレーンに激突され、死亡した。	361	6	1～9

2019	11	12 ～ 14	交通信号制御機点検業務の点検写真撮影を行うため、交差点の横断歩道を歩行中、交差点に右折して進入してきた大型トラックと接触し死亡したものの。歩行者、トラックともに青信号で交差点に進入したものである。	221	17	10～ 29
2019	11	10 ～ 12	橋桁の塗替塗装工事のため吊り足場を設置し、剥離剤を用いて既設塗膜の剥離作業を行っていたところ、吊り足場内で火災が発生し、消防の消火活動中に上記被災者が足場内から発見された。また、火災発生現場から南側に50m近く離れた吊り足場内で別の作業を行っていた10名が、火災発生現場の風下側で作業をしていたため、煙に巻き込まれ一酸化炭素中毒、火傷等を負ったもの。	519	16	1～9
2019	11	16 ～ 18	被災者は4階建てビルの解体工事においてガラ出し作業に従事していた。屋上にてコンクリートガラをガラ落とし用の開口部より投入し、1階スラブ上に落としていた。午後に被災者がいないことに現場責任者が気づき、辺りを探すも見当たらず、先に帰ったものと思っていたが2日後の朝、1階スラブ上のガラの山付近で倒れている被災者が発見されたもの。	414	1	10～ 29
2019	12	12 ～ 14	新築工事現場、建築物屋内の梁上において、被災者及び被災者所属事業場の労働者が梁間にベニヤ板を渡して当該ベニヤ板上で、柱にシートを取り付ける作業に従事していたところ、被災者が当該ベニヤ板上から約6m下のコンクリート地面に墜落し、死亡したもの。	415	1	1～9
2018	1	14 ～ 15	クレーン機能付きドラグ・ショベルを別の現場に移動するために、取替用バケットを吊りながら、所定の場所まで敷鉄板で養生された農道（傾斜8度の下り坂）を走行中、当該ドラグ・ショベルがスリップして逸走し、田んぼに転落しかけたため、運転席から飛び降りたところに、当該ドラグ・ショベルが転落し、下敷きとなった。	212	1	10～ 29
2018	1	8 ～ 9	マンション吹抜け部外壁塗装の準備作業のため、外部足場を使用し、ガムテープにて6階部分のマスキング作業を行っていたが、6階の作業を終え、足場の外をつたって5階へ移動する際に墜落したと推測される。	411	1	1～9
2018	3	14 ～	栈橋を支える鋼管杭の塗装のために海上につり足場が組まれていたが、その足場解体作業中、強風（風速12.5m/s）にあおられて、栈橋を構	415	10	10～

		15	成する梁（直径80cmの鋼管）から墜落し溺死したものの。			29
2018	4	10 ～ 11	移動式クレーンの整備で、ブーム上のグリス穴にグリスを指すために、車体に設けられた地上から高さ2.7mの位置にあるステップを登っていたところ、足を滑らせ、墜落し、頭部を負傷したものの。救急搬送され、治療を受けたが、死亡した。	212	1	10～ 29
2018	5	16 ～ 17	被災者は、鉄骨スレート屋根葺き工場において、塔屋足場の組立作業をしていたところ、スレート屋根を踏み抜き、10.5メートル下のコンクリート床に墜落した。被災者の近くで同僚が作業していたが被災者の墜落した状況は確認していない。被災者は保護帽、安全帯を着用していた。スレート屋根には踏み抜きを防止する防網、道板は設置されていなかった。	415	1	1～9
2018	6	12 ～ 13	被災者は、刈払機を使用し、水力発電所へ水を供給する設備（導水路）の護岸に生えた草を刈る作業に従事していた。傾斜42度の護岸上部の縁にある幅0.7メートルの平らな箇所と幅0.1メートルの傾斜の緩い箇所を足場として被災者が草刈作業をしていた際、被災者は足を滑らせ導水路に転落した。転落時、被災者は自ら遊泳し、約100メートル下流で救出されたときには意識がなく、病院に搬送されたものの死亡した。	418	10	10～ 29
2018	7	12 ～ 13	被災者は第二培養室の天井付近に設置されるクーラーの修理作業のため、他の労働者2名とともに培養棚上に設置された足場板上で作業を行い、同日午後、作業を終えて地上に戻ろうとしたところ、高さ約10.9メートルの位置から地上まで転落し、全身を強打するなどにより被災して、骨盤、肋骨骨折、多臓器損傷により、死亡したものの。	414	1	50～ 99
2018	7	10 ～ 11	自社の太陽光発電パネル設置工事現場において、現場周辺の藪の竹や草を伐採したものを車両系建設機械（解体用つかみ機）を使用して、現場の一定箇所に集積する作業を行っていた。続いて被災者は現場上部の集積を行うため車両系建設機械を走行させ、通路のうち上り斜面となっている部分を通行したところ車両系建設機械ごと転倒し、被災したものの。	145	2	1～9
			屋外の配管漏れ修理作業において、新規の配管を溶接で取り付ける作業を			

2018	7	14 ～ 15	<p>していた被災者は、溶接作業終了後に体調不良を訴え休憩していたところ、急に痙攣を起こし、倒れ、心肺停止状態となったため医療機関に搬送されたが、熱中症により後日死亡した。当日の最高気温は36.5度であった。</p>	715	11	1～9
2018	7	8 ～ 9	<p>被災者は他1名とともに地盤調査を行っていたが、体調がすぐれない様子であったため、作業を中断し帰宅したところ、帰宅途中に通行人の通報で救急搬送された。入院治療先で死亡。</p>	715	11	1～9
2018	8	6 ～ 7	<p>4台の車両（前から1台目3トントラック、2台目バン、3台目12トントラック、4台目2トントラック）が渋滞で止まっていたところ、4台目のトラックに、後方から12トントラックが追突した。これにより5台の車両の玉突き事故が発生した。4台目のトラックを運転していた被災者は3台目と5台目の車両に挟まれ全身を強く打って死亡した。被災者は運転兼工事作業員であり、資材を積み込み工事現場に運搬している途中であった。</p>	221	17	10～ 29
2018	9	6 ～ 7	<p>被災者は事業場から堤防に上る坂道を、災害発生日前日の台風の影響により木の枝が折れて道をふさいでいたため、当該木の枝を切り離すため、木に登り、のこぎりで木の枝を切断したところ、枝の切断とともに高さ約4メートルの位置から墜落し、頭部を強打した。病院に搬送されたが、同日死亡が確認されたもの。</p>	712	1	1～9
2018	9	8 ～ 9	<p>工事に伴う内装解体作業において、解体用つかみ機（機体重量2.4トン）を運転する職長（一次下請）がアームを天井から床に下ろしたところ、解体した部材を回収しようとして、アームの直下に立ち入った被災労働者（三次下請）の頭部につかみ具が接触した。意識不明の重体であったが、1週間後に脳挫傷により死亡した。</p>	145	6	10～ 29
2018	9	16 ～	<p>岸壁のゴム製緩衝材の補修工事において、移動式クレーン機能付きドラグショベル（吊り上げ荷重0.9t。バケットは外している。）のフックに搭乗設備を吊り、被災者がその上に乗って海面から2m程の箇所で作業を行っていたところ、フックから搭乗設備の吊環が外れ、被災者は搭乗設備</p>	212	10	1～9

		17	ごと海に落下した。被災者は吊環に安全帯を掛けていたため、水中に引き込まれて死亡した。なお、移動式クレーンモードへの切替えなし。			
2018	9	6 ～ 7	被災者を含む労働者3名が現場に向かうために、車両・資材置き場からトラックに乗り込んで、バイパス下り線を走行していたところ、合流車を避けようとブレーキをかけたためにスリップし、他車に接触後、後方走行のトラックに追突されたため、助手席の被災者がショック死したもの。	221	17	1～9
2018	10	16 ～ 17	台風により被災した倉庫の屋根を修理するため、補修材を持ち屋根上を移動中、スレートを踏み抜き9.8m墜落、死亡したもの。	415	1	1～9
2018	10	12 ～ 13	工場の屋根補修工事を行っていた労働者が、屋根（スレート）を踏み抜き、地上まで9.3メートル墜落し死亡したもの。	415	1	10～ 29
2018	10	10 ～ 11	足場の組立作業中、足場材の運搬を行っていた被災者が足場の8層目（高さ約15m）から墜落した。	411	1	1～9
2018	10	8 ～ 9	汚染土壌の搬出作業において、4トントラックの荷台の横にいたトラック運転手が、旋回してきたクレーン機能付きドラグ・ショベルのカウンターウエイトと同トラックの荷台の間に胸部を挟まれ、死亡したもの。	212	7	10～ 29
2018	10	14 ～ 15	マンション大規模修繕工事において、足場の組み立て作業中、地上からウインチで吊り上げられた建柱（600柱）4枚（約50kg）を受け取り、架設通路上を移動中に17層目（高さ約30m）から建柱と共に地上に墜落したもの。	417	1	1～9
2018	10	6 ～ 7	被災者は、マイカー（軽自動車）で会社の借り上げアパートを出発し、同僚を乗せ、工事現場に向かう途中、見通しの良い片側3車線の道路で、大型車（26tタンクローリー）が右折していたところに、マイカーを直進させ、大型車の左後方タイヤに激突した。同僚も多発性外傷により重傷を負った。	221	17	30～ 49

2018	11	10 ～ 11	台風により破損したスレート屋根補修作業中に、スレートを踏み抜き、高さ約10mから墜落したものの。	415	1	1～9
2018	11	14 ～ 15	被災者は、2階建てアパートの屋根上で塗装作業を行っていたところ、屋根の端から足場作業床に墜落し、さらに作業床の手すりの下から地面まで墜落したものの（屋根の端から地面までの垂直高さ：約6.7m）	415	1	1～9
2018	12	14 ～ 15	被災者は、屋内開閉所（発電所と送電線を接続する箇所で開閉器等が設置されている）で2号線（3相275KV停止中）の1相分に設置されている避雷器の絶縁抵抗を測定していたものだが、接地線（アース）が接続されていると正確に測定できないことから、屋外へ出て1相分の接地線を素手で外していたところ、感電し火傷を負って死亡した。なお、被災時、隣の1号線（3相275KV）は受電状態となっていた。	351	13	30～ 49
2017	1	10 ～ 11	新ドック建設工事に伴うポンプ室の防水塗装工事が完了し、被災者は足場材料の片付け及び足場板上で玉掛作業に従事していた。その後、被災者が見えなくなったので探していたところ、地下2階の床面に倒れているのを発見し、直ちに病院に搬送したが死亡した。	411	1	1～9
2017	2	14 ～ 15	マンション新築工事現場において、朝から地中梁の配筋作業を行っていた被災者が、午後の休憩を終えて作業場所に戻るべく、地足場から地中梁（高さ約2.4m）に降り、反対側の地足場に安全帯を掛け替えようとしたところ、左手の革手袋が地足場のクランプに引っかかり、身体のバランスを崩して、根切り底に後ろ向きに墜落した。	418	1	1～9
2017	2	4 ～ 5	仕事の準備のため出勤した社員が、当日の同行者である被災者がドア上部にロープをかけ、頸部を圧迫した状態でぶら下がっているのを発見した。	921	90	10～ 29
2017	2	4 ～	新幹線高架部のつらら落し作業が終了後、被災者運転の高所作業車（1名）とワンボックスカー（4名）に分乗し、現場より事業場へ帰社するため、片側1車線の県道を走行中、反対側から走行してきたトラックが凍結によりスリップしセンターラインをはみ出して高所作業車と正面衝突によ	221	17	50～ 99

		5	り高所作業車及びトラックの運転者2名が死亡。後続のワンボックスカーは、衝突で反転した高所作業車とトラックが接触し、4名とも被災した。			
2017	2	16 ～ 17	被災者は、高所作業車による作業終了後、高所作業車に取り付けられたタラップを使用して地上に降りる際に、高さ1.2m付近のタラップを踏み外し、コンクリート製地面に転落し、頭を地面に強打した。	146	1	1～9
2017	3	10 ～ 11	鉄骨造地上3階建物（高さ12.275m）の解体工事において、3階床で壁を引き倒そうとするため、被災者が鉄骨柱の根本をガス溶断し、他の作業員が柱にかけたロープを引っ張ったが、壁が倒れなかったため、被災者が鉄骨柱を確認しに行ったところ、壁が倒れて下敷きになった。	418	5	1～9
2017	3	4 ～ 5	本事業場所属の被災者2名は、太陽光パネル設置に関連した工事を行っており、災害発生前日の午後9時から災害発生当日の午前5時までの予定で夜間作業に従事した。作業が終了し、被災者らは、2トンダンプ車で、市内へ向けて通行中、道路の中央線を越え、対向車線を通行してきた大型トラックと正面衝突した。	221	17	1～9
2017	3	16 ～ 17	木造住宅の解体工事現場において、躯体の解体終了後、解体用つかみ機（ドラグショベルにフォーク状のアタッチメントを装着したもの）を用いて、ワイヤーモッコにまとめたガラをつり上げようとしたところ、近くで作業していた被災者の頭部をはさみ、被災（死亡）した。	145	7	1～9
2017	3	14 ～ 15	工場のスレート屋根上の避雷針の整備工事において、2人の作業員が歩み板の設置など墜落防止措置がないままに避雷針のポールの取替え作業を行っている際、被災者がスレート屋根に設置された明かり採り用の波板を踏み抜き、約16メートル下の鉄筋上に落下し、全身打撲、大動脈破裂により死亡した。	415	1	10～ 29
2017	4	10 ～	工場内解体作業中に水道管が破損したために、被災者は同僚男性とあわせて、水道管補修作業の足場としてフォークリフトのフォークを使用する目的でフォークリフトをスロープ（こう配33%）を前走りで上っていた。スロープ頂上付近でフォークリフトのエンジンが突然停止して	222	2	10～ 29

		11	フォークリフトが後退を始めたため、被災者はとっさに飛び降りたが、スロープの縁石に激突したフォークリフトが横転し、被災者が下敷きとなった。			
2017	4	8 ~ 9	足場工事業者所属の被災者が、2次下請に派遣され石綿除去工事のための養生設備を解体中、屋上ペントハウスと外部足場を繋ぐ直径5センチメートルの単管を渡って、屋上ペントハウスから2.3メートル離れた外部足場へ移動しようとしたところ、バランスを崩し19.08メートル下の地上まで転落した。	416	1	1~9
2017	5	16 ~ 17	現場周辺の木を伐採するため、チェーンソーを持った被災者らを搬器に載せクレーンで吊り上げた後、クレーンから遠方に到達させるために徐々にジブを倒していったところ、作業半径が約28メートルに差し掛かった時点で突然ジブが縮み、そのため搬器が落下した。	212	1	1~9
2017	5	16 ~ 17	現場周辺の木を伐採するため、チェーンソーを持った被災者らを搬器に載せクレーンで吊り上げた後、クレーンから遠方に到達させるために徐々にジブを倒していったところ、作業半径が約28メートルに差し掛かった時点で突然ジブが縮み、そのため搬器が落下した。	212	1	1~9
2017	5	10 ~ 11	被災者他2名で設備の撤去工事中、パレットリフター（製造ラインから流れてきた製品を上下する機械）を撤去するため、パレットリフター下部の空間（ピット内）に被災者が入り、昇降用モーターのチェーンを溶断していたところ、パレットリフターが下降し、被災者が同機械の隙間に挟まれ死亡した。	224	4	10~ 29
2017	5	10 ~ 11	9段積みされた敷地境界ブロック塀を撤去するため、ブロック二段目で縦鉄筋をガス溶断するにあたり、被災者ともう一名にてチッパーを用いてブロック二段目と三段目の境目で、はつり作業し、縦鉄筋が見える状態とした後、ガス溶断をするにあたり問題ないかどうか目視確認していたところ、ブロック塀が傾き倒壊した。その際、被災者がブロック塀の下敷きとなり、頭部を強打したことにより死亡した。	418	5	1~9
			飼料バラ出荷場において、天井に仮付された安全柵の本溶接を行うため、			

2017	6	8 ～ 9	被災者含めて3名が、各人それぞれ高所作業車に乗って3箇所に分かれて作業を行っていた。作業中、横のエリアを担当していた被災者に作業を行っている様子が無かったため、不審に思って近づいたところ、安全柵と高所作業車のバケットの間に挟まれている被災者を発見、心肺停止で病院に搬送されたが、同日死亡した。	146	7	30～ 49
2017	6	10 ～ 11	被災者は、火災によりクラブホール天井に付着したすすの除去作業の仕上げとして、当該箇所に脱臭用の薬剤を噴霧するため、作業足場（全12層）の9層目（高さ約14m）で作業していたが、その後、被災者が作業していた方向から何かが落ちる音が聞こえ、現場監督が駆けつけたところ、被災者が1階床で倒れているところが発見された。発見時に被災者は安全帯を着用していたが、不使用だった。	411	1	30～ 49
2017	6	16 ～ 17	被災者は、現場作業を終え社有車（ワゴン車）を運転し帰社する途中、遮断機と警報器の無い踏切で、普通列車（1両編成）と衝突し、約20m引きずられ、鉄橋から約8m下の川に転落した。	231	17	50～ 99
2017	7	10 ～ 11	被災者は、工場内にある電気炉の修繕工事を行っていたところ、約16m上方の天井梁に付着した固着ダスト（大きさ約15cm×15cm、厚さ約6cm、重量約1.2kg、酸化鉄30～50%、酸化亜鉛20～50%）の一部が剥がれ落ち、被災者の頭部付近に激突した。	415	4	10～ 29
2017	7	8 ～ 9	被災者は営業先での仕事を終え、所属する事務所に車を運転して帰る途中、直線の片道2車線の道路で対向車線にはみ出し、対向車のダンプカーと正面衝突した。	231	17	10～ 29
2017	7	12 ～ 13	河川護岸上で、被災者が、重機を用いて河川内の川藻の水揚げ作業をしていたところ、後退すべきところを前進し、護岸上から重機ごと河川内に転落し、溺死した。	149	1	1～9
2017	8	16 ～ 17	現場作業が終了したため、会社所有の普通貨物自動車にて被災者等3名が乗り合わせて会社へ帰る途中に、自損による交通事故により後部座席に同乗した労働者1名が死亡した。	231	17	1～9
		8	横断歩道の補修作業の完成写真を撮影しようとした車道上に死亡労働者と同僚			

2017	8	～	9	がいたところ、誘導者が停止合図を送ったが直進してきた軽自動車にはねられた。	231	17	1～9
2017	8	～	17	16 天井クレーン（ごみクレーン）の部材を溶接していたところ、火花が当該クレーンのバケット上部に堆積していたゴミに引火した。周囲にいた労働者が消火したが、当該クレーンのガータ上で作業していた被災者が約8メートル下のコンクリート床面に墜落し、死亡した。	391	1	30～ 49
2017	9	～	15	14 長さ17メートル、奥行き1.4メートル、高さ1メートル程度の鉄製配管（重量6.7トン）を、クレーンによる移動作業中、当該配管を高さ80センチメートルにある木製の台座に下ろすために台座の上方20センチメートルまで下ろしたところ、クレーンにより吊っていた場所を中心として配管が垂直方向に回転したため、回転する配管の突出部分に労働者1名が巻き込まれ、配管と地面に当該労働者がはさまり、死亡した。	212	6	1～9
2017	9	～	9	8 浄化センター水処理棟内において、浄化槽の防食被覆工事のため、当事業場の代表を含めた作業員4名にて棟内床面の養生作業をしていたところ、午前9時30分の休憩時間に作業員1名がいないことに気づき、付近を捜したところ、浄化槽内の底部（深さ5.6m）において、被災者が倒れているところを発見し、搬送先の病院にて死亡が確認された。	414	1	1～9
2017	9	～	9	8 民家解体工事において、解体用機械（つかみ機）を用いて廃材の搬出等の作業を行っていたところ、つかみ機の旋回範囲内に被災者がいることに気づかないまま機械を旋回させたため、被災者がつかみ機のアタッチメント先端とブロック塀とに挟まれ死亡した。被災者は手作業で、現場内の可燃物等のゴミを集めていた。	145	6	1～9
2017	10	～	15	14 化学工場の定期修理工事において、窒素ガスを充てんしたタワー塔を換気する準備を行うためマンホールを開放する作業を行っていたところ、意識を失っているところを発見された。	714	12	10～ 29
2017	10	～	18	台風の強風により倒れ、電線に掛かっていた倒木を倒す作業の際に発生した。高所作業車上の労働者（被災者とは別の所属）が電線に掛かった樹木	712	4	10～

		19	の切断作業を行っていた際、直径約30cm、長さ3mの幹が跳ねあがり、落ちてきて、地上にいた被災者の腰部に当たり死亡した。			29
2017	10	10 11	工事現場において、休憩中、被災者の行方が分からなくなり、音がした場所で、被災者が倒れていたところを発見された。建物から墜落したのと思われる。	418	1	1～9
2017	11	6 7	軽ワゴン車で現場に資材を運ぶため、会社事務所を出て走行中、左路肩から出てきた大型ダンプに追突した。	221	17	1～9
2017	11	16 17	被災者は、建物内にある自動ラック倉庫の鉄骨・ダクト等をガス溶接機により解体していたところ、ラックの棚上から約10m下の床に墜落し、死亡した。	418	1	1～9
2017	11	8 9	加熱炉の炉扉修理作業において、同炉扉を天井クレーン（無線操作式）で運搬している際に、被災者が、同天井クレーン下部に設けられたトロリ線点検台と、加熱炉に隣接した設備である油圧シャーのデッキ部分に設けられた手すりにその身体を挟まれた。被災者は天井クレーンを操作していたものでなく、運搬中の炉扉が工場内設備等に接触しないよう、炉扉とともに移動しながら補助作業を行っていた。	211	7	30～ 49
2017	12	8 9	現場視察のため高速道路走行中、緩やかな右カーブの追い越し車線より車を右に斜走させ、道路側壁に乗り上げ、車両が横転し、車外放出され死亡した。	231	17	1～9
2017	12	14 15	納屋の解体工事において、防水シートを剥がす作業をしていたところ、高さ2メートル77センチメートルの屋根から墜落した。	415	1	1～9
2016	1	13 14	水産加工場内の設備工事。昼休憩が終わり、作業場所である水産加工場3階へ向かうために階段を上っていたところ、1階と2階の間にある踊り場の端（幅1.75m、地上高さ2.3m）から墜落した。	417	1	1～9
		14	1月21日から22日にかけて、温泉バイナリー発電設備の冷却棟内部の			

2016	1	～ 15	清掃を行った。22日作業中に激しく咳き込み、一時、作業ができなくなった。その後病院を受診し、診断の途中でレジオネラ菌による肺炎であることが疑われ、治療を行ったが、容態が急変し、死亡した。	911	90	10～ 29
2016	1	～ 9	所内に設置された焼却炉の解体撤去工事において、養生に使用する防災シートを張る作業を行っていた被災者が、作業場所の屋根の端部に仮置きされた防災シートを取りにいくために屋根に上り、置き場に向かう途中、屋根の採光部分（FRP製）を通過してしまい、踏み抜き、10メートル下に墜落した。	415	1	1～9
2016	2	～ 16	カーポート取付工事現場において、被災者一人が、現場より52メートル離れた休憩場所で座り込んでいたところ、前のめりに転倒し、深さ1.37メートルの用水路内に転落し、水深10センチメートルの同用水路内にうつ伏せの状態で見つめられた。	418	1	1～9
2016	2	～ 14	被災者2名を含め、総勢12名で学校校舎の屋根の除雪作業を行っていた。12名は屋根上で横一列に並び、軒先の雪を屋根下に落としていたところ、屋根上の雪が全て屋根を滑り落ち、12名全員が落雪に巻き込まれ、2名が生き埋めとなった。	415	1	1～9
2016	2	～ 14	被災者2名を含め、総勢12名で学校校舎の屋根の除雪作業を行っていた。12名は屋根上で横一列に並び、軒先の雪を屋根下に落としていたところ、屋根上の雪が全て屋根を滑り落ち、12名全員が落雪に巻き込まれ、2名が生き埋めとなった。	415	1	10～ 29
2016	2	～ 17	解体工事現場において、解体していた建屋屋上で4人が作業に従事していた。そのうちの作業員2名（被災者を含む）で取り外した折板屋根部材を屋上端部から投げ下ろしていたところ、被災者がバランスを崩し、3m10cm下の地面に墜落した。	418	1	10～ 29
2016	2	～ 16	高さ59.9メートルの送電線用鉄塔の骨組部材を一部取替える作業においてアンクル上を移動していた被災者が高さ約24.3メートル地点から地上に墜落した。	351	1	10～ 29
			船舶から紛体を荷揚げする機械、関連設備の解体工事を行っていた。荷揚			

2016	2	8 ～ 9	げ機械のアーム先端にピン構造で取り付けられたスクリーコンベヤーの解体準備作業（電気ケーブル等の除去）をしていたとき、何らかの理由でスクリーコンベヤーが自重により旋回して、準備作業していた被災者がアームとスクリーコンベヤーとの間に挟まれた。	224	7	10～ 29
2016	4	9 ～ 10	個人宅の倉庫解体作業において、社長を含む3人で朝の打ち合わせ後、被災者が一人でスレート屋根に登ったところ、踏み抜き、5. 2m下のコンクリート製の床に墜落した。	415	1	1～9
2016	4	15 ～ 16	資材置場内の道路上に散乱していた小石等を撤去するため、被災者は当該小石等を数か所に集め、順にトラック（2 t ダンプ）の荷台に積み込む作業をしていたところ、上り13%の勾配の道路を後進で上がってきたトラックに轢かれた。	221	6	1～9
2016	4	8 ～ 9	3階建てビルの塗装工事の養生を行う予定の被災者が、路上に倒れているのを通行人が発見し救急車で病院に収容されたが死亡した。	418	1	1～9
2016	5	10 ～ 11	被災者は、室外機の交換作業のため、2階建て建物の屋上に接して架け渡された幅15センチメートルの鋼材上に立ち、滑車ロープを用いて室外機を下ろしていたところ、固定していた滑車が外れたことにより、バランスを崩し、約6.4メートル下の床面に墜落し、搬送先の病院で死亡が確認された。	418	1	1～9
2016	6	9 ～ 10	山間部に設置された鉄塔の送電線の近くまで伸びた立木を伐倒する作業において、被災者所属事業場の下請け事業場の労働者がチェーンソーで立木を受け口、追い口を入れたところ、当該立木の切り口が弾けるように折れ、当該立木の付近で作業状況を見ていた被災者の胸部に当該立木が激突して災害発生日の翌日に死亡した。	712	6	1～9
2016	6	9 ～ 10	木造2階建てアパートの解体作業において、前日までにアパート上屋の取り壊しを終え、解体用つかみ機運転者1名、手元4名で木くず等の積み込み作業を行っていたところ、解体せずに残っていた渡り廊下（スラブデッキ）部分が落下し、その下で作業を行っていた被災者が逃げ遅れてコンク	418	5	1～9

			リートスラブの下敷きになった。			
2016	7	9 ～ 10	事業場から建設現場にトラックで向かう途中、路上にて、前方の路肩に停車していた工事車両に追突し、その反動で工事車両の斜め前方のいた車両にも追突した。	221	17	1～9
2016	7	9 ～ 10	廃倉庫（軽量鉄骨造平屋建て、最高高さ4.96m）の解体工事において、被災者は屋根（鋼板と木材を組み合わせた構造）上にて親綱を張ろうとしたところ、足下が破損して約4.6m下の床面（土間コンクリート）に墜落、頭部を強打して負傷から約4時間後に死亡した。	415	1	10～ 29
2016	8	10 ～ 11	セメント工場の定期修繕工事において、サイクロンと呼ばれている設備の内部に組立てていた単管足場の解体作業中、当該設備内の一部である平坦な場所（広さ：約3.3平方メートル）で解体した単管をサイクロンの外に手渡ししていた被災者が、当該平坦な場所から墜落し、約23メートル下の配管内で発見され救出されたものの搬送先の病院で死亡した。	416	1	10～ 29
2016	8	3 ～ 4	高速のトンネル内で片側2車線のうち左側車線を規制して、高所作業車の作業台に3名が乗車して、作業を行っていたところ、右側車線を走行中の3トントラックが高所作業車作業台に衝突し、その反動で作業員2名が道路上に墜落した（墜落高さ約4メートル）。	146	1	10～ 29
2016	8	16 ～ 17	家屋解体工事において、解体用つかみ機で屋根の一部を解体し、瓦礫の分別作業・搬出作業中、家屋全体が揺れたため、家屋を倒してからその後の作業を行うことにした。屋内に置いた工事用資材や工具を屋外へ搬出した後、解体用つかみ機で家屋を押ししたところ、家屋全体が一気に倒壊し、被災者が倒壊した屋根の下敷きになり死亡した。	418	5	10～ 29
2016	8	9 ～ 10	木造2階建て家屋の解体工事において、屋根の瓦撤去作業中、誤って地上約6メートルの地点から墜落し、病院に搬送されたが、まもなく死亡した。	415	1	1～9
2016	8	9 ～	ホテルの外壁塗装工事で被災者は外壁の目地をモルタルで埋める作業を行っていた。当該作業は足場を使用しての作業であったが、躯体と足場の	411	1	1～9

		10	隙間が78cm開いており、足場から身を乗り出し、建屋に体を預け作業していたところ、約4.8mの高さから墜落した。			
2016	8	14 ～ 15	太陽光発電システム設置工事において、パネルからの電線をケーブルボックスに通す作業中、被災者がロープを引いたため、ケーブルの束の先端に繫いだロープが外れ、これにより被災者は倒れ、床面で頭部を強打し、脳挫傷による死亡が確認された。	417	2	10～ 29
2016	9	15 ～ 16	空調工事を担当する被災者が、空調ダクトの上で倒れた状態で発見されたもの。被災者の体の右腕、左膝と照明器具の吊りボルト、ダクト上部に火傷痕が残っていた。照明器具を分解した結果、照明の取替工事で、電圧側の端子を誤ってアース側の端子に接続していたことが分かり、アース側の端子から電流が流れ、照明フレーム、取付フレーム、吊りボルトまでの金属間に電圧がかかっていたことが判明した。	359	13	10～ 29
2016	9	14 ～ 15	汚染土壌等の仮置場において、密閉容器に入った汚染土壌等をフレコンバックに移し替える作業中、被災者は密閉容器のふたを開ける作業を行っていたところ、暑さによる疲れがみられたため車内で休憩していたが、体調が回復せず意識が朦朧としていたことから病院に搬送された。「熱中症」の疑いにより、死亡した。	715	11	10～ 29
2016	9	8 ～ 9	樹木の剪定工事において、被災者は樹木（マテバシイ、高さ7m）の一番下の枝（高さ2.5m）にハシゴを掛けてその枝の上に乗ったところで、剪定方法を確認するために地上にいた責任者に対し自らがいる位置まで登ってくるよう促し、責任者がハシゴを2、3段登ったところで枝が折れ、被災者は枝の上から地面に墜落して、顔の左側側面を強打し、救急搬送されたものの、外傷性頭蓋内損傷により翌日死亡した。	712	1	30～ 49
2016	9	11 ～ 12	枠組足場組立作業中、10層目作業床上（幅100センチ）で電動ウインチを使用してブレス材の荷揚げ作業を行っている際に、同ブレス材が10層目上の建枠に引っかかりそのバランスが崩れてしまい、これを保持しようとした被災者が誤って約17メートル下の1階床面に墜落した。	411	1	1～9
			外壁改修工事の足場設置に伴う落下防止柵（以下、「朝顔」という。）の			

2016	9	13 ～ 14	設置を足場の10層目において行っていた。朝顔の骨組みの設置を終え、鋼製足場板を骨組み上に敷き詰めていたところ、朝顔を構成する単管のクランプ（朝顔先端部）が外れたため、鋼製足場板とともに約18m墜落し、被災した。	411	1	1～9
2016	11	10 ～ 11	ドラグ・ショベルで除染廃棄物の仮置き場の整地作業後、ドラグ・ショベルを次の作業場所へ移動するため、高低差70cmの傾斜を下る途中で転倒し、運転室から投げ出され、ヘッドガードの下敷きとなった。	142	2	10～ 29
2016	12	8 ～ 9	被災者は同僚を乗せ、トラックを運転し、事業場から塗装工事現場へ向かっていた。被災者は、国道の緩やかな左カーブを走行後、ふらつきながら中央線をはみ出し、対向車の大型トラックと正面衝突した。被災者は脳挫傷により死亡。	221	17	10～ 29
2016	12	12 ～ 13	最大積載荷重4トンのトラックが解体作業で出たスクラップ資材を積み込むため、バックで現場敷地内に入ってきたところ、現場敷地内車両入場口付近で横になっていた被災者が左後輪で轢かれ、被災した。	221	7	1～9
2016	12	8 ～ 9	被災者は消化タンク内に組まれた足場上で、塗装の準備作業として内壁の結露を拭き取る作業を行っていた際、足場中心部の開口部からバランスを崩して13.75m下のタンク底部に墜落した。	411	1	1～9
2015	7	16 ～ 17	最高気温35度を超える中、1時間おきに休憩をとり、木造家屋解体工事に従事していたが、午後4時の休憩の際、意識が朦朧としているところを救急搬送され、約3時間後熱中症の疑いで死亡したもの。被災者は、休憩時間の際は、スポーツドリンクとお茶を飲んでいた。	715	11	50～ 99
2015	9	11 ～ 12	一般住宅のカーポート設置工事において脚立（高さ1.5m）に上り、屋根材のポリカーポネートを取り付けていた被災者がバランスを崩して脚立からコンクリート床に墜落し、頭部を負傷した。9月25日に入院先の病院で死亡が確認された。	371	1	1～9
2015	10	6 ～	港湾道路で、同僚と作業の打ち合わせをするため路肩に停車していた車両積載型移動式クレーンに4tトラックが追突した。この弾みで、被災者が車両積載型移動式クレーンの前に止まっていた移動式クレーン（25t）	221	17	10～

		7	との間に挟まれ、搬送先の病院で死亡が確認された。被災者は、同僚と車両の間に話をした後、運転席に戻ろうとしていたもの。			29
2015	3	9 ～ 10	被災者は、浄化槽の埋設工事現場で、掘削した穴（4.6m×3.4m、最も深い位置で2.38m）の中にいる取締役（現場責任者）からハンマーを受け取る際、穴に転落し、穴の底に置いたドラグショベルのバケツトで頭部を打ち、死亡したもの。	416	1	10～ 29
2015	9	11 ～ 12	被災者は2階建て建物屋上の防水シート張り作業において、後ろ向きに後退しながらテープ張りを行っていたところ、高さ30センチメートルの建物縁を乗り越え、約6.5メートル下のアスファルト地面に墜落した。ドクターヘリで搬送されたものの、全身を強く打ち出血性ショックにより同日午後6時24分に死亡した。	416	1	1～9
2015	3	0 ～ 1	神社敷地内にて、伐倒木の枝切りを行うため、被災者が伐倒木（高さ1.3m）に登り、他の伐倒木のチェーンソーを使用して枝を切っていたところ、足を滑らせバランスを失って転落した。搬送先の病院において、同年3月21日に死亡（脳挫傷等）した。	712	1	1～9
2015	6	16 ～ 17	現場から退出時、自車（ダンプ車）を斜路上に駐車したのち、降車して他車（ユニック車）の誘導を行い、誘導を終えて自車に戻る途中、斜路上に駐車していた自車が動き出したため、自車の前方に入り止めようとしたところ、他車の側面と自車の間に体を挟まれた。その後、入院治療を行っていたが、平成27年9月14日、敗血症による多臓器不全のため死亡したもの。	221	17	1～9
2015	5	9 ～ 10	木造家屋建屋解体現場において、労働者2名が建屋の屋根（高さ2.99メートル）に上がり、屋根の瓦を外す作業をしていたところ、被災者が墜落し、死亡したもの。被災者は、被災時に保護帽を着用していたものの、安全帯を着用していなかった。	415	1	1～9
		17	資材置場において、足場の横材60本を番線でくくった束をフォークリフトを使用して9段（高さ約3メートル）に積み上げた後、被災者が当該足			

2015	11	～ 18	場材の束を背にしてフォークリフトの誘導を行っていた。そうしたところ、足場材の束の山が崩れ、被災者の背中、尻、足が挟まれたことにより、全身多発骨折によって死亡したもの。足場材の束の山が崩れたのは、積み上げ後約5分経過した時点であった。	611	5	1～9
2015	8	11 ～ 12	鋼管製足場組立作業中の被災者が、高さ約8.8mの足場上を通行中、「ウワー、感電した」との言葉を発し足場作業床に倒れこんだ。当該足場の下層に居た他の作業者がすぐに被災者の所へ行ったところ、呼びかけには応答せずうなり声をあげていたが、やがて声を発しなくなり全く反応が無くなった。狭隘な足場上であったため救出に10分程度を要し、足場から搬出後、心肺蘇生法を行い救急搬送されたが、死亡したもの。	351	13	1～9
2015	12	17 ～ 18	パーティクルボード製造工場における定期点検整備工事において、被災者は発電用ボイラーのホッパー内部の足場組み立て作業の前作業である壁面焼却灰の掻き落とし作業を行っていたときに、上部壁面及び水管等に付着していた高温の焼却灰が落下し、埋もれたことにより、全身を熱傷し死亡した。	311	11	1～9
2015	8	7 ～ 8	会社事務所から現場へ向かう途中、高速道路上り線において2トントラックを運転していた労働者が、何らかの原因で中央に寄り、その後左へ急ハンドルを切ったため、トラックが右側へ横転し、同乗していた労働者とともに被災したもの。	221	17	30～ 49
2015	5	15 ～ 16	被災者は、ダンプの荷台に廃材を積み込む作業において、荷台上で車両系建設機械の誘導を行っていたところ、バランスを崩し約3.3m下の地面に墜落したもの。	221	1	30～ 49
2015	3	11 ～ 12	洗剤工場新築工事において、一階排水処理室の排水貯留槽ピット（約4（縦）×2.1（横）×1.5（深さ）【m】）、気積約10【m ³ 】）内を一人で防水塗料塗布作業を行う予定であった防水工（被災者）が当該作業日の2日後に当該ピット内で仰向けになって倒れて死亡しているのが発見された。	514	12	1～9
			伐木作業を2人で行っていた。被災者がチェーンソーで木を切り、もう一			

2015	6	8 ～ 9	人（下請作業員）は木が宅地側へ倒れないよう重機を操作して支えていた。被災者はチェーンソーで追い口を切っていたところ、チェーンソーが抜けなくなった。木が倒れ始めたため、退避したが、倒木は一旦バウンドして根本が浮き上がり、被災者の背中に落ちてきた。	712	6	10～ 29
2015	12	13 ～ 14	被災者は、一般的に「テーブルリフター」を呼ばれるリフトに使用されている油圧シリンダーの油漏れ補修作業を行っていた。午前中にパッキンの交換を終え、昼休憩後に片づけ作業を始め、リフトが不意に落下しないように設置していたチェーンブロックを外したところ、リフトが落下し、その下敷きとなり、頭部圧迫骨折で死亡した。木製の安全ブロックを設置していたが、負荷に耐え切れず外れていた。	214	7	1～9
2015	10	10 ～ 11	既存建物の解体工事において、被災者は、解体中の建物中の建物6階で散水作業の準備を行っていたところ、2m四方の開口部から約19m下の1階床面まで墜落した。	414	1	1～9
2015	10	8 ～ 9	被災者は、建設会社の資材置場（常駐労働者2名）において、わく組足場2層分（垂直方向340cm、水平方向90cm）を組んで、資材置場入口にあるパネルゲート上部のレール部分（地上高438cm）の修理作業を行っていたところ、足場が倒壊して被災者は足場上から墜落したものと推定される。被災者の単独作業であったため災害発生状況の目撃者はおらず、通行人が倒壊した足場と足場の脇に倒れていた被災者を発見した。	411	1	30～ 49
2015	3	16 ～ 17	事業場構内で廃棄物収集用のアームロール車（専用鋼製コンテナを、フック付動力アームを装備した専用貨物車両に当該アームで積み降ろしする車両）に、廃棄物を入れた専用コンテナを積む作業中、コンテナが車両のガイドローラーから外れ、フックからも外れ側方へ転倒、下敷きとなったもの。	221	6	10～ 29
2015	8	13 ～ 14	解体処理中の天井クレーンガーダーから走行ロッカー（上部及び下部）を取り外し地上に降ろす作業を行っていたところ、作業員が誤って別のボルトを溶断してしまったため、下部走行ロッカー（重さ約2トン）が落下し、下敷きになってしまったもの。	419	4	10～ 29

2015	1	9 ～ 10	雨水受けタンクを設置し終え、発注者と一緒にその設置状況を確認する作業中、タンク内部の明り取りのために、被災者1名がタンク上部に上がり、タンク上部のマンホールを開けたところ、マンホールの蓋とともに約10m下のタンク床面に墜落した。	418	1	10～ 29
2015	8	7 ～ 8	建設現場で使用する砕石を砕石工場でトラックに積み込み、同僚のトラックのシート掛けを手伝っているときに、自分の乗ってきたトラックが動き出し、シート掛けをしていたトラックと動き出したトラックにはさまれたもの。	221	7	1～9
2015	2	10 ～ 11	雑木林で伐倒された玉切材（原木丸太）を、事業主が操作する小型移動式クレーン（通称ユニック車）の荷台へ積み込む作業中、被災者が当該玉切材から離れようと一歩後ろに下がったとき、斜面に足を取られ約1.7m下に転落した。その直後、吊り荷である玉切材の隣にあった別の玉切材が斜面を転がり出し、被災者の胸部に乗り上げた。当日15時16分胸部重症外傷により搬送先の病院にて死亡。	212	4	1～9
2015	1	9 ～ 10	濃縮器点検準備作業のため、被災者が点検治具の受台の固定ボルトを外したところ、受台が回転し、被災者の頭部に激突した。	391	6	10～ 29
2015	10	16 ～ 17	木造2階建て建物の解体作業中、2階庇の取り壊し作業を行っていたところ、2次下請事業場所属の被災者が、地上から高さ約6メートルの一側足場3層目より墜落し死亡したもの。	411	1	1～9
2015	4	1 ～ 2	高速道路の高架橋における高欄補修工事において、吊り足場の組み立て中に、吊りチェーンの上部支点の鉄骨クランプが外れ足場が傾斜したことにより作業者が約36m墜落し、死亡したもの。	411	1	1～9
2015	6	0 ～ 1	被災者は、建設工事の施工管理業務に従事していたが、過重労働による心理的負荷がかかり、精神疾患（うつ病）を発病し治療を行っていたものの、自殺をした。	921	90	10～ 29
		17	現場から会社へ戻る途中、車が歩道にのり上げ横転し、ガードレールに衝			10～

2015	2	18	突して死亡した。	231	17	29
2014	1	14 15	被災者は、プラントから取り外した水素精製設備の熱交換器の洗浄前作業を行うため、熱交換器の蓋（チャンネルカバー）を取り外したところ、爆発が起き、爆風を浴び、飛んできた蓋の直撃を受けた。	321	14	1～9
2014	1	14 15	被災者は、プラントから取り外した水素精製設備の熱交換器の洗浄前作業を行うため、熱交換器の蓋（チャンネルカバー）を取り外したところ、爆発が起き、爆風を浴び、飛んできた蓋の直撃を受けた。	321	14	1～9
2014	2	7 8	資材置場に放置されていたドラグショベルを他の資材置場に移動させるため、被災者が一人でトラックに載せようとしたところ、トラックに掛けた道板がずれたか、もしくはドラグショベルが道板から外れたため、ドラグショベルがアスファルト路面上に転落し、被災者がドラグショベルの下敷きとなった。	142	1	1～9
2014	2	8 9	町道にて、事務所から社用車（軽トラック）で現場に向かう途中で道路右脇の立ち木等に衝突し、85センチ下の空き地に転落した。その際、被災者は車外へ放り出され、軽トラックの下敷きになり、頭部等を強く打ち死亡した。	221	17	1～9
2014	3	17 18	工場（鉄骨造）の屋根（面積約1000平方メートル）に太陽光発電パネルを設置する工事を、被災者他2名にて行っていたところ、被災者は、屋根の明り取り用天窗（ガラス葺）を踏み抜き、9メートル下の床に墜落し死亡した。	415	1	1～9
2014	3	11 12	家屋解体工事現場にて、解体用つかみ機を運転し家屋を解体していたところ、解体用つかみ機と壁の間で散水作業を行っていた被災者は、旋回してきた解体用つかみ機のカウンタウエイト部と壁の間にはさまれた。	145	7	50～ 99
2014	3	13 14	鉄骨階段の塗装作業中、脚立と階段の支柱との間に足場板を架け渡した上にて、塗装作業を行っていたところ、鉄骨階段上に転落した。	416	1	1～9

2014	3	13 ～ 14	工事現場内にて、被災者が倒れている状態で発見された。	921	90	30～ 49
2014	5	15 ～ 16	被災者は、発電機の復水器出口配管の内部の塗装作業を開始しようとしたところ、配管の傾斜（45度）した部分から転落し、配管内部の海水内に落ち、死亡した。	713	10	10～ 29
2014	5	14 ～ 15	マンション新築工事現場にて、外壁吹きつけ塗装中、ドア等を閉め切った部屋内にエンジンコンプレッサー2台を設置し、外部足場やベランダでスプレーガンを使用していた被災者は、燃料補給を行っていたところ、意識を失い、その後死亡した。	514	12	1～9
2014	5	22 ～ 23	ビルの外壁に設置されている照明設備の電球交換を行うため、安全带取付用親綱が設置されていない状態で、高所作業用ブランコに乗り、ビル屋上から照明設備の位置まで降りようとした際、ブランコを保持していたロープが切れ、ブランコもろとも地上へ墜落し、死亡した。	379	1	1～9
2014	6	18 ～ 19	高速道路の追越車線を走行中、スリップし、側壁に接触し、前方に停車していた中型車後部に衝突した。	231	17	1～9
2014	6	18 ～ 19	高速道路の追越車線を走行中、スリップし、側壁に接触し、前方に停車していた中型車後部に衝突した。	231	17	1～9
2014	6	18 ～ 19	高速道路の追越車線を走行中、スリップし、側壁に接触し、前方に停車していた中型車後部に衝突した。	231	17	1～9
2014	7	10 ～ 11	大型トレーラーが、道路に白線をひく作業で徐行作業中のトラックに追突。トラック前方の路上で作業していた作業員らのうち2名が死亡し、1名が負傷。	221	17	1～9
		11	電気設備のメンテナンス工事中、結線を行った際、配線を触り、感電し			

2014	7	～ 12	た。	359	13	1～9
2014	7	～ 12	11 住宅敷地内の竹林の伐木作業を行っていたところ、首筋と耳の2カ所を蜂に刺され、死亡した。	719	90	100 ～ 299
2014	7	～ 12	11 体育館解体工事にて、屋根の鉄板を移動式クレーンで剥ぎ取っていたところ、鉄板を剥ぎ取り、木毛セメント板のみになっていた箇所から、被災者が木毛セメント板を踏み抜き、9.3m下のコンクリート土間に墜落した。	415	1	1～9
2014	7	～ 12	11 廃材の収集、運搬作業中、トラックの荷台に乗せた竹を切断しようと荷台に上がり、手持ち式丸のこ盤を使用し竹を切断していたところ、丸のこ盤の刃が太ももに接触し、失血死した。	131	8	10～ 29
2014	8	～ 10	9 資材置き場にて、車をバックさせようとした際、ギア操作を誤り、パーキングからドライブに入れアクセルを踏んだところ、車が前進し、前方で資材整理を行っていた被災者を車ではねた。	231	17	10～ 29
2014	9	～ 12	11 高圧線鉄塔敷地及び巡視路の除草作業中、被災者は数十匹のオオスズメバチの群れに襲われ、倒れているところを同僚に発見された。	719	90	10～ 29
2014	10	～ 11	10 解体したローディングアームをトレーラーに積もうと移動式クレーンで吊り、地面に水平に寝かせる作業を行っていたところ、ローディングアームに掛けていたナイロンスリングが切れ、落下し、ローディングアームの下にいた被災者に激突した。	372	6	10～ 29
2014	10	～ 14	13 港の岸壁に設置された船舶からダンプトラックへ砂の積み替え作業に用いるホッパーの修理作業中、被災者はダンパー内の排出口部分の鉄板の補強を行うため、トラック荷台上に設置した脚立の上に立ち、排出口の寸法を測っていたところ、ダンパーが閉じ、上胸部を挟まれた。	391	7	10～ 29
		10	鋼片工場にて、柱間の歩廊を張り替える工事中、朝に被災者が柱根元付近			

2014	11	～	に立っているのが数度同僚に目撃されていたが、午前休憩に入る際、柱付近に設置してある設備の隙間でうずくまっている被災者が発見された。	391	1	1～9
2014	12	10 ～ 11	擁壁上に落下防止用のフェンスを設置する準備作業中、隣接する敷地内に墜落した。	418	1	1～9
2014	12	17 ～ 18	ダンプトラックにより土砂の運搬作業中、荷台と縦根太の間に頭部を挟まれていたところを発見された。	221	7	1～9
2013	3	11 ～ 12	屋内運動場の新築工事現場において、1階の床をコンクリートポンプ車を使用して打設していたところ、ブームの根本の旋回体を固定しているボルトが多数破断し、水平方向に伸ばしていたブームが足場上に倒れた。これにより、ブーム先端付近でブームの操作を行っていた作業員1名が死亡した。	149	6	10～ 29
2013	4	9 ～ 10	被災者は、工事現場内で音響設備の設置作業中、駐車場に駐車していた車まで道具を取りに行き、駐車場から作業場所まで戻る途中、遮断機のない踏切（歩行者専用）を渡っていた際、進行していた電車と接触した。	232	18	10～ 29
2013	9	6 ～ 7	被災者は、自動車で現場に出勤し、現場駐車場（グラウンド隅）に駐車するため運転席側のドアを開けて後方を見ながら後退運転中、運転操作を誤り樹木に激突し、車両の右側面と樹木（幹）の間に頭部を挟まれた。	231	3	10～ 29
2013	8	8 ～ 9	2階建ての木造家屋において屋根の修繕工事をしていた被災者は、高さ4mの箇所（足場作業床）から墜落し死亡した。尚、被災者は老朽化した屋根瓦の修繕を行うため足場に昇り、2階屋根瓦の風化した練り土を取り除く作業を行っていたところ足元を滑らせ、手すりが欠落している隙間をすり抜け1階屋根の瓦へ転げ、更に1段目足場へ転落後、地上へ墜落したと推測される。	411	1	1～9
2013	1	8 ～	被災者は、屋上に設置されている看板を塗装するための準備作業としてコーキング剤による修繕を行うため、コーキング剤等を入れた段ボール箱を持ち、昇降設備も中さんもない単管足場の作業場所へ移動中若しくは作	411	1	1～9

		9	業準備中、足場より約13メートル下の地面へ墜落した。			
2013	11	8 ～ 9	鉄骨2階建屋の解体のため、鉄骨切断機で家屋2階の北面の壁を破碎したところ、鉄骨切断機のアタッチメント（鉄骨切断具）が壁や梁とともに、壁の奥にいた被災者に激突した。	145	6	1～9
2013	8	14 ～ 15	木造住宅の解体工事現場において、廃材（コンクリート片）をドラグショベルでトラックに積み込んでいたところ、ドラグショベルのバケットから廃材が落下し、被災者が下敷きになった。	142	4	1～9
2013	5	10 ～ 11	個人宅の北側外壁際に設置していた貯湯タンク（重量約540kg）の西側の基礎土台が沈下してタンクに傾きが生じたため、傾き補修のため東方向にワイヤーにて引っ張り、沈下した側の土台下にかさ上げブロックを入れようと、上席者と被災者の2人で西側土台の下周りの土をスコップで掘り、西側土台が完全に浮いた状態になった時、突然タンクが北側に倒れ、被災者がタンクと北側擁壁との間に挟まれた。	391	5	1～9
2013	5	13 ～ 14	4階建てビル屋上において、広告看板を設置するため看板設置用鉄骨最上部端部にて看板取付作業を行っていたところ、バランスを崩し16m下の道路に墜落した。尚、安全帯は着用していたが使用はしていなかった。	418	1	1～9
2013	1	10 ～ 11	自社資材置き場に於いて、各所の建設現場より返却された材木を長さ別に選別整理中、1.2mの高さの材木の束の上で半身の姿勢で材木を取ろうとした際、バランスを崩して墜落した。	522	1	1～9
2013	4	11 ～ 12	建物1階の床下部分に水がたまり、エレベーターピットに漏れ出ていたため、隣接するピットであったであろう箇所に穴をあけたところ水が噴出した。そこで、排水するポンプを設置し排水したが、ピットであったであろう箇所には硬い岩のような土砂が堆積しており、漏れ出ている箇所の確認ができなかった。おのため、電動ピックではつりながら掘り進めていたところ、土砂が崩落下敷きとなった。	711	5	10～ 29
2013	6	6 ～	会社所有のワンボックスカーで新築工事現場に向かっていた途中、追い越し車線を走行中、当該ワンボックスカーの右後輪が破裂したため、蛇行	231	17	10～ 29

		7	し、道路左脇の高さ6メートルの非常電話の支柱に衝突した。			
2013	9	6 ～ 7	被災者3名は事業場へ集合し、トラック（社用車）で新築工事現場へ出発した。左カーブを走行中、道路左側にあるガードレールに衝突し、運転手が車外へ投げ出されて死亡した。	221	17	10～ 29
2013	1	16 ～ 17	焼却炉に設置した廃熱ボイラーの水管に付着した灰をサンドブラストで取り除く作業にて、被災者は、炉内から外に出るために足場を移動していたところ、足場昇降用のタラップの開口から約3メートル下に墜落し、下部に設置された灰を搬出するためのスクリーコンベアに巻き込まれた。	411	1	50～ 99
2013	5	9 ～ 10	2階建て木造アパートの解体工事現場にて、2階の外部通路部分が落下し、下で作業を行っていた被災者が下敷きになった。尚、被災者は保護帽を未着用であった。	418	4	1～9
2013	3	10 ～ 11	民家の太陽光パネルを4名で屋根に上り設置中、高さ約6mの屋根から墜落した。墜落時の状況を見ている者はおらず、被災者は、墜落位置真上の屋根上でパネルの金具の取り付け作業を行っていた。	415	1	10～ 29
2013	2	6 ～ 7	作業終了後、リース会社まで高所作業車（作業台高さ19.5m）を上席者が運転して返却しに行く途中、路上脇に停車していた10トントラックに激突、助手席に座っていた労働者が死亡した。	146	17	30～ 49
2013	8	16 ～ 17	彼岸桜伐採工事において、高さ8mにある枝の切断作業中、切断した枝が当たらないような場所に退避したところ、折れた枝が幹に激突し、その衝撃により退避していた場所から約6m下の地面に墜落した。尚、切断していた枝にはワイヤー等を巻付け地面に落下しないようにしていた。	712	1	1～9
2013	8	9 ～ 10	事業場の屋根を塗装するため、2名でスレート屋根上に上り、ワイヤー付のデッキブラシと箒でスレート上面の汚れ落とし作業をしていたところ、被災者はスレート屋根を踏み抜き、高さ5.3mの位置から鉄板敷きの床面に墜落した。	415	1	1～9
2013	3	7 ～	大型トラックで高速道路を走行中、右に転進して中央分離帯に乗り上げ、下り反対車線路上に投げ出されたため、対向車に轢過され死亡した。	221	17	10～ 29

		8				
2013	8	16 ～ 17	被災者は、芝畑において手作業での除草作業を行っていたところ、熱中症で倒れているところを発見された。尚、災害発生当日の最高気温は36度、湿度は50～60%、被災者は、Tシャツの上に長袖シャツ、長ズボン、地下足袋及び帽子を着用していた。	715	11	10～ 29
2013	2	6 ～ 7	被災者と同僚の労働者1名は、会社事務所で作業の準備を行った後、ワゴン車に搭乗し建設現場へ向かっていた。県道の凍結した路面でワゴン車がスリップし、対向車線を走行していた大型トラックに激突し、後部座席に搭乗していた被災者が死亡した。	231	17	1～9
2013	11	14 ～ 15	被災者は、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.63トン）により、除染した土砂等を入れたフレキシブルコンテナバッグ（1.3トン）を山道脇の空き地に降ろすため、クレーン操作を行っていたところ、積載型トラッククレーンが横転した。これにより、操作をしていた被災者は積載型トラッククレーンのキャビンと、近くに敷き並べられていた単管パイプの間に挟まれ、圧死した。尚、目撃者はいない。	212	6	1～9
2013	5	11 ～ 12	被災者は、道路除染用ショットブラストを使用して、道路の除染作業を行っていた。除染作業中、ショットブラストが故障したため傾斜約10度の坂にトラックを停車させてサイドブレーキを掛け、輪止めを1個設置した状態で運転者がトラックから降りたところ、トラックが輪止めを乗り越えて逸走し、ショットブラストを修理していた被災者に激突した。	221	6	1～9
2013	3	9 ～ 10	被災者は、除染した枝木の仮置場に設置されている圧縮梱包施設ヤード内にトラックで枝木を運搬する作業を行っていた。被災者は、圧縮梱包施設ヤード内で、枝木を運搬したトラックの誘導を行っていたところ、山積みした枝木を掘削するために走行していたドラグショベルにひかれた。	142	6	30～ 49
2013	10	10 ～ 11	工場内の倉庫片付け作業に従事していた労働者が、同僚1名とともに、サクランボパック（500g入りのさくらんぼのポリスチレン製容器）1000個が入った段ボール箱47個を工場内の中二階の資材置き場に片づけていたが、中二階の開口部から約2.6メートル下の1階床に墜落した。	414	1	1～9

2012	3	13 ～ 14	個人住宅の解体工事現場において、高さ約2.5m、幅6mのブロック塀のうち、地上から高さ1.2mの範囲のブロック塀を残して解体するため、被災者は、ピックを用いて幅6mにわたり、高さ1.2mの箇所をはつり、その部分にあった鉄筋をサンダーにより切断していたところ、ブロック塀が倒壊し、下敷となった。	418	5	1～9
2012	10	10 ～ 11	液化ガス共同備蓄の船に係留し、液化ガスを出荷するための設備である「ローディングアーム」の足場の解体作業中、足場昇降用のはしごを足場の支柱に沿って設置していた際、最上階で作業していた被災者は、当該はしごを使用して降りようとしたところ、はしごがブランコのように揺れ、約8m下に墜落した。	413	1	10～ 29
2012	11	15 ～ 16	資材置場において、被災者が新たに購入した鋼板を置きやすくするため、鋼板を立てて置く場所に仕切りとして設置してあったC形チャンネル材の溶断作業を行っていたところ、最後の1本を溶断中、鋼板置場に立掛けてあった鋼板が被災者を直撃した。	521	5	10～ 29
2012	1	22 ～ 23	工事現場へ向かう途中、走行中のワゴン車が横転し、道路左側のコンクリート法面に衝突した。本災害により、同乗していた運転者の同僚労働者が死亡し、運転者ほか2名が胸や顔に重軽傷を負った。	231	17	1～9
2012	8	15 ～ 16	交差点で信号待ちの軽トラックにタンクローリーが追突し、軽トラックの運転手が全身を打ち死亡した。なお、タンクローリーはその後も止まらず、交差点を通過して対向車線側にはみ出し、7台に次々と衝突し、交差点から100mほど離れた建物に突っ込んで止まった。	221	17	30～ 49
2012	10	14 ～ 15	高さ7.8mの鉄骨柱に設置した天井クレーンのレール付近で、LANケーブルの敷設作業をしていた被災者は、他の労働者が移動させてきた天井クレーン（20 t）と鉄骨柱の間に挟まれ死亡した。	211	7	10～ 29
2012	10	8 ～ 9	工場構内の発電用ボイラーの定期点検作業において、ボイラー火炉内部に設置された足場解体作業を開始するにあたり、被災者は、投光器を移動させるため投光器キャブタイヤをセパレータのマンホールから引き出そうとしていたところ、火炉からセパレータへつながるガス出口床面の張り出し	416	1	1～9

			部から約25m下のボイラー底部まで墜落、脳挫傷等により死亡した。			
2012	1	15 ～ 16	被災者は看板及び提灯設置用のフレーム取付作業中、フレームと躯体の間にできた隙間を、スライダー式のはしごに上って足元の高さ2.5mの位置で確認していたところ、バランスを崩し地面に墜落した。	371	1	1～9
2012	1	11 ～ 12	木造家屋解体工事において、廃材をニブラを用いてダンプトラックに積み込む作業を行っていたところ、積み込み後、荷掛のため荷台の廃材上で荷均作業中に体勢を崩し、後ろ向きに約3mの高さから地面に墜落した。被災者は、頸髄損傷のため、入院先の病院で死亡した。	221	1	1～9
2012	5	14 ～ 15	LNGプラントにおける取水設備の点検、清掃、クラゲ防止網取付作業の際、被災者は海面から深さ5mの位置にある取水配管内に潜水し最終確認作業を行っていた。作業開始から約45分後、送気ホースの動きが止まった事に気づいた労働者が手繰り寄せたところすでに被災者は意識を失っており、救急搬送された病院で死亡した。	713	10	100 ～ 299
2012	7	11 ～ 12	橋梁の上部撤去工事現場において、トラスト部材（欄干）の切断撤去後の足場の解体作業中、地上からの高さ約8mの足場から河川敷へ墜落し、死亡した。	411	1	1～9
2012	8	3 ～ 4	高架橋塗替塗装工事において、橋脚間につり足場を設置する作業中、ずれた足場の位置を補正するため、レバブロックを使用してつり足場を牽引する作業を行っていた際、作業員がレバブロックの緊張を戻したところ、牽引していた足場の一部（2m×4m）が崩壊し、崩壊した足場上にいた被災者は、足場材料と共に約14m下のコンクリート製通路に墜落した。	411	1	30～ 49
2012	11	8 ～ 9	4階建てマンションの屋上防水工事現場において、当該マンションの屋上に移動するために隣接するマンションの屋上に上がり、床に養生シートを敷く作業中、屋上の外周にある立ち上がりに被災者が右足のかかとを引っ掛けて体勢を崩し、高さ約12mから地上に墜落し、死亡した。	418	1	1～9
2012	5	11 ～	営業所の建屋の折板屋根上において、屋根の塗装作業前の高圧水洗浄作業に従事していた被災者は、樹脂製の明り取りの天窓を踏み抜き、約10m下	415	1	1～9

		12	の倉庫内アスファルト床面に墜落し、死亡した。			
2012	8	14 ～ 15	外壁塗装工事を行っていた被災者は、道路から高さ約5mにある足場から道路上に墜落し、死亡した。	411	1	1～9
2012	1	13 ～ 14	被災者は林道沿いの電線に接触する等支障がある立木を単独で伐採していた。被災者の叫び声が聞こえ、現場監督らが急行してみたところ、被災者は斜面を約30m滑落していた。なお、安全带等墜落防止の措置はなかった。	711	1	1～9
2012	8	6 ～ 7	作業員4名が普通乗用車に同乗し、建設現場に向かって高速道路を走行中、道路上に落ちていたビニールシートを避けようと、運転手がハンドルを左に切ったところ、乗用車が道路左側のガードレールに衝突し、そのはずみで中央分離帯に激突し、後部座席に乗っていた2名が車外に放り出され、うち1名が死亡した。	231	17	1～9
2012	1	10 ～ 11	流雪溝（雪を流水を利用して流下させ、排雪するための設備。幅80cm、深さ65cm、水深20cm、水温3℃）の上部を覆った雪を取り除く作業において、スノーダンプを用いて雪を削り取るようにして流雪溝に落としていたところ、誤って、当該流雪溝に転落し、約70m流された。	418	10	10～ 29
2012	9	11 ～ 12	既設建築物に簡易リフトを設置する工事において、昇降路の鉄骨等の組立が終了し、設置した鉄骨と床面のわずかな隙間をコンクリートで埋めるため、鉄板（幅約50mmの長尺物）を溶接により取り付けていたところ、2階開口部付近（作業床の端）において、溶接の補助者として鉄板の端を押しさえていた被災者は、誤って約5m下のコンクリート上に墜落した。	414	1	1～9
2012	6	10 ～ 11	3階建の建物に設置されている機械室のないタイプのエレベーター（積載荷重約1 t）の地震感知器の点検作業をピット内で行っていたところ、作動確認のため搬器を2階から3階に上昇させた際、降りてきたカウンターウェイトとレールブラケットに胸部を挟まれて被災した。	214	7	1～9
2012	7	10 ～	被災者他3名で墓石の設置作業を行っていたところ、被災者がトラッククレーン（2.63 t）を操作していた際に、吊り荷の墓石（約200 kg）が被	212	4	1～9

		11	災者の頭上に落下して死亡した。			
2012	9	12 ～ 13	被災者はS造建築物の解体作業現場において、作業準備中、躯体2階スラブの階段開口部から転落した。	414	1	10～ 29
2012	11	16 ～ 17	車寄せの屋根に取り付けられたトップライト（格子状にガラスがはめられた明かり取り）のガラスを交換した箇所に、ガラスの枠（幅約6cm）に沿って雨漏り防止のためのコーキング（目地を埋める）を施した。その後、マスキングテープをはがすために被災者がガラスの枠上に登った際、誤ってガラス上に乗ったことによりガラスが割れ、高さ約6m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2012	7	8 ～ 9	被災者は既設屋外配管架空架台上において、新設配管の敷設準備のため架空架台を移動中、当該架台から約10m下の地面（アスファルト）に墜落した。	418	1	1～9
2012	5	9 ～ 10	被災者は鉄骨造の建屋の解体作業において、トタン製の屋根部分の上に乗って、自分の乗っているトタン屋根をサンダーで切断していた。トタン屋根の切断を終えた際、トタン屋根が梁を支点に天秤のように傾き、高さ約10mの屋根から墜落した。	415	1	1～9
2012	1	16 ～ 17	作業を終え事業場へ帰る途中、被災者の運転していた会社所有の乗用車が路面凍結によりスリップし、対向車線にはみ出した際に対向車両と正面衝突し、その後、後続車にも追突され、顎骨、左大腿骨骨折等により死亡した。	231	17	1～9
2012	11	16 ～ 17	街路灯の新設及び老朽化した街路灯の撤去を行う工事の資材置き場において、撤去された街路灯のコンクリート基礎部分を移動式クレーン（車両積載型トラッククレーン）を用いてつり上げて旋回した際、当該クレーンがバランスを崩して倒れ、当該クレーンを運転していた被災者が当該クレーンと資材置き場に置かれていたコンクリートブロックとの間に身体を挟まれて死亡した。	212	6	10～ 29

2012	2	13 ～ 14	建築物の解体工事に伴って発生した廃棄物の堆積場において、廃棄物をダンプトラックに積み込みするため、フォーク（物を掴むためのアタッチメント）を装着した油圧ショベルを旋回させたところ、旋回体の後部が被災者に激突した。	149	6	30～ 49
2011	7	13 ～ 14	既設の建物の塗装工事の左官工事において、6、600ボルトの高圧配電線付近の仮設足場上で左官の作業中、右手が高圧配電線に触れて感電したもの。	351	13	1～9
2011	1	9 ～ 10	建築中のもやし工場建屋において、1階育成室の天井裏にて、ダクト配管作業を行う予定であったが、同作業場所に別途建築工事の請負業者が足場を組立てることになり、被災者（3次）と2次業者1名でダクト部材の片付けを行った際、被災者の姿が見えないため、捜していたところ、各育成室の間にある隙間に墜落している被災者を別業者が発見した。被災者は、頭部を強打しており、10日後に死亡した。	414	1	10～ 29
2011	5	15 ～ 16	被災者は現場作業終了後、同乗者を乗せて軽トラックを運転し帰社していたところ、加害者運転の対向車が中央車線を越えて被災者運転の軽トラックに正面衝突したもの。被災者は搬送先病院で約2時間後に死亡した。また、軽トラック同乗者（別会社所属）は顔面陥没骨折・右足骨折で入院した。加害者は同日、相浦警察署において逮捕拘留された。	231	17	10～ 29
2011	12	15 ～ 16	小型移動式クレーン後部に積載されているコンクリートミキサーを洗浄作業中、稼働していたミキサーに挟まれ死亡したもの。	162	7	10～ 29
2011	7	13 ～ 14	廃業した養豚場の飼料サイロ（FRP製、高さ5.2m）を解体する作業中、サイロの鋼製支柱を溶断した後、サイロを倒すために被災者がサイロの下部で溶断後の支柱をハンマーで叩いたところ、サイロが倒れ、当該サイロの下敷きになったもの。	418	5	1～9
		15	被災者は、ゴルフ練習場の外周に設けられたボールネット支柱の塗装工事に従事、高さ約36mの支柱の25m付近（現認者なし）に、支柱に設けられた梯子を使用し登っていたところ、支柱の12m付近に設けられた点			10～

2011	1	16	～	検通路上に墜落、救急搬送後発生日夜に死亡したもの。被災者は、塗装作業の経験は長いものの災害発生日前日に雇い入れられ、現場入場2日目であった。また当日、当該支柱での作業は予定されていなかった。	418	1	29	
2011	3	11	～	建設工事現場で使用する足場材料を被災者が自社のトラックで、一次下請会社の資材センターに行き、足場材の積込完了後、検収の為に待機をしているときに、エンジンを掛けたままトラックを離れ、自車の前方に向かったときに、自車が動き出し、前方に停車していたトラックの後部と自車の前部に頭部を挟まれ死亡したもの。	221	7	30～ 49	
2011	3	11	～	12	鉄骨平屋建て貸し工場の解体工事現場で、スレート屋根を解体作業中に当該スレートを踏み抜き、約4メートル下の地面に墜落したもの。	415	1	10～ 29
2011	8	18	～	19	工場の荷卸し場の天井に設置されたテントの張り替え及びテントの鉄枠の塗装工事現場において、被災者が新しいテントを取り付けるため、高さ3.67mにある空調室外機の架台上でテントと鉄枠を紐で結び付ける作業をしていたところ、バランスを崩しアスファルト地面へ墜落したもの。	416	1	1～9
2011	8	22	～	23	自転車で道路上を走行中、後方から来た車に跳ねられたもの。	221	17	1～9
2011	9	13	～	14	同僚作業員1名とS造テント製倉庫の屋根に上がり、破損している開閉テントのワイヤークリップを交換する補修工事を行っていた被災者が、作業中に誤って鉄骨梁と屋根テントの継ぎ目から約6m下の倉庫内に墜落。頸椎を損傷し、一ヶ月後の10月3日に死亡した。軽量鉄骨の軸組躯体にシート貼りした構造のテントの屋根上作業であるが、奥まった作業箇所のため高所作業車等も寄り付けず、また、安全な作業床も設けられていなかった。	415	1	1～9
2011	11	11	～		屋根瓦滑落防止工事現場において、屋根上で瓦滑落防止のためのネットを取付中、約5m下の地上へ墜落したもの。	415	1	1～9

		12			
2011	4	9 ～ 10	枠組み足場の組み立てにおいて6段目で筋交の運搬作業を行っていた被災者が当該6段目作業床から墜落したもの（推定）	411	1 10～ 29
2011	11	14 ～ 15	9階建てビルの屋上ペントハウスに付随する広告塔改修工事において、広告塔の支柱となるH鋼サビ止め塗装を行う1次下請業者の作業員が、高さ約11メートルのコンクリート梁にて、サビ取り前処理作業を行っている際、屋上面に墜落したもの。	414	1 1～9
2011	4	14 ～ 15	工場のスレート葺き屋根上にある7台のルーフファンのモーターの交換作業において、3台目のルーフファンのモーター交換作業が終了し、当該ルーフファンのカバーを閉じるため被災者を含め5名で作業にあたり、同作業が終了したため被災者は移動しようとしたところ、アルミ製足場板を敷いていない箇所のスレートを踏み抜き8m下の工場内の床面に墜落したもの。	415	1 30～ 49
2011	12	14 ～ 15	被災者は、公園井戸水位揚水量の測定のため社用車（軽自動車）で国道を走行中、渋滞で停止していたトラックに激突し被災したもの。	231	17 10～ 29
2011	8	13 ～ 14	平成23年8月16日午後2時ころ、7階建てマンション1階にある店舗の看板取替工事に従事していた被災者が、同マンションに立て掛けたはしご上にて看板取替作業中、はしごから3メートル下の路上に落下し即死したもの。被災者の労働者性は現在調査中である。	371	1 1～9
2011	10	9 ～ 10	港の防波堤拡張工事現場の資材仮置場にて、大型トラック荷台から砂利の入った重さ約1トンの屯袋を、バックホウを用いて吊り卸作業を行っていた。大型トラック荷台で作業を行っていた被災者が、大型トラック荷台に載っている屯袋とバックホウで吊り上げた屯袋に挟まれ腰及び腹部を圧迫し負傷したもの。被災後は入院していたものの、様態が悪くなり、災害発生から54日後に死亡したもの。	142	6 10～ 29
			6時20分より予定されていた計画停電対策のため早出出勤し5時20分		

2011	3	6 ～ 7	頃九十九里町須原の現場に向かい、その後1.5 tトラックにて現場より会社倉庫に排水用パイプを取りに行く途中、県道大網白里線南今泉交差点にて3 tトラックと衝突した。	221	17	1～9
2011	4	15 ～ 16	被災労働者は震災で破損した倉庫側壁の補修を行うため、昇降設備を使用せず自動倉庫のラックを上ろうとしたところ約5 m下のコンクリート床面に墜落し死亡したものの。	418	1	1～9
2011	5	9 ～ 10	原発事故収束作業において特殊のこぎりを運搬中、心筋梗塞で倒れた。	921	90	1～9
2011	4	17 ～ 18	市内での出張作業を終えて、市外の会社事務所に戻るため、県道を車で走行中、午後5時16分に起きた「東北地方太平洋沖地震」の余震（最大震度6弱）によって発生した土砂崩壊に巻き込まれたもの。	711	5	1～9
2011	11	19 ～ 20	発電所の放水戸付近の土砂を潜水作業で除去しようとしたところ、何らかの原因で潜水土のマスクが外れて溺死した。（現認者なし）	391	10	30～ 49
2011	12	10 ～ 11	座礁した堆砂処理船をガス溶断して分解撤去するため、L字状に残った船の側壁をガス溶断していたところ、溶断途中で破断して、側壁が被災者の方向に倒壊して下敷きになった。	521	5	10～ 29
2011	12	12 ～ 13	パチンコ店の工事終了後、会社に戻る際に高速自動車道上で運転手のハンドル操作ミスにより横転し、後部座席に乗っていた被災者が車外に投げ出されて頭部を強打したものの。	231	17	10～ 29
2011	3	10 ～ 11	町内の民家に設置されている電気設備の保守・点検業務のため民家から別の民家までワンボックスカーで移動中、中央線のない道路でトラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2011	7	15 ～	キルン改修工事現場において、トラッククレーン（つり上げ荷重200 t）のカウンターウェイトの交換作業中、同クレーンが旋回したところ、車体と上部旋回体の間に腰部、両足を挟まれて負傷した。その後、市内	212	7	10～ 29

		16	の病院で入院加療を行っていたが、8月9日に死亡した。			
2010	12	16 ～ 17	体育館の壁下地材の組立取り付け作業を行っていた被災者が、内部足場の解体・搬出に伴い仮設置され、緊結されていなかった高さ約5mの作業構 台の端から、体育館のコンクリート面に墜落したものの。	416	1	10～ 29
2010	12	9 ～ 10	マンションの敷地内に設置された地上4段方式の立体駐車場の解体工事現場において、被災者は立体駐車場の4段目の位置（高さ5.9m）にあったパレット（駐車用の鉄板、幅2.1m、長さ4.5m、重量約500kg）上において解体作業を行っていたところ、被災者が動力伝導用チェーンの連結ピンを外したことにより、つり上げられていた当該パレットが落下し、被災者も一緒に墜落した。	419	1	1～9
2010	12	17 ～ 18	橋梁の塗装工事現場から会社事務所に被災者他4名で乗用車で向かってい る途中、運転操作を誤って蛇行運転となり、看板に激突し、1名が死亡し た。	231	17	10～ 29
2010	11	15 ～ 16	橋梁に設置したつり足場の解体作業中、被災者は足場上において取り外した足場板を仮置きしていたが、何らかの理由で足場上から約1.2m下の地面まで墜落した。被災者は足場のつりチェーンに安全帯を掛けていたが、胴ベルトの通し方を誤った結果、墜落の衝撃により腰に巻いた胴ベルトと帯ロープ側との接合部が外れてそれぞれに分離し、地面まで墜落したものの。	411	1	10～ 29
2010	10	12 ～ 13	海水配管交換工事において、撤去する既設配管及び台座点付け箇所を切断後、当該配管を移動式クレーンでつり上げようとしたところ、つり上げた 配管が振れて被災者の右側頭部に激突した。	212	6	1～9
2010	8	11 ～ 12	木造家屋建築工事に付随する水道工事のため、朝から作業を開始し30分 ぐらい作業をしたのち一旦休憩をとり、その後1時間ぐらい作業をしたと ころで体調が悪くなった。自宅に戻り休憩していたが回復しないため病院 で治療を受けたものの、熱中症と思われる症状で死亡した。	715	11	1～9
		15	精製した原油の輸送を行うパイプラインの防食修繕工事において、取り外			

2010	8	～ 16	した防食テープが詰められた土嚢袋（重さ約5kg）を運搬する作業を行っていたところ、現場で倒れているのが発見され、病院に搬送されたものの熱中症により死亡したものの。	715	11	10～ 29
2010	8	～ 12	組み立て中の足場の下から7層目（高さ約13m）に朝顔（落下防止柵）設置中、支持用の単管に足場板のつかみ金具をはめこむため、その足場板に乗って、体重をかけてはめ込んでいたところ、何らかの原因で足場板がはずれ、地上に墜落したものの。	411	1	1～9
2010	7	～ 17	被災者は小学校の体育館耐震改修工事において、朝から前日に解体したコンクリート等の廃棄物を体育館内で土のう袋に入れ、それを屋外のトラックに運ぶ作業を一日を通じて行った。夕方に仕事を終了し、道具等片付け後、元請会社のトラックにて元請会社まで移動中、助手席に座っていた被災者がぐったりし、反応が無くなったため、病院に搬送したが熱中症により死亡した。なお、被災者はこの日が入場初日であった。事故当時の午後の気温は35℃を超えていた。	715	11	10～ 29
2010	7	～ 11	会社の構内において、同会社発注の屋内消火栓ポンプモーターの工事現場で同工事を行わせるに際し、塩を備えず、高温による労働者の健康を防止する措置を講じなかったものである。その結果、労働者1名が熱中症を発症し、1週間後に死亡した。地方気象台観測データは、気温31.2℃、湿度65%。	715	11	1～9
2010	7	～ 10	サイロ内にたい積しているコンスターチのダストを搬出するため、同サイロ内に入槽し、同コンスターチを棒によって掻き出し作業中、サイロ内壁に付着していたダストが崩落し、崩落したダストに埋没した。	529	5	1～9
2010	7	～ 16	被災者は、気分が悪くなったと言い、災害発生場所近くの事務所2階居室で休憩した。翌日の朝、同僚が事務所2階居室を確認したところ、被災者がうつぶせで死んでいるのを発見した。体が暑熱な環境に慣れていない状況で、梅雨時の日が差す高温多湿な環境で作業を行い熱中症になったものの。なお、死亡推定時刻は午後3時頃である。	715	11	10～ 29
			被災者は2階にある男子用トイレの窓枠を撤去するため、建屋の外部足場			

2010	6	14 ～ 15	上で可搬式グラインダを使用して窓枠の切断作業を行っていた。被災者の横で同様の作業をしていた他の労働者が被災者の「痛い」という声を聞いて確認したところ、被災者は外壁にある耐震ブレスにもたれかかった状態となっているところを発見された。使用していたグラインダに漏電があり感電したとみられる。	153	13	1～9
2010	6	10 ～ 11	電力線送電鉄塔において、送電線（154kV）の支障となっている竹林伐採作業において、「うっ！」という声が聞こえたので同僚の作業員が振り向くと、被災者が気を失って倒れていた。病院へ救急搬送されたが災害当日に死亡が確認された。手指に感電痕らしいものがあり、感電したとみられる。	712	13	10～ 29
2010	6	9 ～ 10	工場内の定期修理工事において、塩化ビニルモノマー製造装置の一部である塩酸放散塔及びリボイラー（ともに第1種圧力容器）の立ち上げ作業を行うに当たり、リボイラーのホットボルティング作業中（温度上昇に伴う増し締め）、リボイラーの遊動管板が破断し、塩酸が噴出し、作業員8名が塩酸を浴び、うち2名が死亡したもの。なお、当該リボイラーは本工事において新品に更新したものである。	312	12	50～ 99
2010	6	9 ～ 10	工場内の定期修理工事において、塩化ビニルモノマー製造装置の一部である塩酸放散塔及びリボイラー（ともに第1種圧力容器）の立ち上げ作業を行うに当たり、リボイラーのホットボルティング作業中（温度上昇に伴う増し締め）、リボイラーの遊動管板が破断し、塩酸が噴出し、作業員8名が塩酸を浴び、うち2名が死亡したもの。なお、当該リボイラーは本工事において新品に更新したものである。	312	12	50～ 99
2010	6	13 ～ 14	S造2階建ての建築物の解体工事現場において、解体粉碎した瓦礫の選別作業を行っていた被災者が、後退してきたドラグ・ショベルのキャタピラに下半身を轢かれ、搬送先の医療機関で死亡したもの。ドラグ・ショベルの運転手が後方の被災者に気付かなかったもの。	141	7	10～ 29
		9	火力発電所の定期検工事において、被災者ら3名はボイラー煙道に設けられた脱硝装置内のステー（控え材）の交換作業中、ダンパー点検業者工事			

2010	5	5	～	業者らが被災者らを退避させずに流量調整用ダンパーの作動試験を行ったため、ダンパーの直下にいた被災者がダンパーとステーの間に頭部を挟まれた。	391	7	1～9	
2010	5	15	～	16	発電用水管ボイラー定期補修工事の空気予熱器内部のエLEMENT（円盤を12等分した分割ELEMENT、1個当たりの重量1370kg）6個目の	311	7	30～ 49
					抜取り作業において、ローターを回転させていたチェーンブロックの控えワイヤーの固定方法が不適切であったため控えワイヤーが破断しローターが逆回転した。この逆回転により、マンホール部から空気予熱器内部に巻き込まれた作業者が死亡、手動回転ハンドル部で待機していた作業者の足に外れたハンドルが激突した。			
2010	5	16	～	17	タンクに附随する配管を撤去する作業において、被災者は、隣にある混合槽（4×4m、高さ4.5m）を覆っている木製板の蓋の上を渡り、当該槽の上部で撤去作業を行っている作業員に工具を渡した直後、木製板が割れ、水槽内に墜落した。安全帯を使用していなかった。	418	1	10～ 29
2010	4	9	～	10	看板を取り替えるために使用するつり足場をビルの屋上から組立てる作業中、高さ約30mの所から墜落した。被災者は安全帯を着用していたが、使用していなかった。	411	1	1～9
2010	4	10	～	11	橋梁塗装工事のため吊り足場の仮設作業中、吊り足場上で川上側のころばしパイプとはな止めを緊結するための緊結金具（自在クランプ）を取付中か移動中、安全帯を使用しておらず、約14m下の川に墜落し、行方不明となった。翌日発見されたが、すでに溺死していた。	411	1	1～9
2010	4	13	～	14	被災者は脚立2脚を立て、足場板（杉板、幅20cm）を通して、脚立足場（作業床、高さは204～205cm）を作り、看板を取り外す作業を単独で行っていた。その際に足場から墜落し、半月後に病院で死亡したものの。墜落した際の見撃者はいない。墜落防止措置を講じておらず、被災者は保護帽を着用していなかった。	411	1	1～9
		9			事務所兼資材置場において、手持ち式丸ノコを使用して丁張り用の杭を作る作業を行っていたところ、手持ち式丸ノコで右足を切断してしまった。			

2010	4	～ 10	病院に救急搬送されたが死亡したものの。手持ち式丸ノコのカバーが針金で固定されていた。	131	8	1～9
2010	3	14 ～ 15	住宅兼店舗の裏山にある法面に立っていた木が住宅側に倒れかかってきた。この木を除去するため、被災者含め3名が屋根上で、玉切りする前段取として木の固定作業を行っていたところ、木が被災者側に動いてきたため、被災者は木に押され、屋根から5.57m下に転落した。被災者はヘルメットを着用していたものの、ヘルメットが割れ頭部を強く打ち付けたことから、頭部骨折により死亡したものの。	415	1	1～9
2010	3	8 ～ 9	移動式クレーンを使って鋼矢板を移動させる作業において、玉掛作業員1名が鋼矢板を玉掛けするため、同クレーンで吊った吊り治具（重量約500kg）を少し下げようオペレーターに合図したところ、オペレーターは、自由降下の操作により吊り治具を下げたため、吊り治具が急降下して、玉掛作業員の頭部を直撃したものの。	372	4	10～ 29
2010	2	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造の病院新築工事現場において、移動式クレーンを使用して型枠工事用の資材を1階のフロアーから中庭吹抜け部分に移動させる荷上げ作業中、資材を吊り上げたところ、後部アウトリガーが浮き上がり、そのまま移動式クレーンが転倒し、2階スラブ上で作業を行っていた被災者の頭部にジブが直撃し死亡した。	212	6	30～ 49
2010	1	10 ～ 11	高速自動車道のトンネル入口上部の法面で立木の伐倒作業中、被災者がチェーンソーを用いて追い口切りを行っていたところ、伐倒木が突然裂け、作業を行っていた被災者の背中に直撃した。被災者は、現地で応急処置を受けた後、ドクターヘリで病院に搬送され、治療を継続していたが、約2ヶ月後に死亡した。過重な負荷を掛けてチルホールで牽引していたため裂けやすく、また、重心が偏っている木に対して、受け口を広めに切り取っていなかった。	712	4	10～ 29
2009	11	13 ～	施設の移設に伴う保安柵設置工事現場において、鉄筋コンクリート支柱の建て込み中の掘削穴（幅37×43cm、深さ107cmで掘削底から75cmの高	713	10	1～9

		14	さまで水がたまっていた) に身体を突っ込んだ状態の被災者を発見し、救急搬送されたが同日死亡した。			
2009	12	16 ~ 17	高等学校の校舎改築に伴う鉄筋コンクリート造3階建の校舎解体工事において、被災者は2階でドラグ・ショベルを使用しての廃材集積作業等が終了した後、校舎西側の既存階段を当該ドラグ・ショベルを運転して通り、1階へと降りる途中に1階床へ当該ドラグ・ショベルとともに転落し、当該ドラグ・ショベルと校舎の壁にはさまれた。	418	1	1~9
2009	7	13 ~ 14	被災者は墓の建立作業に使用した小型移動式クレーンを後進させながら、作業現場から坂下に駐車しているトラックまで運搬していたところ、「ドン」という音がしたため同僚が駆けつけると、被災者と小型移動式クレーンが倒れていた。小型移動式クレーンは「かにクレーン、ミニクレーン」などと呼ばれるもので、運転席はなく、運転者は地上から走行レバーを操作し、走行するクレーンと共に歩きながら移動する構造である。	212	17	0
2009	6	8 ~ 9	会社の駐車場で、2tトラックの荷台に機体重量1.35tの小型ドラグ・ショベルを積み込むため、トラックの荷台の後部に鉄製の歩み板（長さ3m）2枚を掛け渡し、歩み板の上にドラグ・ショベルを前進させていたところ、ドラグ・ショベルが左に傾き、被災者とともに転落、その下敷きとなった。	142	1	10~ 29
2009	12	7 ~ 8	国道において、右折車（相手の軽乗用車）と直進していた被災者の軽ワゴン車が衝突し、被災者が死亡した。	231	17	10~ 29
2009	11	9 ~ 10	複合施設建築現場の1階大ホールの舞台部に反射板縦軸の上部ブラケットをホイスト（定格荷重240kg）を使用し取り付け作業中、ホイストフックの外れ止めが不良であったため、玉掛けワイヤロープがフックから外れ、ついていた上部ブラケットが落下し、下で作業の打ち合わせを行っていた被災者に当たった。	372	4	10~ 29
2009	3	14	港内の海上において、着岸させた事業場所有の台船上に小型船舶（作業船）を上げ、当該船舶の船底に塗装作業を行っていた被災者が、何らかの	239	5	1~9

		15	原因で小型船舶が倒壊し下敷きとなった。			
2009	11	10 ~ 11	配電線路接近樹木伐採工事において、被災者は伐倒する予定の杉木が伐倒方向にある別の杉木の枝にかかり木となる恐れがあったため、伐倒方向にある杉木の枝打ち作業を当該杉木（高さ約15m）に登り単独で行っていたところ、別の場所で作業をしていた同僚が杉木の下でうつ伏せで倒れている被災者を発見した。	712	1	1~9
2009	7	9 ~ 10	生コンクリートプラント解体現場において、被災者がバッチャープラント最上層で骨材導入部の大型ベルトコンベヤーの縁切りのためガス溶断作業をしていたところ、同ベルトコンベヤー溶断部が下方に傾いた。ガス溶断作業を中断し、当初予定を変更、ワイヤロープをかけて圧碎機で引いて折り曲げるべく段取りを始めたところ、同ベルトコンベヤーが大きく傾き、安全帯のランヤードが切れて被災者は約19mの高さから墜落した。	418	1	30~ 49
2009	3	11 ~ 12	災害発生事業場の上司を含む4人でジェットコースターの線路の橋脚（支柱）の塗装を行っていた（作業初日）。被災者2人は高所作業車を用いて作業を行っていたところ、高所作業車がバランスを崩して高所作業車上で作業をしていた2人とともに転倒した。作業直前に高所作業車で作業をしていた箇所の高さは約12.5mで、高所作業車設置場所の地盤の傾斜角は約10度~15度であった。	146	2	1~9
2009	3	11 ~ 12	災害発生事業場の上司を含む4人でジェットコースターの線路の橋脚（支柱）の塗装を行っていた（作業初日）。被災者2人は高所作業車を用いて作業を行っていたところ、高所作業車がバランスを崩して高所作業車上で作業をしていた2人とともに転倒した。作業直前に高所作業車で作業をしていた箇所の高さは約12.5mで、高所作業車設置場所の地盤の傾斜角は約10度~15度であった。	146	2	1~9
2009	8	11 ~ 12	被災者は、木造2階建ての個人住宅新築工事現場において、2階の階段手すりに長さ2.5m、幅19.5cm、厚さ3.5cmの木製の足場板を置き、固定していない状態の当該足場板に座って塗装用ローラーで内部階段の側壁の塗装作業を行っていたところ、足場板上から2.725m下の階段踊り場に墜落し	419	1	1~9

			た。			
2009	6	15 ～ 16	大学の実験施設C棟新営その他工事（RC造3F地下1F）において、R階のパラペット（幅39cm）上をH鋼材（長さ約67cm、重さ22kg、梁部材）を持って歩行中、R階に設置されたダクトにH鋼材が接触し、被災者が約14m下の1階に墜落した。	418	1	1～9
2009	4	12 ～ 13	民家解体工事現場で民家解体後、周囲のブロック塀撤去のため、ドラグ・ショベル（0.6立方m）を用いてブロック塀手前を約40cmほど掘削をしたのち、ブロック塀の基礎部分である最下段部手前側を削岩機にて破碎していたところ、突然ブロック塀（高さ1.9m、長さ14.2m）が倒れ、下敷きとなった。作業員2人死亡、代表者1人が負傷した。	418	5	1～9
2009	4	12 ～ 13	民家解体工事現場で民家解体後、周囲のブロック塀撤去のため、ドラグ・ショベル（0.6立方m）を用いてブロック塀手前を約40cmほど掘削をしたのち、ブロック塀の基礎部分である最下段部手前側を削岩機にて破碎していたところ、突然ブロック塀（高さ1.9m、長さ14.2m）が倒れ、下敷きとなった。作業員2人死亡、代表者1人が負傷した。	418	5	50～ 99
2009	5	16 ～ 17	建物を解体していた際に、アタッチメントをフォークに換えてタンクを移動させていた20tドラグ・ショベルが、廃材の仕分け作業をしていた被災者を廃材とともにはさんで持ち上げた。	149	7	1～9
2009	8	9 ～ 10	エアコンの室外機及びダクトの洗浄をするため、金属製の容器（20リットル缶）に入っている洗浄用フロン液を窒素ガスで圧送作業中、窒素ガスを送り込んだ当該容器が破裂し、当該容器を保持していた被災者に激突した。	391	15	1～9
2009	10	15 ～ 16	外部非常階段の塗装作業終了後に、塗装のために外していた階段裏板を戻すため、1階と2階の間の踊り場に脚立足場を設置しようとして足場板を脚立に緊結中にバランスを崩し転落し、階段の手すりを乗り越え、約3m下の地面に墜落した。	371	1	1～9
2009	6	16 ～	ゴルフ場内にある橋の塗装作業のため、つり足場を設置中、つり足場の足場板を利用して移動していたときに足場板が鋼管に緊結されていなかった	411	1	10～

		17	ため足場板が動き、バランスを崩し足場から転落した。			29
2009	9	11 ～ 12	製鉄所構内の高炉から発生したBガス（一酸化炭素を含む副生ガス）配管の更新工事において、フレアスタックへの配管切替作業用の足場を組み立てるため、既設配管の架台上に200mmのH鋼材を仮置き固定したのち、被災者が高所作業車の作業床を後方に水平移動させたところ、仮置したH鋼材と高所作業車の操作盤囲いとの間にはさまれた。	146	7	10～ 29
2009	4	9 ～ 10	被災者はマンション3F階段底上開口部のサッシ取り付け作業中、コーキング処理を行うにあたり、躯体内中側廊下から脚立を使用して開口部に仮止めたサッシを乗り越えるかたちで当該底上へ移動したところ、バランスを崩し庇先端部から約5.5m下の地面へ墜落した。	371	1	1～9
2009	10	10 ～ 11	反応釜（高さ5.3m、直径2.6m）の内部に付着した合成ゴムの除去作業を、被災者が一人で反応釜に入って高圧洗浄機を使って作業を開始した。その後間もなく、ロータリーガンから高圧水（推定200MPa）のホースが外れたため、ホースの高圧水が被災者に当たった。	169	8	1～9
2009	2	14 ～ 15	自社の工場の出入口に庇を取付ける工事において、庇の骨組みとなる鋼材にトタン板を取り付ける作業を行っていた被災者が、庇の骨組みとなる鋼材（高さ4.1m、幅5cm）から墜落した。被災者は保護帽も安全帯も着用していなかった。	411	1	1～9
2009	1	10 ～ 11	アルミ製はしご（高さ6.7m、上端を幹に固縛）に昇って充電式の小型チェーンソーで胸高直径41cmの杉の枝打ちをしていた被災者が、はしごから約6m下の地面に墜落した。	371	1	1～9
2009	5	17 ～ 18	娯楽施設の温泉槽の清掃及びメンテナンス工事現場において被災者は、ポンプ室ピット内で温泉槽の給湯ポンプ圧力スイッチ（交流200V）の修理のため制御盤のマイナス端子を外してから絶縁ドライバーを使用して圧力スイッチを取り外す作業を行っている際、配線が邪魔になるため除けようとしたところ端子に触れ感電した。	391	13	50～ 99
		16	同僚3人と河川堤防法面（勾配27度）の草刈作業を行っていた被災者が、			

2009	12	～ 17	誤って川に転落して溺死した。	719	10	1～9
2009	3	9 ～ 10	ビルの屋外階段に足場をかけるための見積りを作成するために、被災者1人で寸法を測る作業中、階段の最上階の踊り場から墜落した。	413	1	1～9
2009	2	～ 14	既設の鉄塔（高さ40m）にアンテナを取り付ける作業において、鉄塔を登り作業場所へ移動していたところ、地上約20m～25mの位置から墜落し、現場敷地内のフェンスに激突した後に地面に墜落した。	418	1	1～9
2009	10	～ 9	林道新設工事現場において、被災者が玉石を入れる籠に敷くシートを切断する作業を幅5mの道路脇で行っていたところ、後進してきた不整地運搬車の右クローラにひかれた。	227	7	10～ 29
2009	8	～ 10 ～ 11	製紙工場において、建物の屋根の排水溝等の清掃作業を3人で行っていた。10時休憩後、被災者が他の作業者に「やり残したことがある」と言い、1人で別の場所へ移動したため、残り2人で作業を行っていた。その後、製紙工場の従業員が大きな音を聞いて音のした方向を見たところ、被災者が高さ5.52mの屋根から墜落していた。被災者の両手は黒こげになっていた。	351	13	10～ 29
2008	6	～ 16 ～ 17	ホテル建築工事現場において、基礎地梁のコンクリート打設作業中に4段ブーム式コンクリートポンプ車で生コンクリート圧送作業を行っていた。その際、コンクリートポンプ車の2段目ブームが中間付近で折れて落下したブーム先端の絞り管（テーパー管）が遠隔操作装置（リモコン）によりホース先端の打設状況を確認していた操作者に激突した。また、打設作業中の作業員3名も落下してきた先端ホースが激突した。	149	6	1～9
2008	5	～ 15 ～ 16	同僚がドラグ・ショベルのアタッチメントをはさみ状の物に交換した機械を使用して2階建住宅の解体作業をしていた。その際、当該機械が旋回中にバランスを崩し転倒しその近くで廃材の分別作業をしていた作業員2名に激突して被災者がアームの下敷きになり死亡した。	149	6	1～9
			作業員5名でボイラーの燃料（石炭）を運搬するコンベヤー軸の取り替え			

2008	10	14 ～ 15	作業を行っていた。その時、突然、コンベヤーが動き出してコンベヤー軸を支えていた被災者がコンベヤーホッパーに巻き込まれ、ホッパーとコンベヤー外枠の梁にはさまれ死亡した。	224	7	1～9
2008	1	13 ～ 14	工場内変電所（66000V）のコンデンサーへの受電設備にかかる点検整備（刃型接点の点検、絶縁抵抗測定等）を、当該区間を部分停電して行っていた。午後の作業開始から、被災者は、同僚と2名で作業が予定されていなかった断路機のある電源側の鉄塔（高さ約5m）に上り作業を行っていたところ、電源一次側の充電部分に接触もしくは接近したため感電した。	352	13	10～ 29
2008	1	11 ～ 12	4階建て工場建屋の解体中、被災者と共同作業者の2名が建屋4階の床に親綱を張ることが可能か確認していたところ、当該床の端（高さ12m43cm）から被災者が墜落した。	416	1	10～ 29
2008	5	19 ～ 20	工場での作業を終えて帰社するために会社の車で被災者（運転手）と同僚1名の計2名が自動車道を走行中、対向車線にはみ出して反対車線を走行中の大型トラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2008	4	9 ～ 10	高速道路において、追い越し車線をカラーコーンで規制して高所作業車を用いて高速道路上を横切る橋の点検作業を行っていた。被災者は規制内の道路上で高所作業車の作業範囲の監視を行っていたところ、走行車線を走ってきた一般車両が斜走して被災者の約10m手前より規制内に進入して激突し、被災者が約40mはね飛ばされて死亡した。	231	17	1～9
2008	3	18 ～ 19	事業場が賃借している作業用者の出退勤時の集合場所及び作業者のマイカー駐車場として使用している空き地で業務用車両から出たゴミを焼却処分していた際、被災者1名が一斗缶に入ったシンナー（トルエン、酢酸ブチル含有）をゴミに注いだところ、燃えていたゴミの炎がシンナーに引火してゴミの焼却処分をしていた作業員4名が飛び散ったシンナーを浴び1名が死亡した。	512	11	1～9
		13	住宅改修工事で、住宅（長屋形式）を区画するコンクリートブロック塀を解体する際、ブロック塀全体（幅160cm×高さ200cm×厚10cm、重さ約			

2008	6	14	700kg) を倒そうとして、被災者が最下段のブロックをチッパーで砕く作業を行っていたところ、当該ブロック塀が倒れて被災者が下敷きになり死亡した。	418	5	1~9
2008	7	15 ~ 16	化学工場棟の増設工事において、被災者が駐車場から作業場所へ徒歩で向かっていたところ、約20m先に落雷して感電した。	719	13	1~9
2008	3	9 ~ 10	資材置場において、資材移動等を行うために移動式クレーン等を用いて5人の作業員で作業をしていた。被災者は移動式クレーンの付近でがれきの片付けを行っていたが、移動式クレーンの作業が開始されるため、移動式クレーンの付近から離れて別の移動式クレーンの部品であるアームが2つ重ねておいてある場所に移動した。そのときに2つ重ねてあるアームのうち、上の1つが転がり落ちて被災者に激突した。	521	5	30~ 49
2008	9	14 ~ 15	小学校の空調設備取付工事において、冷媒配管用金具を取り付ける作業を2人1組で柱に設置された1スパンの枠組み足場を使用して行っていた。冷媒配管用金具の材料が不足したため、被災者の相方が材料を取りに行った間に被災者が足場の3段目（高さ5.4m）から墜落した。	411	1	1~9
2008	3	14 ~ 15	ドラムクリッパーのフォークにドラム缶（242.9kg）をつり上げて運搬中、つり上げたドラム缶の介添えをしながらフォークリフト（最大荷重3t）と併走していた作業員が転倒し、当該フォークリフトにひかれて死亡した。	222	7	1~9
2008	7	22 ~ 23	現場のガス管修繕工事が完了した後、被災者が3tダンプカーを運転して事業場まで戻り、坂道となっている道路にダンプカーを停めて事業場の門扉を開けたところ、無人のダンプカーが後進してきて門扉との間にはさまれてひかれ死亡した。	221	7	1~9
2008	6	10 ~ 11	工場棟の屋根の雨漏りの修繕のため、高さ約6mのスレート屋根に昇り作業に取り掛かろうとしたところ、スレートを踏み抜いて工場内のコンクリートの通路に墜落した。	415	1	1~9
			パチンコ店舗改修工事において、被災者は高さ177cmの外部足場の一層目			

2008	11	15 ～ 16	の足場板に座り、窓に貼られたフィルムをはがしていた。窓2枚のフィルムをはがし終えて3枚目の作業を行う際、通常は刃の付いた工具ではがすところをフィルムの一部がはがれ浮いていたため、工具を使用せずにフィルムを手で掴み引きはがそうとした。その時、フィルムが切れ、その反動で後方に倒れて手すり足場板の間から足場の外側に墜落した。	411	1	1～9
2008	6	15 ～ 16	塗装ラインの給排気ファンの配線入れ替え工事の配線作業が完了した後、配電盤の配線カバー復旧作業中に近くの活線に触れて感電した。	352	13	1～9
2008	2	10 ～ 11	4階内装解体工事において、エスカレーター横の断熱ボードをはがす作業をしていた際、階下の同僚作業者に指示を出そうとして同ボードの隙間にあいていた65cm程度の開口部から身を乗り出しているところ、1m84cm下のエスカレーター上に墜落した。	418	1	30～ 49
2008	11	11 ～ 12	4階のベランダ塗装作業終了後、足場上へ仮置きしていた室外機等をベランダに戻していた際、足場の内側から約10m下の地上に墜落した。外部足場は、幅24cmの足場板を2枚敷いた状況で設置されていたが、墜落箇所については躯体の構造上、内側の足場板がはずされていた状態であったため、躯体から70cmの開口があった。	411	1	1～9
2008	1	11 ～ 12	露天風呂仮設屋根の取り付け作業中に足場板を移動していたところ、2.8m下の浴槽に墜落して死亡した。	411	1	10～ 29
2008	6	21 ～ 22	ポリエチレン製造プラントの配管メンテナンス工事現場において、配管の詰まりを取り除くために配管13箇所を切断して内部を清掃した。その後再び溶接した配管の耐圧試験（水圧45MPa）と気密試験（窒素20MPa）を終え、放出弁を開いて配管内部の空気を抜いて、閉止板を固定するクランプ（グレイロック）のボルトを緩めていたところ、突然、配管の内圧により閉止板クランプ及び配管等が吹き飛んで作業者に激突した。	321	15	10～ 29
2008	8	7 ～	花火大会の花火打上げ設備等設置工事において、花火打上げに使用する台船を会場近くの突堤に接岸させるために使用する小型曳き舟を曳航作業	239	10	1～9

		8	中、小型曳き舟が沈没して一人で乗船していた被災者がおぼれた。			
2008	2	3 ～ 4	事業場の社員寮の一室から出火して社員寮が全焼した。焼け跡から1名の遺体が発見された。	391	16	100 ～ 299
2008	2	8 ～ 9	被災者は、上司を含む同僚4名でスリットセンターのピットにはしご及び安全柵を設置する工事を行っていた。ピットに設置されていた足場上に墜落防止用に敷かれていた4枚のベニヤ板を被災者が足場から撤去して同僚2名がそれを受け取りピット脇に置く作業を行っていた。その時、最後の4枚目のベニヤ板を撤去して同僚に手渡したところ、足場の昇降用はしごが設置された開口部から約8m下ピットの底部に墜落した。	416	1	1～9
2008	1	16 ～ 17	鉄骨コンクリート造4階建ビルの解体作業現場において、4階部のALC板の内壁及び切断した鉄製の柱を同時に引き倒す作業を行っていたところ、レバブロックを操作していた被災者が逃げ遅れて倒れてきた鉄製の柱の下敷きとなった。	418	5	1～9
2008	11	10 ～ 11	橋梁塗装工事現場において、つり足場の組立作業を行っていた被災者が、高さ約2.7m下の川に転落し、おぼれて死亡した。	411	1	1～9
2008	1	11 ～ 12	電線の引込み線の切断作業中、電柱を登って手持ちグラインダーで線及び電柱に取り付けられているベルトを切断していたところ、足場を踏み外して高さ約5mの箇所から墜落して死亡した。	419	1	1～9
2008	7	19 ～ 20	自動車道道路保全工事において、JCT地内の路肩部分の雑木、雑草の刈り払い作業に従事した後、元請、一次下請の事務所を経由して会社事務所に戻る途中に容態が急変して病院に搬送されたが、死亡した。	715	90	10～ 29
2008	10	7 ～ 8	被災者が同僚が同乗したライトバンを運転して、電気設備修理現場に向かう途中、国道上でセンターラインを越えて対向車線に侵入したため対向車線を行っていたトラックと正面衝突して2名とも死亡した。	231	17	1～9
		7	被災者が同僚が同乗したライトバンを運転して、電気設備修理現場に向か			

2008	10	8	う途中、国道上でセンターラインを越えて対向車線に侵入したため対向車線を走行してきたトラックと正面衝突して2名とも死亡した。	231	17	1～9
2008	12	11 ～ 12	上水道工事の準備作業として残土捨て場で積載形トラッククレーン荷台に積んできたドラグ・ショベルを降ろす作業中に積載形トラッククレーンのアウトリガーを伸ばして荷台を15度に傾斜させてドラグ・ショベルを進行させて荷台から降ろそうとしたところ、ドラグ・ショベルが荷台上で滑走して荷台から外れたはずみでドラグ・ショベルが転倒し、運転していた被災者が振り落とされ、倒れてきたドラグ・ショベルの下敷きとなった。	142	2	1～9
2008	6	14 ～ 15	工場のシャットダウンの準備のためボイラー用固形燃料の入ったホッパー（高さ20m、縦5.6m、横3m）の内壁に固まった燃料を手作業で落とす作業をしていた。作業はホッパー壁面に単管を上下2本通し、壁面の内外で建地をクランプ留めし、ホッパー内下側の単管に立ち上側の単管を安全带取付設備として鉋等で固形燃料を崩していたところ、上から固形燃料が落下して被災者に激突し建地クランプとも落下した。	529	4	10～ 29
2008	9	8 ～ 9	店舗兼住宅新築工事現場において、アース・オーガ(以下本機という)の解体を行う際に、本機から取り外したロッド（長さ約10m、重量約1.4t）を本機に付属する巻上装置で一点づりし、ロッドの下部をドラグ・ショベルで移動させながら場内の所定の位置に下ろす作業を行っていたところ、つり上げていたロッドのかん環が破断して、落下・転倒したロッドの先端が本機後方の被災者に激突した。	143	4	10～ 29
2007	9	5 ～ 6	コンクリート圧送車の圧送パイプを分解して、パイプ内部のコンクリートの清掃後、2人でジョイント部にパイプを接続する際、下方よりパイプを支えるため、被災者が圧送車の左側面から潜り込んだところ、襟が、回転していた圧送車のシャフトに引っ掛かって巻き込まれた。	149	7	1～9
2007	1	13 ～ 14	ベルトコンベヤー駆動部の点検歩廊補修工事現場において、被災者は下部仮設足場付近で歩廊部の片付け等の作業を行っていたところ、ベルトとプーリーの間にはさまれた。	121	7	30～ 49
		17	工事現場から社用車で会社に帰る途中にインターチェンジ付近で車のタイ			

2007	10	～	ヤがパンクしたため、路側帯に社用車を停車しパンク修理をしていたと	221	17	10～
		18	き、後続の大型トラックが社用車に追突し、社用車が被災者に激突した。			29
2007	11	～	被災者が、溝内に仮置きされたL字型ブロック（重量約2 t）に玉掛用具	418	5	1～9
		14	を取り付けようとした時、L字型ブロックが倒れた。被災者は、倒れたL			
		14	字型ブロックと溝の壁にはさまれ、死亡した。			
2007	10	～	瓶の洗浄機械プラントの解体撤去工事中の作業で、洗浄装置外枠鉄板を溶	521	5	10～
		14	断中の被災者に、ガス溶断で切断された鉄板が倒れてきて、被災者が下敷			
		15	きになった。あらかじめチェーンブロックでつり上げられた鉄板を切断す			29
			る作業をしていたが、つり上げていた部分がスプロケットと呼ばれる軸で			
			あったため、鉄板に付いていた軸受けから切断の衝撃で、スプロケットが			
			抜けてしまった。			
2007	10	～	墓石設置工事において、作業で出た土を運ぶため、トラッククレーンを道	212	7	1～9
		16	路斜面に設置し使用していた。被災者は通行するバイクを通すために、ト			
		17	ラッククレーンを移動させようとしてアウトリガーを上げる操作をした			
			時、当該トラッククレーンが斜面を下りはじめ、ガードレールに接触しな			
			がら、30m走って横転し、被災者はトラッククレーンの横へ投げ出され			
			た。			
2007	2	～	被災者は帰宅後、作業場に置き忘れていた電動工具を取りに行くよう電話	231	17	1～9
		23	で指示を受け、自宅から一人で軽自動車を運転して、作業場に向かってい			
			た際、縁石に乗り上げて民家倉庫などに衝突した。			
2007	8	～	建物等解体除去工事現場で解体手元作業中、体調が悪いと座り込み、作業	715	11	10～
		16	を中止し寝転んで休憩していたが、5～10分後、身体が震えた状態で意			29
			識消失状態となり、病院へ搬送後、死亡した。			
2007	1	～	社長がドラグ・ショベルを運転し、事業場内のガスを片付けていたとこ	141	7	1～9
		9	ろ、倒れている被災者を発見した。被災者は手に箒とちり取りを持ってお			
			り、着衣にはドラグ・ショベルのクローラの跡がついていた。			
		13	ゴルフ練習場の玉洗い場の解体工事の現場において、被災者が、フェンス			

2007	6	～	のたる木を金づちでたたいて取り外し中に、前の用水路（深さ約1.3	419	1	1～9
		14	m) に転落した。			
2007	10	～	被災者は、汚水処理施設において、曝気槽の覆い（骨組：鋼、蓋板：FR	418	10	1～9
		12	P、1枚あたり大きさ2×4m、重量約100kg）を新品（ステンレス			
			製）に交換する作業中、覆いを移動式クレーンを用いて撤去するため、覆			
			いの上で玉掛け作業を行っていたところ、覆いが折れて、被災者も覆いと			
			共に曝気槽の汚水中へ墜落した。			
2007	2	～	本社事務所の解体工事において、破碎機で解体した屋根や壁材を解体中の	529	4	1～9
		13	建物の外に掻き出している最中、待機しているはずの被災者が不意に破碎			
			機の前を横切り解体中の建物内に立ち入った。被災者が解体中の建物に立			
			ち入っていたところ、2階西側の内壁のモルタル材の一塊約21kgがは			
			がれ落ち、約6mの高さから落下し、被災者にあたった。			
2007	4	～	ビルオーナーの建設会社の作業員2名が地下1階のテナントのスナックの	514	12	1～9
		18	流し台からの排水の状態が悪いとのクレームがあったため、地下1階通路			
		19	床下のマンホールから排水ピットに立ち入り、配管を点検していた。その			
			後、酸欠または硫化水素ガス等を吸い込み意識をなくして水中に没してい			
			るところを発見された。			
2007	4	～	流し台からの排水の状態が悪いとのクレームがあったため、店舗室内から	514	12	1～9
		18	点検した後、地下1階通路床下のマンホールから排水ピットに立ち入り、			
		19	配管を点検中、酸欠または硫化水素ガス等を吸い込み意識をなくして水中			
			に没しているところを発見された。			
2007	12	～	ダム建設用地の整備工事において、チェーンソーにて伐木作業中、予想し	712	6	1～9
		14	ていた方向と異なる方向に伐木が倒れ、被災者に激突した。			
2007	7	～	被災者他1名は、ドレン抜き配管及びドレン受皿設置のため、保冷室に	999	2	10～
		15	入った。配管作業によりドレン漏れが予想されたので、被災者が床上で、			29
		16	バケツでドレンを受けることとし、準備をしていたところ、被災者は転倒			
			し、ラックの鋼製部材で強打した。			

2007	8	15 ～ 16	金型倉庫の屋根ふき替え作業中に、スレートでふかれた屋根を踏み抜き、約7.4mの高さから墜落した。	415	1	1～9
2007	9	11 ～ 12	工場の屋根塗装工事中に屋根スレートを踏み抜き、高さ約1.5mから墜落した。	415	1	1～9
2007	8	16 ～ 17	工場内の天井梁・スラブデッキ等の塗装工事のため、構内に丸太足場を組み、足場上で塗装作業及び養生作業をしていたところ、クレーンのトオリ線（絶縁カバーなし）に触れ、感電した。	211	13	10～ 29
2007	3	11 ～ 12	築10年以上の6階建て事務所兼住宅の外壁の補修等の工事において、仕上げの洗い作業のために設置したビケ足場（建物6階相当（9層目）高さ約1.6m）の幅25cmの足場板上で建物に水をかけていた被災者が、足場の外側へ墜落した。	411	1	1～9
2007	6	15 ～ 16	焼却炉の火格子下部において火格子結束ボルト取り付け作業中、火格子を動力により作動させたところ、火格子を動かす駆動アームと梁の間にはさまれた。	169	7	1～9
2007	7	14 ～ 15	川底において除草作業中、強い雨が降ったため、いったん岸に上ったが、少し小降りになったため、小物道具を取りに川底に入り、岸に上ろうとしたとき、水位が突然急上昇して、下流まで押し流された。	713	10	1～9
2007	2	23 ～ 24	被災者は、河川橋梁に併設されている水管橋の伸縮管を取替える工事において、追越し車線を規制し当該工事を行っていたところ、走行中の一般車両が規制箇所へ突っ込み、工事車両誘導中の被災者がはねられた。	231	17	1～9
2007	8	5 ～ 6	工事現場での作業終了後、資機材とともに会社倉庫へトラックで移動中に、道路の路肩に停車中のトラック後部左側に追突した。	221	17	1～9
		13	製鉄所のコークス工場敷地内において、老朽化した配管の取替え工事作業において、一酸化炭素ガス配管の窒素ガス置換完了後、遮断板挿入のた			

2007	3	～	め、フランジの弛め作業を開始した。フランジ部へオープナーを入れ23	512	16	1～9
		14	mm開いた後、パッキン・タールなどの除去中、突然、管内から火炎が吹き出し被災した。			
2007	4	～	被災現場路上でマンホール金蓋異音補修工事を終了し、バリケード撤去作	221	17	1～9
		11	業中、南から走行してきたトラックに追突された。			
2007	11	～	廃水処理配管の取替え作業を、被災者と下請け作業者の2名で行ってい	413	1	1～9
		11	た。配管を車両積載形トラッククレーンにてつり上げたが、当該配管に巻			
		10	きつけた介錯ロープが短いため、当該ロープを掴むため、被災者が足場へ			
		11	行こうとしたところ、途中の架設通路の昇降設備（高さ1.125m、踏			
			み段3段、手すりなし、踏み面7.5cm）で足を滑らせ、深さ2.9m			
			の原水槽に墜落した。			
2007	5	～	工場内において、作業員3名で高さ約4.3mにある塗装設備の排気用	416	1	1～9
		11	ファンのベアリング交換及び清掃作業を行っていたところ、洗浄機のメン			
		10	テナンスを行う予定になっていた被災者が当該現場にあがってきたとき、			
		11	高所で作業していた作業員が後ろ向きで後退したことにより、被災者に接			
			触し被災者は工場内通路に墜落した。			
2007	8	～	雁木屋根消雪パイプ設置工事において、被災者は雁木屋根上にて、設置が	415	1	1～9
		14	終了した消雪パイプに電動ドリルを使用して穴を開ける作業中、雁木屋根			
		15	の端から約3.6m下のコンクリート上に墜落した。災害当時、雁木の周			
			囲には手すりを設置しておらず、被災者は安全帯を使用せず、保護帽も着			
			用していなかった。			
2007	12	～	天然ガスの採掘現場において採掘を停止しないまま配管増設工事を行って	321	14	10～
		10	いた。天然ガスを含んだ水を一時的に貯蔵するタンクの天板の上に乗る、			29
		11	被災者が配管接続金具を取り付けるため、アーク溶接を行っていたとこ			
			ろ、タンク内で爆発し、タンクの天板とともに吹き飛ばされた。			
2007	9	～	構内請負業者の事務補助の勤務を終えた被災者が、工場敷地内の道路上を	222	6	1～9
		14	歩いていたところ、トレーラーから資材を荷卸していたフォークリフトが			

		15	後進した際にフォークリフトにひかれた。			
2007	5	15 ～ 16	高さ約2.7m、直径1.3mの精製装置の内部にある触媒の取替工事において、被災者がエアラインマスクを着用して、窒素パージしてある同装置の頂部マンホールから約1.4mの位置に降り、そこにあった触媒を積載させるための鉄製グレーティングの一部（縦70cm横40cm）をつり上り荷重230kgのホイストで頂部につり上げようとしたところ、途中でホイストのフックからはずれて被災者に激突した。	372	4	1～9
2007	10	9 ～ 10	アパート外壁塗装工事現場において、2階建の屋根から墜落した。建物の養生を直すために屋根に上っていた。	418	1	1～9
2007	7	8 ～ 9	盆踊り用の舞台を設置する作業において、組立中のやぐら（高さ約2.4m）に乗り作業を行っていたところ墜落した。	419	1	1～9
2007	11	16 ～ 17	14階建てマンションの外壁、改修工事において、被災者は、北西側枠組足場上で外壁塗装作業終了後、2階部分の廊下に戻ろうとした際、誤って足を滑らせ、枠組足場2段目の躯体と足場との隙間から高さ3.36m下のコンクリート床面に墜落した。	411	1	1～9
2007	10	12 ～ 13	区道（車道5.7m、歩道1.5m）の路面改良工事に伴い、既存の消火栓標識移設工事を行っていたところ、ワンボックスカーが作業者が止めていた2tトラックに追突した。その弾みでトラックが約4m押し出されたため、トラックの前方約3mの場所で作業していた3人の内、1名がトラックにひかれた。	231	17	10～ 29
2007	8	15 ～ 16	工場解体工事において、高さ4.4mの屋根で散水作業を行っていた被災者が、地上へ墜落した。	415	1	30～ 49
2007	11	7 ～ 8	店舗1階入口天井部の電球取替えのための準備作業中、コンクリート梁から8m下の床に墜落した。	415	1	30～ 49

2007	9	4 ～ 5	新幹線の軌道上に設置された架線の可動ブラケット、架線桁に鳥避けの忌 避剤を塗布し、作業を終了したので可動式のはしごで降りようとしたとこ ろ、はしごが傾きバランスを崩して墜落した。	371	1	10～ 29
2007	7	11 ～ 12	被災者は高さ2.3mの資材置き場2階で足場板を番線で縛っていたが、 バランスを崩して北側の雑木林へ転落した。	418	1	1～9
2007	1	7 ～ 8	牛舎屋根の新設の単管に金属製の波板を張る作業において、屋根に3人の 作業者が上がり、4枚の波板を移動式クレーンでつり上げ仮置きし、1枚 ずつ穴明けして梁にフックボルトで取り付けていく作業中、突風が吹き作 業者の後ろに仮置きしていた波板があおられ、作業者が後ろから押され、 1人が高さ6.9mからコンクリート床に転落した。	415	1	1～9
2007	7	12 ～ 13	2階建てアパートの外壁塗装を行っていたところ、高さ3.36～3.5 8mの足場から墜落した。	411	1	1～9
2007	3	12 ～ 13	トレーニングセンター内の階段状の植え込み上、地上高さ約7m付近に上 がり、刈った枯れ枝を手で下へ掻き落としていた被災者が、足を踏み外し て地面（アスファルト面）に墜落した。	418	1	100 ～ 299
2007	10	19 ～ 20	2名の作業者が、その日の作業を終了し、搬入口から駐車場に向って徒歩 で屋外通路を移動していた。その屋外通路は、手摺が無く、かつ照明の無 い真っ暗闇の通路であった。2名が誤って約6m下の河床に墜落し、負傷 した。このことを聞いた被災者が、救助しようと屋外通路を歩いていたと ころ、踏み外して約6m下の河床に墜落した。	417	1	1000 ～ 9999
2007	7	8 ～ 9	被災者は、壊れたガードレールの復旧工事のため、同僚5名とトラック2 台で工事場所付近の国道の歩道（幅員約6m）に乗り付け、トラックを降 りて、車道をはさんでほぼ真向かいの工事場所へ向かおうとして幅員約1 2mの同国道の車道を歩いて横断していたところ、左側から黄信号で直進 してきた2tトラックにはねられた。	221	17	1～9

2007	7	15 ～ 16	水漏れの修理を終えた産業廃棄物焼却炉内において、試運転のため廃棄物である液状のアスファルト（ドラム缶入り）を燃焼させようと、ドラム缶の天板をアセチレンガス溶接機で溶断中にドラム缶が爆発し、溶断作業中の被災者が全身火傷で死亡した。	513	14	1～9
2007	5	15 ～ 16	製油所の定期補修工事において、セラミックボール入りドラム缶（250kg）を塩素除去塔の頂部ステージ（高さ約13m）から地上へ移動式クレーン（25t）で運搬する作業中、ドラム缶を約2mつり上げたところドラム缶が落下し、合図をしていた被災者に当たった。	372	4	1～9
2007	1	11 ～ 12	足場用資材を積んだトラックを移動させる際、被災者2名は、荷台の上で資材が動かぬように手で押さえていたところ、トラックが上り勾配でスリップし、運転手がブレーキを踏んだ時に、その反動で押さえていた資材が崩れ、被災者に当たり死亡した。	521	5	1～9
2006	11	10 ～ 11	地下1階熱源機械室において、点検口から排気トレンチ内に進入した被災者は、排気トレンチ内に蒸気を放出する放出管から噴出した水蒸気を浴びた。	714	12	1～9
2006	12	9 ～ 10	液化ガス貯蔵タンク（直径約40メートル、高さ約30メートル）の屋根面の塗装作業を行うため設置したゴンドラの撤去作業中、ゴンドラのワイヤロープの取外しを行っていた際、高さ約28メートルの貯蔵タンクの上部から作業員2名が墜落した。	418	1	1～9
2006	12	9 ～ 10	液化ガス貯蔵タンク（直径約40メートル、高さ約30メートル）の屋根面の塗装作業を行うため設置したゴンドラの撤去作業中、ゴンドラのワイヤロープの取外しを行っていた際、高さ約28メートルの貯蔵タンクの上部から作業員2名が墜落した。	418	1	1～9
2006	12	15 ～ 16	工場建屋の屋根葺替工事において、被災者は、屋根材（鉄板：20m×0.6m）を2分割で取外し撤去するため、中間部をサンダーで切断した。その後安全帯を外して屋根上を移動しようとした際、切断後の屋根材に乗ってしまったため、屋根材が梁部分で折れ曲がり、その開口部（2.3m×0.6m）から墜落した。	415	1	30～ 49

2006	7	16 ～ 17	設備改修工事において、工場4階コーヒー焙煎器の送風機のモーターを大容量のものに交換するにあたり、モーター架台の改造のため、被災者が焙煎器点検台（鋼製）上に腹ばいの姿勢でアーク溶接、下で同僚が溶接火花の監視および掃除を行っていたところ、点検台上からうめき声が聞こえたため同僚が見上げると被災者が意識不明となっており、搬送先で死亡した。	332	13	1～9
2006	2	9 ～ 10	被災者は工場改修工事に向かうため、ダンプトラックの助手席に同乗していたが、ダンプトラックが交差点手前で信号待ちをしていたトラックに追突した。その衝撃で、荷台に積んでいたコンプレッサーが滑り助手席の後部のプロテクターごと被災者に激突した。	221	17	10～ 29
2006	2	9 ～ 10	工場改修工事に向かうため、ダンプトラックを運転していた被災者は、交差点手前で信号待ちをしていたトラックに追突した。	221	17	1～9
2006	10	15 ～ 16	民家2階のコロニアル屋根（4分勾配）をローラー刷毛で塗装作業中に高さ5.75メートルの軒先から墜落し、隣家の外壁に一度当たった後、隣家の敷地内に墜落した。	415	1	1～9
2006	8	11 ～ 12	スレート屋根の補修塗替工事において、被災者はフックボルトのタッチアップの作業のため屋根上に上っていたところ、スレート屋根を踏み抜いて約10m下のコンクリート製の倉庫床面に墜落した。	415	1	1～9
2006	8	9 ～ 10	製品昇降用のパーチレータ（垂直搬送機）2基の解体撤去工事において、北側（上り専用）の北側側面を開口した後、机（高さ74センチメートル）を作業床にして、搬器を吊ったワイヤロープをガス溶断したところ、高さ約6メートルの位置にあったカウンターウェイトが落下し、被災者を直撃した。	214	4	10～ 29
2006	8	16 ～ 17	産業廃棄物処分場の水処理設備にある汚水槽内（地下約6m）にある水位計を槽外に取り出して点検しようとした作業員2人が、汚水槽底部で倒れ、病院に搬送されたが死亡した。槽内に入った理由は、水位計の配線が絡まったために直そうとしたものである。	514	12	10～ 29

2006	6	6 ～ 7	被災者外1名は、1トントラックに同乗（被災者は助手席に乗車）し、工事現場に向かうため、片側一車線の県道を走行中、センターラインを超えて走行してきた対向車（ワゴン車）と衝突した。	221	17	1～9
2006	6	11 ～ 12	被災者は、工場解体現場で高所作業車の運転者と共にバスケット内に搭乗し、工場の壁材である石綿含有スレート建材の撤去作業を開始しようとしていた。運転者はバスケットを上昇させる直前にエンジンをかけたまま、被災者を残して離れたが、その後に被災者が当該バスケットと梁（地面からの高さ4メートル）の間に上半身を挟まれているのが発見された。	146	7	30～ 49
2006	6	11 ～ 12	22KV電線路新設に伴う接近樹木伐採工事において、すでに倒木してあった樹木の搬出作業をクレーンを使用して実施していた。枝のみを吊り上げようと荷作り玉掛けし、吊り上げたところ幹から切り離されていない枝も玉掛けしていたため、幹の片側が吊り上げられ被災者の方へ旋回した。直後に枝が根本付近で折れ、幹の部分が被災者に倒れかかり、被災した。	212	4	1～9
2006	4	8 ～ 9	ビルの機材設備の保守点検に向かうため、高速道をワンボックスカーで移動中、渋滞で止まっている自動車の後部に追突した。	231	17	1～9
2006	3	9 ～ 10	橋梁基礎工事の掘削穴（深さ約5m）に設けられた土止め支保工の火打ち（穴底より2.6mの高さ）をクレーンで取り外すため、火打ちの両側の腹起しに固定のため取付けていたボルト8本をそれぞれ1本に減らした状態とし、被災者が玉掛けの準備で下方（穴底）で待機していたところ、火打ち（H鋼、長さ約3m、重さ約300kg）が突然落下した。	412	4	10～ 29
2006	5	11 ～ 12	個人住宅屋根の融雪パイプ配管工事において、脚立の天板上（高さ1.7m）に乗り作業を行っていた労働者がバランスを崩して墜落した。	371	1	1～9
2006	4	～	14 屋根（スレート製）で雨漏り補修工事を行ない、工事終了後全体の状況を写真撮影するため隣接する別棟の屋根に上ったところ、スレートを踏み抜	415	1	300 ～

		15	き約10メートル下の工場内床面（コンクリート製）に墜落した。			
2006	3	13 ～ 14	資材置き場において、25トン移動式クレーンを用いてログハウス建築資材（5.8t以、長さ10m、横1m、たて2.7m）を移動中、過負荷防止装置を解除し作業していたため、当該移動式クレーンが前のめりになり、つり荷が落下、その下で作業していた被災者が下敷きになった。	212	4	1～9
2006	3	15 ～ 16	寄宿舍で火災が発生、災現場より被災者が発見された。	418	16	10～ 29
2006	2	9 ～ 10	トラックから建築資材を搬出するため電動式のフォークリフト（最大荷重750キログラム）を使用後停車させたところ、サイドブレーキをかけていなかったため、傾斜を後進し始めた。被災者は別のトラックの誘導のためトラック側面にいたところフォークリフトが被災者にぶつかり被災者はトラックとフォークリフト後部に挟まれた。	222	7	1～9
2006	2	16 ～ 17	被災者は一輪車に生コンを入れた状態で、後ろ向きに階段を下りていたところ、階段踊場付近から、下まで墜落した。	413	1	10～ 29
2006	1	7 ～ 8	被災者は事務所から、会社所有の車に乗り現場に向かう途中、路面が降雪により凍結していたため、車がスリップし、反対車線を走っていた大型トラックと衝突した。	231	17	1～9
2006	1	14 ～ 15	10万キロリットル原油タンク内の清掃のため、内部の原油を抜き取り後、7名の作業員がタンク内底部に残ったスラッジの排出作業中、タンク内で火災が発生し、作業員5名が死亡、2名が負傷した。	512	16	1～9
2006	1	14 ～ 15	10万キロリットル原油タンク内の清掃のため、内部の原油を抜き取り後、7名の作業員がタンク内底部に残ったスラッジの排出作業中、タンク内で火災が発生し、作業員5名が死亡、2名が負傷した。	512	16	1～9
2006	1	14 ～	10万キロリットル原油タンク内の清掃のため、内部の原油を抜き取り後、7名の作業員がタンク内底部に残ったスラッジの排出作業中、タンク	512	16	50～ 99

		15	内で火災が発生し、作業員5名が死亡、2名が負傷した。			
2006	1	14 ～ 15	10万キロリットル原油タンク内の清掃のため、内部の原油を抜き取り後、7名の作業員がタンク内底部に残ったスラッジの排出作業中、タンク内で火災が発生し、作業員5名が死亡、2名が負傷した。	512	16	50～ 99
2006	1	14 ～ 15	10万キロリットル原油タンク内の清掃のため、内部の原油を抜き取り後、7名の作業員がタンク内底部に残ったスラッジの排出作業中、タンク内で火災が発生し、作業員5名が死亡、2名が負傷した。	512	16	50～ 99
2006	1	13 ～ 14	セメント原料を生産するキルンのダクト（直径約3.4m、長さ約103m）からクリンカーダストを抜き出すダスト回収ホッパーがあり、このホッパー内に溜ったダストの抜き取り作業を行っていたところ、ダクト内にいた被災者が、ホッパーに引き込まれ、ダストの中に全身が埋没した。	418	1	10～ 29
2006	2	15 ～ 16	炉体冷却水補給配管への空気抜き配管取付け工事のための事前調査で、高所作業車を操作し地上に戻ろうとした際、デッキに衝突し挟まれた。	146	7	10～ 29
2006	1	7 ～ 8	被災者は社有車で現場事務所を出て現場に向かっていた。緩いカーブにおいて、対向車線を走っていたトレーラーがスリップし、被災者の走行車線上にトレーラーの荷台部分がはみ出したため、当該トレーラーの荷台部分と被災者の車両が衝突した。	221	17	30～ 49
2005	3	15 ～ 16	勾配が50度の法面上において、チェーンソーで伐倒作業中、20m下のダム湖に転落し、溺れた。	711	1	1～9
2005	11	11 ～ 12	焼却処理施設内において、破袋機のスクリュウの羽根をアーク溶接で肉盛する作業を行っていたところ、突然、破袋機が稼動し、回転したスクリュウに巻き込まれた。	162	7	1～9
2005	2	9 ～ 10	電気集じん機の上部配管の保温材の補修のため、当該集じん機のFRP製の天板の上に乗ったところ、これを踏み抜き、1.5m下の電極板のつり枠の上に墜落した。	391	1	1～9

2005	7	11 ～ 12	乗用車で県道を走行中、反対車線を走行していたトラックがセンターラインをはみ出してきたため、これに正面衝突した。	221	17	1～9
2005	1	16 ～ 17	配電工事終了後、作業のため寄せていた台車を所定の位置に戻していたところ、作業位置にいた被災者が台車と壁との間に挟まれた。	223	7	1～9
2005	7	15 ～ 16	車庫の梁部分に取り付けられたコードリールを、脚立に乗って取り外していたところ、脚立ごと倒れて墜落した。	371	1	10～ 29
2005	7	11 ～ 12	空気分離装置に充填していた粉末状の断熱材を吸引、除去する作業中、断熱材に埋まった。	391	5	1～9
2005	8	14 ～ 15	小型クローラクレーンで勾配が26度の坂道を登坂中、20cmの段差を乗り越えようとしたところクレーン前部が持ち上がった状態になり、登りきれずにクレーンが横転し、運転していた被災者がクレーン後部に挟まれた。	212	1	1～9
2005	8	11 ～ 12	工場の集じん機増設に伴う電源工事において、動力線新設作業に従事していた被災者が、電線の敷設を終えて片付け作業中に漏電していたワイヤクリップに触れたため感電した。	351	13	1～9
2005	4	0 ～ 1	ガスタンクの解体工事で、ガス槽の屋根上でアーク溶接作業等を行っていたところ、ガス槽内部で爆発が発生してガス槽が跳ね上がり、ガス槽の屋根上で作業していた被災者が跳ね飛ばされ、地上に墜落した。	418	14	1～9
2005	9	16 ～ 17	自動車を運転中、原動機付き自転車（バイク）と衝突した。	231	17	10～ 29
2005	9	9 ～	商店街アーケード屋根上において、屋根の桁上に渡した歩み板の上で、屋根材である板ガラスの取付け金具を塗装中にガラスを踏み抜き、8m下に	415	1	10～ 29

		10	墜落した。			
2005	5	9 ～ 10	市街灯柱建替え工事現場において、架空引込電線及び蛍光灯器具の取外し作業中、突然柱が根元から折れ、被災者とともに地面に倒れた。	418	1	1～9
2005	1	16 ～ 17	国道のセンターライン付近で、鳥の死骸の回収をしていたところ、走行してきたトラックに激突された。	221	17	1～9
2005	1	14 ～ 15	被災者は、灰出しコンベヤー上に落下したケレン棒を拾うため、上半身をコンベヤーの中に入れたところ、動いてきたスクレーパーに押し上げられ、渡り歩廊とスクレーパーとの間に挟まれた。	224	7	10～ 29
2005	9	10 ～ 11	送電鉄塔で絶縁体部品のがいしの洗浄作業で、鉄塔上部を移動中に50mの高さから墜落した。	418	1	10～ 29
2005	7	14 ～ 15	電気工事現場において、持っていた端子締め付け工具が、露出していたプラグスイッチの1次側充電部に接触し感電した。	352	13	1～9
2005	10	14 ～ 15	橋の塗装工事現場において、足場の組立中、13m下の河川敷へ墜落した。	411	1	1～9
2005	7	15 ～ 16	乗用車で渋滞の後ろを低速走行中、後方からマイクロバスに追突された。	231	17	50～ 99
2005	11	8 ～ 9	灯浮標（ブイ）から取り外された灯器を作業員2名が乗ったパレットに載せ、支えながらフォークリフトで運搬する際、パレット上の被災者が灯浮標（ブイ）を固定するための鉄製の架台とフォークリフトとの間に挟まれた。	222	7	50～ 99
		14	水道管の保温材取付け作業中、誤ってスレート屋根を踏み抜き、5.3m下			

2005	4	～ 15	に墜落した。	415	1	1～9
2005	3	8 ～ 9	橋型クレーンで加工済みの異形棒鋼を24本番線で束ねた荷（重さ760kg）をつり上げてトラックに積載する作業中、つり荷の下敷きとなった。	211	4	10～ 29
2005	11	8 ～ 9	オートバイで走行中、信号機のない交差点で、右から進入してきた乗用車と出会い頭に衝突した。	239	17	10～ 29
2005	2	17 ～ 18	トルエン等の第2種有機溶剤含有物を用いた空室内の塗装工事を、窓等を閉め切った状態で、保護具を使用せず行っていたところ、有機溶剤中毒となった。	514	12	1～9
2005	12	18 ～ 19	明かり取りの天窓の取外しを行うため、屋上に出て取外しの対象である天窓の確認を行っていたところ、天窓付近から7m下に転落した。	418	1	1～9
2005	9	11 ～ 12	伐採現場において、高さ20mの松の木を伐採する際、方向を限定して倒すため、松の木の上部及び根元にワイヤを架けドラグ・ショベルで幹の中段を支えながら、チェーンソーによる伐採作業を行っていたところ、松の木が倒れる時、若干回転したことにより、被災者の運転席を直撃した。	712	6	1～9
2005	8	11 ～ 12	工場内で、はけ塗り作業に使用したローリングタワーの解体作業中、2段目の作業床上にいた作業者が、足元の足場板1枚を下ろそうと持ち上げたところ、上端が天井梁に引っかかったためバランスを崩し転落した。	411	1	1～9
2005	5	21 ～ 22	ガスタンク（直径60m）の外層と内層の間に断熱材の紛体を充てんする作業を行っていたところ、誤ってタンク上部の球面で滑落し、側壁部の充てん済みの断熱材に埋没した。	418	1	1～9
2005	3	13 ～ 14	プール脇の更衣室の屋根（高さ3.5m）上において、下地材をはけにより塗布する作業中、コンクリート地面に落下した。	415	1	1～9

2005	4	5 ～ 6	トラックで国道を走行中、緩やかな右カーブで、対向車線からはみ出して向かってきた大型トレーラートラックにほぼ正面から衝突した。	221	17	10～ 29
2005	6	10 ～ 11	廃液貯蔵タンクの天板にできたピンホールを補修するため、タンク上部でアーク溶接によりあて板を溶接中、タンクが爆発した。	513	14	10～ 29
2005	2	17 ～ 18	住宅の屋根に設置された融雪装置の点検作業をした後、雪下ろしを行って屋根から墜落した。	415	1	1～9
2005	10	17 ～ 18	トラックで町道を走行中、路外に逸脱した。	221	17	10～ 29
2003	11	16 ～ 17	個人住宅のベランダ解体工事において、高さ3.6mの位置にあったベランダの梁（C型の鋼材）を撤去しようとして墜落した。	416	1	1～9
2003	11	4 ～ 5	大型トレーラー（38t台車）にクレーン用カウンターウエイト（重さ約35t）を積んで走行中、交差点を左折したときにトレーラーが横転し、運転席部分が中央分離帯の標識塔に衝突した。	221	17	10～ 29
2003	11	13 ～ 14	マンションの修繕工事において、足場6段目上でマンション5階のベランダ手すりのペーパーがけ作業をしていたときに、約15m下の川に墜落した。	411	1	1～9
2003	9	14 ～ 15	道路維持管理のため、橋上で路側帯の土砂の清掃をしていたときに走行してきたトラックに激突された。	221	17	1～9
2003	8	15 ～ 16	ガソリンタンク2基のインナーフロートの工事中に、2つのタンク間に設置したガス検知器の警報が鳴って火災が発生し、タンク内の作業員3名とタンク内で作業していた避難途中の作業員3名が死亡した。	512	16	30～ 49

2003	8	15 ～ 16	ガソリタンク2基のインナーフロートの工事中に、2つのタンク間に設置したガス検知器の警報が鳴って火災が発生し、タンク内の作業員3名とタンク内で作業している避難途中の作業員3名が死亡した。	512	16	1～9
2003	8	15 ～ 16	ガソリタンク2基のインナーフロートの工事中に、2つのタンク間に設置したガス検知器の警報が鳴って火災が発生し、タンク内の作業員3名とタンク内で作業している避難途中の作業員3名が死亡した。	512	16	1～9
2003	8	15 ～ 16	ガソリタンク2基のインナーフロートの工事中に、2つのタンク間に設置したガス検知器の警報が鳴って火災が発生し、タンク内の作業員3名とタンク内で作業している避難途中の作業員3名が死亡した。	512	16	1～9
2003	8	15 ～ 16	ガソリタンク2基のインナーフロートの工事中に、2つのタンク間に設置したガス検知器の警報が鳴って火災が発生し、タンク内の作業員3名とタンク内で作業している避難途中の作業員3名が死亡した。	512	16	1～9
2003	8	15 ～ 16	ガソリタンク2基のインナーフロートの工事中に、2つのタンク間に設置したガス検知器の警報が鳴って火災が発生し、タンク内の作業員3名とタンク内で作業している避難途中の作業員3名が死亡した。	512	16	1～9
2003	8	16 ～ 17	溶接個所の横に設けられた階段上で溶接作業中に、高さ6.4mのところから墜落した。	413	1	1～9
2003	8	15 ～ 16	工場内の雨水等排水施設工事において、その日の作業を終えて清掃・片づけ作業していたところ、1人が急に現場を離れて所在が不明となったので付近を探したが発見できず、工事現場から500mほど離れた公道上で熱中症により倒れていた。	715	11	1～9
2003	7	16 ～ 17	製鋼工場造塊ヤードの釜台車の解体作業で、ガス溶断をしていたときに仮置きしていた釜台車の防護壁が倒れて下敷きになった。	521	5	30～ 49
		14	7階建マンションで、外壁の隙間にすみ込んだコウモリの巣穴に2cm角のスポンジをベランダから脚立を使って押し込んだ後、外部から点検するた			

2003	7	7	～	め直径が3cmの繊維ロープにブランコを取り付けて屋上から降りようとしていたときに、屋上の丸環に結び付けていた繊維ロープが解けて約22mの個所からブランコもろとも地上に墜落した。	379	1	1～9	
2003	7	10	～	11	一酸化炭素発生プラントの定修工事で、1階の洗浄塔の逆流防止弁の自動開閉装置の取り付け工事を2名で行っていたところ、何らかの原因で弁が開いて、一部稼働していた装置から一酸化炭素が洗浄塔に逆流して1階および2階部の開放されたマンホールから漏洩したため、作業を行っていた7名が一酸化炭素を吸引し、また、救出に駆けつけた13名も被災し1名が死亡した。	514	12	50～99
2003	6	16	～	17	車両積載型移動式クレーン（つり上げ荷重2.9t）の荷台からドラグ・ショベル（バケット容量0.45m ³ ）でH型鋼（300×300、長さ5m、重さ0.47t）の荷卸しを行うため、バケットに取り付けてあるフックにワイヤロープを掛け、H型鋼にはクランプ1個でつり上げて左旋回したところ、クランプがH型鋼から外れて下にいた作業者の頭を直撃した。	142	4	1～9
2003	6	11	～	12	リサイクルプラントにおいて、残木粉碎機の刃を交換する作業を行っていたときに、点検のため油圧エンジンで持ち上げていた蓋（直径3m、重さ3t）が落下してきてはさまれた。	121	7	1～9
2003	5	10	～	11	木造平屋建築物（約60m ² 、軒高3.26m）の解体作業で、柱、屋根の取り付け作業を残した状態で休憩していたところ、建物が倒壊しその下敷きになった。	415	5	1～9
2003	5	19	～	20	蒸留塔の改造工事で、当日の作業が終ったので打合せのため塔のマンホール（地上47m）からプラットホームに出て本設のはしご道を降りて事務所にもどる途中に、地上20mのところにあるプラットホーム上に墜落した。	413	1	10～29
2003	5	11	～	12	ダム貯水池内に設置された抜気循環設備の修繕作業で、深さ約40mの位置で潜水作業を行ったあと浮上しているときに、ボンベの空気がなくなったため急浮上し減圧症となった。	714	12	1～9
2003	5	11	～		3名が自家用車に相乗りして会社事務所から火力発電所に向かう途中、県道の右カーブで対向車線にはみ出してトラックと衝突し運転手が死亡し	231	17	100～

		12	た。			299
2003	4	11 ～ 12	6階建ビルの外壁塗装工事で、外部足場でビニールシート張りをしていたときに、高圧線の接続部分に接触し、電撃の反動で約8.5m下に墜落した。	351	13	1～9
2003	4	17 ～ 18	3車線の自動車道路の第2通行帯にあった落下物を回収するため、徒歩でその車線に入ったときに、第3通行帯から第2通行帯に進路変更してきた普通自動車に激突された。	231	17	1～9
2003	3	20 ～ 21	事業場の車で会議に出席するため自動車道を走行中、左側のガードレールに接触し、反動で中央分離帯に衝突して車外に投げ出されたところへ後続のワゴン車に跳ばされた。	231	17	50～ 99
2003	3	15 ～ 16	汚染土壌の掘削工事で、敷鉄板をドラグ・ショベルで移動して敷鉄板を前に倒し、地面から約30cmで止めた後に敷鉄板の玉掛け用具を外すため、レンガを敷鉄板と地面との間にはさんでいたときに、ドラグ・ショベルのオペレーターがバケットを下げたため、バケットで押し潰された。	142	7	50～ 99
2003	3	0 ～ 1	新築分譲住宅建設工事で、浄化槽の据付けのため溝（幅約1.8m、奥行き約3.5m、深さ約1.8m）を掘削し、その中で厚さ約10cmに流し込んだ生コンを鏝(こて)で押さえていたときに、地山が崩れてきたため窒息死した。	711	5	10～ 29
2003	3	13 ～ 14	マンションのエレベーター昇降路等の補修工事において、2階に搬器を停止させ、搬器上部に敷設した作業板および搬入口奥の単管足場に設けた作業板を作業床として昇降路の内壁を塗装しているときに、突然、搬器が上昇したためバランスを崩してピットに墜落した。	214	1	1～9
2003	3	16 ～ 17	高さ2.44mのはしごの上（踏み面4cm）で、民家の壁にトタン板を釘で打ち付ける作業を行っていて、コンクリートの床に墜落した。	371	1	1～9
2003	3	9 ～ 10	フッ化水素酸製造プラント設備の定期整備工事において、放水により設備の洗浄作業に従事していた者が何らかの原因でフッ化水素を浴びた。	514	12	10～ 29

2003	2	11 ～ 12	高炉改修工事で、集じんダストの排出用の樋およびその架台等を撤去する ため樋の下から樋の架台をガス溶断していたところ、架台の支えがなくな った樋（6m、約450kg）が落下し激突された。	419	4	1～9
2003	2	10 ～ 11	新築住宅の浄化槽埋設工事において、ドラグ・ショベルで長さ3m60cm、 幅1m50cm、深さ1m80cm掘削後に底部の地均しをスコップで行っている ときに、建屋側の地山が長さ約2mにわたり崩れて生き埋めになった。	711	5	1～9
2003	2	0 ～ 1	軽量鉄骨2階建住宅の新築工事において、建物の検査を行っていた作業者 が、1階から2階に通じる移動式階段前の1階床上に倒れているのを発見さ れた。（外傷性くも膜下出血）	413	1	1～9
2003	2	21 ～ 22	立坑内（深さ約10m）にある水道管（直径2.2m）のマンホールを開けて 内部の調査をするため、マンホールのボルトを外して行ったときに、水道 管内の残圧により水が噴き出て立坑内に水が溜まり溺死した。	713	10	0
2003	1	16 ～ 17	会議中に気分が悪くなって席を外し、しばらくしても戻らないので様子 を見に行ったところ、意識不明の状態で倒れているところを発見された。	911	90	10～ 29
2003	1	14 ～ 15	橋梁の塗装工事において、アーチ部の上塗り作業をしていた者が、足場作 業床（幅80cm×120cm）から一段上（高さ90cm）に設置していた足場作 業床（幅40cm×120cm）に移動するときに、足場板と足場板との間（幅 70cm）から約7.2m下のつり足場の上に墜落したあと、防網の隙間から約 23m下の地面に墜落した。	411	1	30～ 49
2003	1	0 ～ 1	看板の保守点検作業で、外周の点検作業中に走行してきたトラックに道路 上ではねられた。	221	17	1～9
2003	1	14 ～ 15	看板設置作業を終えてトラックで帰る途中、運転者が居眠り運転をして右 カーブを曲がれずに歩道に乗り上げて街路樹に激突したため、助手席に同 乗していた者が両下腿骨折したので病院で感染症を防ぐため薬剤の投与を 続け、症状が安定した14日後に両下腿骨折の手術を行ったところ、手術中 に心筋梗塞を起し心肺停止となった。	221	17	1～9

2003	1	16 ～ 17	物流センターの配送ラインの油圧リフト（1,600kg）の解体作業において、ピット内で点検作業中に油圧ポンプから油が漏れたために降下してきた油圧リフトにはさまれた。	219	7	1～9
2001	7	8 ～ 9	2tトラックの助手席に乗り看板工事現場に向けて自動車道を走行中、乗っていたトラックの左前輪が破損してハンドルをとられたため、路肩側ガードロープ支柱に激突した。	221	17	1～9
2001	10	8 ～ 9	副原料タンクを取り付けるため、高さ5.80mの鉄骨上で準備作業を行って墜落した。	419	1	1～9
2001	12	16 ～ 17	チェーンソーで立木の伐倒中、追口を切っている途中で立木が縦に裂けながら倒れ始めたため、伐倒方向と反対方向に退避したが伐倒木の跳ね返って木の根側に左半身を直撃され、さらに斜面を約16m滑落した。	712	6	1～9
2001	12	13 ～ 14	鉄塔の鋼管部材の接合部分のき裂、損傷の点検(目視確認)中に、地上約25mの高さに位置する水平材上から墜落した。	418	1	50～ 99
2001	6	9 ～ 10	屋根上において、明かり採りの葺き替え工事に敷設安全ネット及び木製歩み板の撤去のため、袋に詰めた安全ネット(約10kg)を抱えて荷降ろし用に屋根の軒先近くに停めていた高所作業車のバスケットに積み込もうとスレート屋根を移動中に、スレート屋根を踏み抜き約10m下の地上に墜落した。	415	1	1～9
2001	12	7 ～ 8	ビル塗装工事現場において、1階外壁の塗装を行なう際、1.2mの脚立の上にもたがるような体勢で作業を始めたところ、脚立ががたついてバランスを崩し、脚立とともに転落した。	371	1	1～9
2001	11	8 ～ 9	資材置場で、足場用の建材をトラッククレーンで荷台に積んでいるときに、玉掛けワイヤーの1本がフックから外れ、建材がトラッククレーンの操作者の上に落下した。	372	4	10～ 29
		11	内装工事のため、ビルの前の道路において携帯用丸のこ盤(接触予防装置			

2001	12	～	の機能を失わせたもの)を使用し化粧張用板を加工中に、誤って右大腿部	131	8	1～9
	12		を切創した。			
2001	10	9 ～ 10	25tラフタ?クレーン(四輪操舵)のリアステアリングストッパーの修理のため現場である国道に行き、クレーン車輛後部をジャッキアップして左後輪	212	7	50～ 99
			タイヤハウス内の後輪車軸後方で修理作業を行っていたときに、急に舵取りした左後輪タイヤと車体との間に胸部をはさまれた。			
2001	10	16 ～ 17	倉庫の解体工事で、解体した鉄骨をトラックで運びやすいように地上でガス溶断を行っていたときに、後に立てていた鉄骨が倒れてきて頭部が鉄骨	521	5	10～ 29
			と鉄骨との間にはさまれた。			
2001	7	～	鉄製貯水タンク内の防錆塗装工事において、2名がタンクの内部に入りタ	514	12	1～9
	1		フシールプライマー液をローラーを用いてタンクの側面と床に塗る作業をしていたときに2名ともタンク内で倒れた。			
2001	9	15 ～ 16	温水パイプ敷設工事において、屋外の温水パイプ保温工事に使用した単管	411	1	1～9
			足場(一部枠組み)の解体作業を行っていたところ、構内道路をまたぐ形で設けられていた足場の単管を外していた者が足場板とともに4.58m下の道路に墜落した。			
2001	9	15 ～ 16	廃止した浄化槽に砂を入れるため上部床をコンプレッサーでハツリ作業を行っていたところ、乗っていた床が傾きながら浄化槽内に転落(約2.3m)し	418	1	1～9
			たため同時に浄化槽内に落ち、落ちてきた床板の下敷きになった。			
2001	2	13 ～ 14	自動車道の路肩に寄せられた雪塊の排出現場において、雪塊を現場後方に	221	17	10～ 29
			設けられた雪捨場まで運搬するため雪塊を満載した4tダンプトラックがバックで進行中、後方にいた者を左後輪でひいた。			
2001	8	8 ～ 9	製品倉庫隣接の休憩室の解体作業に先立ち、電気配線及び電気器具の電源を確認するために製品倉庫に行ったとき高さ4.6mの天井クレーンの走行	351	13	1～9
			レールに登っていたときに、クレーンの給電用裸トロリー線(200V)に接触し感電した。			
		8	配管塗装用足場の解体作業中、単管を取り外すため取り外そうとする単管			10～

2001	7	9	上でクランプを緩めていたところ、単管が片持ちとなり約9m墜落した。	411	1	29
2001	7	11	校舎屋上防水工事において、既存の防水層の撤去作業に使用するエアーチッパー(はつり機)のホースを取扱い中に屋上より約16m下の地面へ墜落した。	418	1	1~9
2001	7	14 ~ 15	銭湯の解体のため朝から建物周囲に防護ネットを張るための丸太材を組む補助をしていたが、気分が悪いと上司に告げ休息を取っていたときに突然苦しみだし痙攣を起こし、病院に運んだが、病院に移送したが熱中症で死亡した。	715	90	1~9
2001	6	16 ~ 17	定修工事において、塩酸塔還流ボトムラインのバルブ取付工事を行っていて、塩酸塔に隣接する消火設備の配管上に転落した。	391	2	10~ 29
2001	5	8 ~ 9	鉄骨階段塗装工事のため3階建ビル正面をの塗装に使用したブランコを移動しようとしたとき、ブランコを支えているロープが切断し地上11.2mから地面に墜落した。	379	1	1~9
2001	5	16 ~ 17	高所作業車内で検相を実施したのち、家側と接続することになったが、高圧縁廻し線が短いため別の電柱の縁廻し線の碍子バインド線を外して縁廻し線の位置をずらし、再び接続する電柱に移動したとき、感電した。	911	13	50~ 99
2001	5	13 ~ 14	スーパーの看板(高さ14m)の塗り替えを丸太足場上で行っていたところ、丸太足場の布部分(長さ5.54mの丸太)が中央部分から折れ、10.4m下のアスファルト地面に墜落した。	411	1	1~9
2001	5	17 ~ 18	解体工事現場で発生した廃材(畳)をトラックで運搬し、トラックから畳を降ろすために荷台をダンプさせていたところ、荷台に積まれていた畳が倒壊して荷台から滑り落ち、荷台周辺にいた作業員に激突した。	221	6	1~9
2001	5	16 ~ 17	舞台の吊り物である側面反射板(高さ6m)を吊っているワイヤーロープ2本を取替えるため、反射板の骨組みである鉄骨梁に足をかけてワイヤーを外しているときに約5.5m下の床に墜落した。	391	1	1~9

2001	4	9 ～ 10	産業廃棄物の処理会社において、鋼鉄製囲いを撤去するため、囲いの両側をガス溶断し地上へ引き倒そうとしたところ、地上より約3.3mのところ	418	4	1～9
2001	5	15 ～ 16	送電線に近接する支障木の伐木を行っていて、熱射病により死亡した。	715	11	1～9
2001	4	10 ～ 11	個人宅の建替工事現場において、電線の取付・取外し作業を行うため軽量アルミ製の移動はしご(長さ4.5m)をパイプ管に立て掛けロープで固定して、作業をしていたところ、パイプ管の基礎部分であるコンクリートブロックが幅10cmにわたり損壊したため移動はしごとともに道路上に転落した。	371	1	1～9
2001	4	9 ～ 10	ビル一階店舗の壁面に取り付けられた電照看板を取り替える作業で、既存のものを取り外そうとして看板とともに脚立上からコンクリート歩道に転落した。	371	1	1～9
2001	5	22 ～ 23	ポリプロピレン製造工場の乾燥設備の整備、清掃作業で、投光器を扱っていて感電した。	359	13	1～9
2001	4	10 ～ 11	単管で補強していたブロック塀(高さ2m)を解体するために単管を外し、単管をかたずけていたとき、ブロック塀が倒壊し、手伝いに来ていた土工が下敷きになった。	419	5	10～ 29
2001	4	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造建物の改修工事で、ダムウェータを解体するためガイドレールをピット底から約150cmのところまで1m切断したのち搬器シーブ上のメインロープをガスで切断したところ、吊合い重りが落下してきて激突され、残っていたガイドレールに串刺しになった。	214	4	1～9
2001	4	17 ～ 18	スレート屋根の張り替え作業中にスレートを踏み抜き、約10m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	50～ 99

2001	4	9 ～ 10	玉石垣(たまいしがき)上の樹木の剪定作業中に、樹木または玉石垣から墜落した。	418	1	1～9
2001	3	9 ～ 10	工業用水の配管の取替工事で、作業場所に工具を置き忘れたので取りに戻るため、工場と工場間のアーケードの上に昇ったときにアーケードの端部から約6m下のコンクリート上に墜落した。	415	1	1～9
2001	3	16 ～ 17	線棒工場のスレート葺き屋根上の雨樋の修理作業で、当日の作業が終了したので残材や工具類の片付けを行っていて、道具袋を取ろうとしてバランスを崩し歩み板から足を踏み外して、スレートを突き破って約4.5m下の工場内の設備の上に墜落しさらに約1.9m下の通路に転落した。	415	1	1～9
2001	3	11 ～ 12	広告蛍光看板の蛍光灯の交換作業を行うため、高さ約2.1mの足場上に脚立を載せてその上(地上から約2.7m)で作業していてバランスを崩し、脚立もろともコンクリートの地面に墜落した。	371	1	1～9
2001	3	22 ～ 23	発電所定期点検工事において、発電用ボイラの内部に設置された足場の最上部で加熱器パネルの灰落し作業を行うため、足場上を移動しているときに足場から約7m下の上部ステージに置いてあったゴンドラ上に落下した。	411	1	1～9
2001	2	11 ～ 12	倉庫内にある鉄骨造の中2階の解体作業において、床デッキ(1枚約30kg)を取り外して運搬中に、高さ2.8mの床の端から墜落した。	414	1	1～9
2001	2	16 ～ 17	鉄筋コンクリート造アパートの浄化槽設置のため、幅5.2m、深さ2.7m、長さ10mにわたってドラグショベルで掘削していたところ掘削壁面の土砂が崩壊し、掘削床で整地作業をしていた2名の作業員の足が埋まり、うち1名が土塊で上半身を直撃され内臓が破裂した。	711	5	1～9
2001	1	14 ～ 15	工場建屋屋根のスレート吹き替え工事で、材料を屋根にあげスレートの上を移動中に、スレートを踏み抜き、約10～12m下の建屋内に墜落した。	415	9	1～9

2001	1	13 ～ 14	工場の塔屋の鉄骨組立作業で、柱部材2組と屋根部材を接合するためフォークリフトに立てかけた柱に登りボルトの仮締め作業を行っていたところ、クレーンで吊っていた反対側の柱を右旋回させたため部材が屋根部材に当たった反動でもう一方の柱が倒壊し柱の下敷きになった。	212	5	1～9
2000	12	17 ～ 18	生コン打設で使用したコンクリートポンプ車のホッパーを洗浄していてホッパー内に転落し、回転していたホッパー内の攪拌機に挟まれた。	149	7	10～ 29
2000	7	14 ～ 15	公園内ポンプ場の草刈・枝打ち作業で、脚立を伸ばして梯子としてフェンスに立てかけ、高さ2.1mのフェンスの最上段に片足を掛け、もう一方の足を脚立の踏みさんに掛けチェーンソーで枝打ち作業を開始した直後に切った枝とともに地面に墜落した。	371	1	10～ 29
2000	5	15 ～ 16	現場での作業を終え帰宅のため4名の乗った乗用車が農道を走行中、ダム道路付替工事現場での作業を終えて事務所に戻ろうとしていた乗用車が正面衝突した。	231	17	10～ 29
2000	11	11 ～ 12	コンクリート工場の資材置場で、上屋材の取り付け作業をしていて高さ約10m足場から転落した。	414	1	10～ 29
2000	7	10 ～ 11	還元炉の補修工事中に、気分が悪いとして早退して入院したところ熱中症と診断され翌日に死亡した。	715	11	1～9
2000	2	9 ～ 10	配管の更新工事で、空調機械室内の消音ボックス上で配管作業中に、高さ4mの作業床の端から墜落した。	416	1	1～9
2000	1	3 ～ 4	仮設踏切に木製枕木を敷設する工事で枕木を積載型移動式クレーン(吊上げ荷重2.93t)で吊り降ろそうとしたときにブームが鉄道架線(2万V)に接触し感電した。	212	13	1～9
		18	工事現場からコンクリートポンプ車3台が帰社し、車から降りて仮駐車場			

2000	11	～	出入口付近の路上で1台目の車を誘導していたときに傾斜のために前進して来た無人のコンクリートポンプ車にひかれた。	149	17	1～9
2000	1	13 ～ 14	実験棟屋上の防水工事のため、屋上で旧防水シートをカッターナイフで切断中に足を踏み外して11.5m下に墜落した。	415	1	1～9
2000	4	8 ～ 9	乾粉溶解スラリー配管工事で、配管を設置するためのサポート金具をH鋼に1個アーク溶接で取り付け次のサポート金具を取り付けるため壁側の寸法を測りに行ったとき、回転中の換気扇(直径80cm)に頭部を巻き込まれた。	169	7	10～ 29
2000	6	15 ～ 16	乗用車で県道を走行中、対向車線にはみ出してトラックと正面衝突した。	221	17	10～ 29
2000	12	10 ～ 11	駅出入口正面の消防設備改修工事で、建屋の内側で配水管に巻かれたステンレス製のカバーと保温材の取外し作業を行なっていて風道の地下(高さ6.3m)に転落した。	414	1	10～ 29
2000	12	8 ～ 9	スレート屋根一部葺き替え工事で、屋根上に仮置きしていた古いスレートを移動式クレーンで降ろすための段取り中に、スレートを踏みぬき約16メートル下の地上床に墜落した。	415	1	1～9
2000	8	13 ～ 14	高さ約18mのパチンコ店の広告塔の内部において、付着していた鳥のフンを取り除くため広告塔下面の鉄板に足を乗せたところ、鉄板に穴が空いてそのまま地面まで墜落した。	418	1	1～9
2000	1	14 ～ 15	国道下2mの場所でブロック積みの作業中、三叉路を右折してきた軽乗用車が誤ってハンドルを切りすぎて路肩を乗り越え転落してきたため、下敷きになった。	231	17	1～9
2000	12	0 ～ 1	鉄骨造の3階建住宅解体工事において、脚立上で3階壁の鉄骨をガス溶断していたときに壁が倒れてきて下敷きになった。	418	5	1～9

2000	9	14 ～ 15	電柱の撤去工事に伴う電線撤去の準備作業で梯子を電線(活線ではない)に立てかけて作業を行っていたときに誤って充電部分に接触し感電した。	351	13	10～ 29
2000	8	9 ～ 10	エレベーターホールの中でガス溶断具を用いてエレベーターの吊り下げワイヤーを溶断したところ、カウンターウエイト(重量約700kg)が上部から落下してきて直撃された。	214	4	10～ 29
2000	8	13 ～ 14	建物の解体工事において、ドラグショベルでコンクリート壁(高さ5m、幅7m、厚さ18cm)を解体しようとしていたところ、急に壁が倒れてショベルの運転席にコンクリート塊が直撃してきた。	142	5	1～9
2000	7	10 ～ 11	資材置場で廃材を可燃物と不燃物に仕分けを行っていたところ、作業服下衣に接着剤が付着していたため両手で廃材を焼却していた火(直径2メートル程)にくべようとしたときに野焼きの火が引火した。	512	16	10～ 29
2000	7	10 ～ 11	倉庫のスレート屋根付近の現在使用していない配管の撤去のためスレート屋根上に登っていたとき、スレート屋根を踏み抜き倉庫の床まで墜落(高さ4.97m)した。	415	1	1～9
2000	8	11 ～ 12	巻き取り機械(重さ4t)を工場からトラック(11t)荷台に積むためワイヤー2本で玉掛けして移動式クレーン(25t)で吊り上げ約10cm地切りしたときに、機械が横転して付近にいたが機械と地面との間に挟まれた。	612	7	10～ 29
2000	1	14 ～ 15	立体自動倉庫の組立工事において、高さ8mの歩み板上で組立部材を引き上げ、幅10cmの角材上を移動していて墜落した。	416	1	1～9
2000	8	13 ～ 14	雨樋の取付のため、外部足場上で電気ドリルを用いてビス(長さ約4cm)を建屋の側壁に打ち込んでいたときに、ビスが建屋内側のケーブル(三相200V)に接触して、感電死した。	169	13	1～9
2000	7	9 ～ 10	トンネル上部の表層部分の地質調査に使用するモノレール設置工事において、山の急斜面で設置ルートの確認作業中に、トンネル上部の斜面(約45度)から河原まで高さ約36mを滑落した。	711	1	30～ 49

2000	8	14 ～ 15	暖房設置工事において、配管作業に必要な部品を取りに下へ降りるため、天井クレーン上から高所作業車の搬器へ移動しようとした搬器周囲の手すり不足を掛けたときにバランスを失い、4.9メートル下に墜落した。	146	1	30～ 49
2000	10	15 ～ 16	ガラスカレットシュート(300×600×3057mm、290kg)の取り付け作業をしていたところ、シュートが落下してその下敷きとなった。	391	4	10～ 29
2000	9	10 ～ 11	爆発災害で屋根及び外壁等に被害のあった近隣事業場の応急措置を行う作業において、倉庫のスレート葺き屋根に穴が開いた箇所にビニールシートを被せる作業中にスレートを踏み抜き約9.5m下に墜落した。	415	1	1～9
2000	7	14 ～ 15	産業廃棄物処理施設内で行った車止めの設置工事の確認のため、施設内の道路を横断していたときにバックできたゴミ収集車に激突された。	221	6	1～9
2000	9	19 ～ 20	石綿除去作業の準備のためビニールシートで養生しているときに、ステージ足場(高さ3m)から墜落した。	411	1	10～ 29
2000	8	9 ～ 10	学校の耐震補強工事に使用する鋼材の耐震補強フレーム6枚(一枚1t～1.5t)を、トラックで搬入し、耐震補強フレームを1枚取り除いたときにトラックが傾いて耐震フレーム5枚と荷台に乗っていた者が墜落し、その下敷きになった。	521	5	1～9
2000	4	10 ～ 11	給水配管の取替工事で、塔屋屋上の給水配管の下見作業中に工具を取りに塔屋屋上から既設のはしごを降りていて高さ5mのところから墜落した。	418	1	10～ 29
2000	1	13 ～ 14	7階建建物の解体工事で屋上に建設重機を上げるため、コンクリートガラを落とし用開口部付近にパイプサポートを設けるための墨出し作業中に、高さ11mの5階開口部から1階まで墜落した。	414	1	10～ 29
2000	10	21	産業廃棄物の燃焼炉の落ち口のスラグをはつっていたときに、落ち口の下部にある冷却函のスラグチョッパー(氷柱上になったスラグを切り落とす	391	8	30～ 49

		22	もの)により頸椎を切断された。			
2000	6	8 ～ 9	製油所の原油タンクの定期修理工事において、タンク底板の補修作業のため屋根を支える仮サポートを調整していたときに、屋根が陥没したため屋根とタンク側板との間にはさまれた。	418	7	10～ 29
2000	3	10 ～ 11	住宅屋上の防水工事で、共同作業者と2人で墨出し作業のためチョークラインの一方を持って後ずさりしたときにパラペットを乗り越え高さ14.2メートルの屋上から墜落した。	418	1	1～9
2000	2	14 ～ 15	海岸改良工事において、トラクター・ショベルで仮設用道路の脇に砂を運搬していたときに工事用写真の準備作業をしていた労働者2名をひいた。(1名死亡、1名休業)	141	7	30～ 49
2000	7	16 ～ 17	乗用式草刈機で川岸の法面の草刈作業を終了し、法面を登っているときに機械が揺れたためあわてて飛び降りたが、その際に誤って草刈機のギアを後進に入れてしまったため草刈機に激突された。	169	6	10～ 29
2000	8	17 ～ 18	民家の庭木剪定作業を終えトラックで県道を走行中、県道と市道の交差点で市道を走行してきた乗用車と出会い頭に衝突し、トラックの助手席から車外に放り出されて横転したトラックの下敷きになった。	231	17	1～9
1999	3	11 ～ 12	工業用水管の撤去作業で誤って酸素管を溶断してしまった。約1時間後溶断部を溶接しようとしたところ、アーク溶接の火花が作業員の作業服に引火し全身火傷を負った。	519	11	100 ～ 299
1999	3	11 ～ 12	8階建ビル屋上に設けられた店舗広告板(パネルサイン)取り替えで、広告版の前側に丸太一側足場を組立中、張り出し材である丸太材を吊っていたワイヤーロープの一端が取付箇所から外れて、丸太が転位したため墜落した。	411	1	1～9
1999	7	11 ～ 12	港に新設される航路の安全確保のため、海底にある磁気物体の引き上げ作業を潜水作業で行っていたところ、船のスクリューにエアースが絡まり頭部を負傷した。	239	7	1～9
		15	倉庫の雨樋の補修作業のため、屋根上で切断した既設の波形鉄板を搬出す			

1999	6	～	る作業を行っていたときに、木毛板を踏み抜き、約6メートル下の床上に	415	1	1～9
	16		転落した。			
1999	12	～	旅館の鳩除けのネットを取付ける作業中、作業床としていた2階軒屋根(地	415	1	1～9
	14		上高5, 93m)から墜落した。			
	15					
1999	12	～	事業主が運転するフォークリフトに作業者を作業道具と一緒にパレットに	222	7	10～
	13		乗せ作業現場に運んでいるときに、パレットに乗っていた者がフォークリ			29
	14		フトの車輪に巻き込まれた。			
1999	12	～	水位計防波管(塩ビ管)取付けのため、移動式クレーンでポンプを降ろす作	712	1	10～
	9		業を開始しようとしたところ、隣地から伸びている立木(高さ約20メー			29
	10		トル)の枝がジブに当って作業に支障があるので、枝を伐採するため立木に			
	9		登ったところ、約8メートルの高さから地面に墜落した。			
1999	12	～	社長が運転するワゴン車の助手席に同乗し走行中に、S字カーブでアイス	231	17	1～9
	11		バーンのため車がスリップして対向車線にはみ出し、対向の11トントラッ			
	12		クと正面衝突した。			
1999	11	～	7階建ビル屋上の看板を取外した後、鉄骨内部の梁の塗装作業を行ってい	411	1	1～9
	14		てバランスを崩し、12m下のビル屋上のコンクリート床に墜落した。			
	15					
1999	11	～	瓦焼成用トンネルキルンの解体撤去工事において、トンネルキルン(窯)の	341	7	10～
	15		上でガス溶断作業中、側壁のない窯の天井部分が落下したため、天井上部			29
	16		の鉄製のダクトと窯本体天井部分との間に頭部を挟まれた。			
1999	11	～	火力発電所の海岸から約120m沖に設置されている2次冷却水取水設備の	713	10	10～
	10		ゴミ除けスクリーンの据え付け作業のため、潜水作業中に内径50cmの取			29
	11		水口に吸い込まれて、管内に約20分間閉じ込められ、意識なく呼吸停止状			
	11		態で救出されたが溺死した。			
1999	11	～	小学校校舎の屋根上に設置された給水用高架水槽の外壁塗装工事で、勾配	415	1	1～9
	10		のある屋根上に移動式クレーンで吊り上げられ仮置きされた鋼管枠足場の			
	11					

		11	束の番線を切断したところ、鋼管枠足場が崩れて足場もろとも13m下のアスファルトの地上に墜落した。			
1999	10	9 ～ 10	スレート屋根上に集積していた土のう袋を移動式クレーンを使用して吊りおろす作業で、土のう袋を持って移動していたときに、スレートを踏み抜き、7m下の工場敷地に墜落した。	415	1	1～9
1999	10	14 ～ 15	炭素珪素(SiC)製造電気炉に使用する電極スイッチ(セレクションスイッチ：重さ約600Kg)の予備一基が保管されている倉庫内において、スイッチを載せている台車の取り替えを行うためスイッチの前後を自動車用ジャッキで持ち上げたときに、スイッチが倒れて下敷になった。	352	5	50～ 99
1999	9	12 ～ 13	台風による緊急工事のため会社の軽トラックで現場に移動中、県道交差点でパトカーに追われて赤信号を無視して進入してきた乗用車と衝突した。	231	17	1～9
1999	9	9 ～ 10	コンクリート製品工場のプラント解体工事において、コンクリート型枠搬送機の型枠を吊っていた巻上用チェーン2本を誤ってガス溶断したため、型枠(重量・476kg)が約1mの高さから落下してきて下敷きになった。	391	4	10～ 29
1999	10	11 ～ 12	工場の樋、水切り等の交換、補修工事の見積もりのため、屋根に登って調べているときにスレート板を突き破り、高さ約4m下に墜落したものの。	415	1	1～9
1999	9	13 ～ 14	橋梁の塗装工事用足場の組立作業中、端(はな)足場丸太の段違いを修正するため、橋のランカン支柱から垂らしたチェーンを持って丸太に足を乗せ弾みをつけて上から踏みつけたときに、ランカン支柱に回して止めていたチェーンのフックが外れ約7m下の河床まで墜落した。	411	1	1～9
1999	7	15 ～ 16	雨のため作業を切り上げて自家用軽貨物車で走行中、緩い左カーブのところで缶ジュースをサイドブレーキ下のカップホルダーに置こうとして、対向車線にはみ出し、対向の大型貨物(最大積載量10t)に正面衝突した。	231	17	1～9
1999	9	10	高炉修復工事の準備作業として、屋外作業通路に照明設備の取り付け作業を行っていて鉄製通路の床を踏みぬき、約9m下の地上に墜落した。	417	1	30～ 49

		11				
1999	8	9 ～ 10	廃棄物処分場で分別したガラスを入れるための容器をグラップル付ドラグショベルで運ぶ途中、方向転換しようとして後進したときに堤防路肩部分から4. 2メートル下にある川にショベル共に転落し、ショベルの下敷きになった。	149	2	10～ 29
1999	8	9 ～ 10	解体する工場内の天井クレーンをガス溶断作業をするため、高さ3・7メートルのローリングタワー上で準備作業を行っていてコンクリート地面に墜落した。	411	1	10～ 29
1999	8	11 ～ 12	工場の天井裏にある空調ダクトの移設作業において、移設した空調ダクトのつなぎ目をボルト締めするため天井裏を移動中に、釣り木及び野縁がともに折れ約4. 1m下に墜落した。	418	1	1～9
1999	7	14 ～ 15	建物2階外壁の冷暖房設備の配管工事中、建物1階屋根から建物2階外壁に脚立を使用し作業をしていて約10メートル下のコンクリート床に墜落した。	371	1	1～9
1999	8	11 ～ 12	ホテルに新しいエレベーターを設置するため、4階エレベーター機械室のピットスラブコンクリートのはつり作業を行って、コンクリートガラを集めていたときに、足元のスラブコンクリートが抜け落ち、19. 5m下のエレベーターピットに墜落した。	418	1	10～ 29
1999	8	11 ～ 12	植栽に使う苗木を車輛積載型トラッククレーンに積載して走行中、カーブを曲がりきれずにガードレールを突き破り50メートル下の谷底へ車ごと転落した。	212	17	10～ 29
1999	8	9 ～ 10	鋳造工場のガス取り出し金具取り替え工事で、キューポラ上部ふたの開閉金具の取り外し作業中、安全帯をかけかえるため、安全帯を外し、開閉金具に手をかけたところ、止め金が腐食していたため外れて、約3m下の屋根へ開閉金具とともに転落し、さらにスレート屋根を突き破って約15mに墜落した。	415	1	10～ 29
		10	共同所有のシーバース(洋上原油陸揚げ装置)のパイプラインのフランジボ			

1999	8	～	ルト交換のため、水深約33mの地点でフーカー式潜水器を用いて潜水作業	713	10	1～9
	11		を行っていて死亡した。			
1999	6	～	軽四トラックにて帰社するために、国道を走行中、前方で信号待ちのため	221	17	10～
	10		停車していた保冷車を発見し、追突を避けるため左ハンドルを切ったところ縁石に乗り上げ、横転した。			29
1999	1	～	S造2階建て事務所の解体作業中に、高さ3.8メートルのひさし部分から	418	1	10～
	15		墜落した。			29
1999	4	～	下水処理場の焼却炉棟1階においてボイラ給水配管取り替えのため、ロー	411	1	30～
	16		リングタワー上でフランジ接合部分のボルト締め作業をしていてローリングタワーから床に転落した。			49
1999	5	～	鉛溶鉱炉のベルホッパーの集塵設備の改良を行うために配管寸法を測って	391	7	1～9
	17		いたときに、ベルホッパーの上蓋の開閉用アームと鉄柱との間に頭部を挟まれた。			
1999	3	～	古くなった工業用水管の撤去作業で、誤って酸素管を溶断してしまったので酸素の供給を停止して作業員3名が溶断部の溶接をしようとしたところ、アーク溶接の火花が作業員の作業服に引火し、作業員3名が被災した。	519	11	1～9
1999	3	～	倉庫にある麦の乾燥設備取り外し工事現場において、作業が終了して後片	417	2	1～9
	4		付けを行っていたときに体勢を崩して転倒し、倉庫の床に置いてあった角パイプに後頭部を打ちつけた。			
1999	2	～	貨物線の列車検知用インピーダンスボンダ導線1組を取り替えるため、片	232	18	1～9
	13		ねこトコ2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。			
1999	2	～	貨物線の列車検知用インピーダンスボンダ導線1組を取り替えるため、片	232	18	1～9
	12		ねこトコ2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところ			

		13	へ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。			
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこトコ2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。	232	18	1～9
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこトコ2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。	232	18	1～9
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこトコ2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。	232	18	1～9
1999	4	9 ～ 10	工場内の梁の塗装をつり足場と天井クレーンのクラブ上に仮設した足場を使用して作業を行っていたときに、足場から足を踏み外して約20m下のコンクリート床に転落した。	414	1	10～ 29
1999	4	17 ～ 18	二階建カラオケボックス屋上のネオンサイン取り付け工事において、一部ペンキの塗り残しがあったので、屋上に上がっていた2人のうち1人が下にペンキを取りに行った間に、屋上に残った者が約高さ10メートルの所から墜落した。	415	1	10～ 29
1999	3	10 ～ 11	木造三階建民家の屋根にソーラーを取り付けるため、はしごから屋根に移ろうとしたときにバランスを崩し地面に墜落した。	371	1	10～ 29
1999	1	16 ～ 17	配管・ラック塗装工事のための吊足場を設置する作業で、足場上部の単管のクランプ取り付ける作業終了後、足場作業床に降りようとしたときにバランスを崩し、高さ4.9mの足場作業床から墜落した。	411	1	1～9

1999	1	15 ～ 16	キューポラの定修に伴う炉床の解体作業で、底部より炉床砂の塊をピット内に落とすため、ワイヤーをかけてチェーンブロックにより引よせていたところ、同塊がピット内に落ちたためチェーンが振れて近くに吊られていたピットの蓋を跳ね上げ、ピット蓋と後方にあった鋼製のパイプとの間に胸部を挟まれた。	361	6	10～ 29
1999	1	13 ～ 14	エチレンを製造するプラントにおいて、急冷熱交換とフラッシュドラムを結ぶ蒸気配管の漏洩箇所を補修するために保温解体作業の準備を行っていたところ、蒸気配管の漏洩箇所付近が突然破裂し、付近にいた労働者が打撲と火傷を受けた。	391	15	10～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。